

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【令和4事業年度報告書】

令和6年3月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成 17 年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者の Q O L の向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成 18 年 4 月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る Q O L 向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るQOL向上等のための調査研究班〕

小 澤 温	筑波大学大学院・人間総合科学研究科 教授（生涯発達専攻）
金 子 美 子	京都府立医科大学呼吸器内科・教育センター 講師（呼吸器内科学）
高 橋 孝 雄	新百合ヶ丘総合病院・発達神経学センター センター長（小児科学）
坪 田 一 男	株式会社坪田ラボ 代表取締役社長（眼科学）
松 永 千恵子	群馬医療福祉大学大学院 特任教授（社会福祉学）

目 次

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査研究事業の実施概要	1
1. 目 的	3
2. 事業内容	3
II 生活状況調査結果のとりまとめについて	5
(1) A票（福祉サービスの利用状況についての調査）から見た生活状況の概要	8
■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	8
■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	10
■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	11
① 同行援護	11
② 就労移行支援	11
③ 就労継続支援 A 型	12
④ 就労継続支援 B 型	12
⑤ 上記以外のサービス	12
■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について	14
① 訪問介護	14
② 訪問入浴介護	15
③ 訪問看護	15
④ 訪問リハビリテーション	15
⑤ 居宅療養管理指導	16
⑥ 通所介護	16
⑦ 通所リハビリテーション	16
⑧ 短期入所	17
⑨ 送迎サービス	17
⑩ その他の福祉サービス	18
⑪ 福祉サービスの年間利用状況	19
■ 診察回数の状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	20
⑫ SJS 専門医への診察回数の状況	20
⑬ SJS 専門医の診察で通院に係る交通費	20
⑭ 入院の有無	21
(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要	22
■ 健康被害者の外出について	22
① 外出の頻度	22

①-1 外出に当たっての介助者	24
■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて	26
② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	26
②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと	28
②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	30
②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	32
②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	34
②-2 外出する上で工夫したこと	36
■ 社会参加や社会活動について	37
③ 社会参加・社会活動等の状況	37
③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）	39
③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）	41
③-3 社会参加・社会活動等の内容	42
■ 屋内での生活における工夫について	44
④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）	44
④-1 屋内での生活における工夫【家のづくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	46
④-1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	48
④-1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	50
④-1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	52
④-2 屋内での生活における工夫	54
■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	55
⑤日常生活について	55
⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて	55
⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について	57
⑤-3 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合	59
⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無	61
⑤-5 呼吸器領域に関する診断の有無	63
⑤-6 呼吸器に関する症状の有無	65
⑤-7 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】	67
⑤-7 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】	69
⑤-7 視力以外の状況【聴覚に関する症状】	71
⑤-7 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】	73
⑤-7 視力以外の状況【口腔に関する症状】	75
⑤-7 視力以外の状況【精神的な症状】	77
⑤-7 視力以外の状況（その他の後遺症等）について	79
■ 主たる介護者の状況について	81
◎主たる介護者	81
⑥主たる介護者の健康状態	82

⑥-1 主たる介護者の健康状態 詳細	84
⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無	86
⑦-1 介護をしていく中で困ったこと	88
⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか	90
⑦-3 解決策の有無	92
⑦-4 困ったことの解決策	94
⑦-5 困ったことの解決方法	95
⑧ 主たる介護者を支えるものの有無	97
⑧-1 介護者を支えるもの 具体的内容	99
⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況	100
⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）	102
⑨-2 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）	104
⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容	105
⑩ 新しい発見や気分転換などの有無	107
⑩-1 新しい発見や気分転換について	109
(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要	110
■ 治療状況	110
① 健康被害を受けた方の治療状況	110
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること	111
②-1 通院時に注意している点	111
②-2 治療を受けるときに注意している点	113
②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJS の健康被害者の方のみに質問）	114
②-4 その他注意している点	115
■ 過去1年間の日常生活について	116
③ 困ったことの有無	116
③-1 困ったことについて	117
③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか	118
③-3 解決策の有無	119
③-4 解決策について	120
③-5 解決方法について	121
④ 日常生活の満足度	122
④-1 満足度の理由について	123
⑤ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて	125
⑤-1 実現可能性	127
⑤-2 実現可能性の理由について	128
⑥ 日常生活における工夫点	129
⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答） ..	130

⑦-1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）	131
■ 福祉サービスについて	132
⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）	132
■ 必要な情報について	133
⑨ 必要な情報について（複数回答）	133
⑨-1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）	135
III む す び	137
IV 参 考 資 料	141
V 用語の解説	177
VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書（生活状況調査票）	183
VII 健康状態報告書（診断書様式）	233
VIII 自由欄に記載されたお悩み事項についてのFAQ	241

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るＱＯＬ向上等の
ための調査研究事業の実施概要

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る QOL向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目 的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)

D票(健康状態報告書(医師記入用))

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記 入 時 期	提 出 時 期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の（6月、9月、12月、3月）末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医師が記入する。	1月10日までに本人が提出

Ⅱ 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、以下のとおりである。

第1・四半期：66名中53名（回収率80.3%）うちライ症候群：5名、SJS：48名

第2・四半期：66名中54名（回収率81.8%）うちライ症候群：6名、SJS：48名

第3・四半期：66名中52名（回収率78.8%）うちライ症候群：6名、SJS：46名

第4・四半期：65名中52名（回収率80.0%）うちライ症候群：5名、SJS：47名

特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおりである。

また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表－1 男女・年代別（人数）

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男	0	0	2	1	2	9	4	5	2	25
女	0	0	1	0	3	8	7	7	4	30
合計	0	0	3	1	5	17	11	12	6	55

表－2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	3	22	25
女	3	27	30
合計	6	49	55

表－3 疾病・年代別（人数）

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
ライ症候群	0	0	3	0	2	1	0	0	0	6
SJS	0	0	0	1	3	16	11	12	6	49
合計	0	0	3	1	5	17	11	12	6	55

3. 調査結果の概要

(1) A票（福祉サービスの利用状況についての調査）から見た生活状況の概要

■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○SJS の健康被害者が現在使用している点眼液は、表 1-1 のとおりである。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表 1-1 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	23	23	23	25	25	25	21	20	20	23	23	22	22.8
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.1
	左眼	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
	合計	24	24	24	25	26	26	22	22	21	24	24	23	23.8
② クラビット	両眼	3	3	3	2	2	2	5	2	2	1	2	1	2.3
	右眼	1	1	1	0	0	0	1	1	1	2	2	2	1.0
	左眼	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1.6
	合計	5	6	6	3	3	3	7	5	5	5	6	5	4.9
③ ヒアレイン	両眼	2	2	2	2	2	2	5	3	4	5	4	4	3.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.1
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	2	2	2	2	2	2	5	4	4	5	4	4	3.2
④ フルメトロン	両眼	22	23	23	20	19	19	21	21	20	19	19	20	20.5
	右眼	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.3
	左眼	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1.2
	合計	26	27	26	23	23	22	24	24	23	23	22	24	23.9
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	22	22	22	23	22	22	20	18	18	20	20	20	20.8
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
	合計	23	23	23	23	23	23	21	19	19	21	21	21	21.7
⑥ リンデロン	両眼	2	2	2	3	2	3	2	1	1	4	4	4	2.5
	右眼	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.1
	左眼	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.3
	合計	4	4	4	4	4	4	3	2	2	5	5	5	3.8
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	8	8	8	7	6	7	7	8	8	6	6	6	7.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.3
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	8	8	8	7	6	7	7	8	8	7	7	7	7.3
⑧ 血清点眼	両眼	6	6	5	5	5	4	5	4	3	4	4	4	4.6
	右眼	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0.9
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	7	7	6	6	6	5	5	5	4	5	5	5	5.5
⑨ その他眼科処方薬	両眼	39	39	37	38	35	35	34	34	32	35	34	32	35.3
	右眼	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	1	2	1.7
	左眼	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2.3
	合計	43	43	41	41	40	39	39	38	36	38	37	36	39.3
⑩ 涙点プラグ	両眼	3	3	3	4	4	3	3	3	2	3	3	3	3.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	3	3	3	4	4	3	3	3	2	3	3	3	3.1
SJS回答者数		47	47	47	48	48	48	48	48	48	46	46	46	—
点眼液投与患者数		46	46	44	46	46	45	46	46	47	44	44	44	—

□ 月々の点眼液を使用している平均延べ人数では、フルメトロンが 23.9 人、ソフトサンティアが 23.8 人、0.1%ヒアレインミニが 21.7 人となっている。

○SJS の健康被害者が使用している点眼液の推移は、表 1－2 及び図 1－1 のとおりである。

表 1－2 使用している点眼液の推移

点眼液	平成29年度 平均	平成30年度 平均	令和元年度 平均	令和2年度 平均	令和3年度 平均	令和4年度 平均
① ソフトサンティア	21.5	21.6	22.8	23.4	22.6	23.8
② クラビット	9.5	7.0	7.5	5.4	3.8	4.9
③ ヒアレイン	3.4	3.9	4.7	2.1	3.1	3.2
④ フルメトロン	23.8	25.3	24.9	25.5	24.0	23.9
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	19.4	21.3	19.1	19.9	20.9	21.7
⑥ リンデロン	4.1	3.6	3.7	3.3	3.9	3.8
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	9.3	8.6	7.9	8.7	6.8	7.3
⑧ 血清点眼	7.6	7.2	6.6	7.0	7.4	5.5
⑨ その他眼科処方薬	64.7	70.2	64.6	43.8	46.3	39.3
⑩ 涙点プラグ	5.8	5.6	5.6	4.0	0.9	3.1

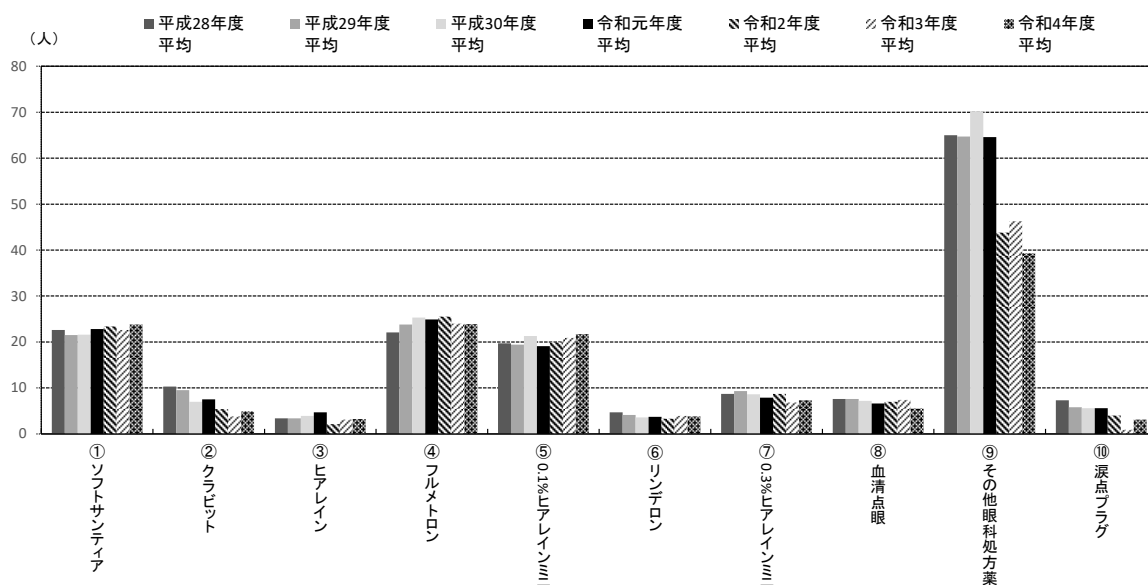


図 1－1 使用している点眼液の推移

■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

表 1-3 福祉サービスの月別の利用状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
①障害者総合支援法に基づく福祉サービス	20	20	20	21	21	21	20	21	20	22	22	22	20.8
②介護保険制度に基づく福祉サービス	10	8	8	8	8	8	9	9	8	7	8	8	8.3
③上記①②以外の福祉サービス	5	5	5	5	5	5	6	6	6	7	7	7	5.8

□ 利用者数は「①障害者総合支援法に基づく福祉サービス」は延べ 250 人で、平均では毎月 20.8 人が、「②介護保険制度に基づく福祉サービス」は延べ 99 人で、平均では毎月 8.3 人が、「③上記①②以外の福祉サービス」は延べ 69 人で、平均では毎月 5.8 人が利用している

○ 「③上記①②以外の福祉サービス」の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 高速道路の割引サービス
- ・ 障害福祉サービス受給者証の支給
- ・ 月一度の見守り
- ・ 自治体の緊急介護人制度
- ・ 音訳サービス
- ・ 国民健康保険制度による訪問看護サービス
- ・ 訪問ボランティアによる片付けサポート
- ・ 自治体の障害者福祉会館での視覚障害者文字サービス(代読・代筆サポート)
- ・ 在宅訪問による PC サポート
- ・ 地域ボランティアによる詠み上げサポート
- ・ 地元公共図書館における蔵書書籍朗読サービス
- ・ 週一回の訪問薬剤管理サポート
- ・ サピエ
- ・ 自治体の福祉特別乗車券の支給

■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の 4 段階で評価する。

- ・ 満足： 4 点
- ・ やや満足： 3 点
- ・ やや不満： 2 点
- ・ 不満： 1 点

① 同行援護

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、同行援護の利用状況は、表 1-4 のとおりである。

表 1-4 同行援護の月別の利用状況

同行援護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	14	14	15	16	16	16	16	16	15	15	15	15	15.3
平均利用日数（日）	5.4	5.5	5.1	5.8	6.0	5.6	5.5	5.3	5.7	5.4	4.9	5.8	5.5
満足度平均（4点満点）	3.4	3.2	3.3	3.6	3.7	3.6	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5

□ 利用者数は延べ 183 人で、平均では毎月 15.3 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 5.5 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると 3.5 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「安心して外出や移動が出来る」などをあげる一方、「急用の際にはヘルパーさんの予約が取れないで困る」という意見もあった。

② 就労移行支援

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労移行支援の利用状況は、表 1-5 のとおりである。

表 1-5 就労移行支援の月別利用状況

就労移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

□ 本年度の利用者はなかった

③ 就労継続支援 A 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 A 型の利用状況は、表 1-6 のとおりである。

表 1-6 就労継続支援 A 型の月別の利用状況

就労継続支援A型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.3
平均利用日数（日）	5.0	-	-	-	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-	2.7
満足度平均（4点満点）	-	-	-	-	-	-	4.0	4.0	-	-	-	-	4.0

□ 利用者数は延べ 3 人で、平均 0.3 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 2.7 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均 4.0 点となっている

④ 就労継続支援 B 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 B 型の利用状況は、表 1-7 のとおりである。

表 1-7 就労継続支援 B 型の月別の利用状況

就労継続支援B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0.9
平均利用日数（日）	5.0	5.0	5.0	20.0	20.0	20.0	-	2.0	7.0	4.0	1.0	2.0	8.3
満足度平均（4点満点）	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0	-	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.4

□ 利用者数は延べ 11 人で、平均 0.9 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 8.3 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均 3.4 点となっている

⑤ 上記以外のサービス

○ 上記①～④以外の障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-8 のとおりである。

表 1-8 その他障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況

上記以外のサービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	7	7	8	8	9	8	8	7	9	9	8	8	8.0
平均利用回数（回）	6.7	6.4	6.0	6.8	6.0	5.8	5.6	5.7	5.7	5.9	4.6	6.0	5.9
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.5	3.2	3.5	3.5	3.5	3.6

□ 利用者数は延べ 96 人で、平均では毎月 8.0 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 5.9 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「部屋がきれいになると体調が良くなる」「買い物に行けないので助かる」などをあげている

○具体的な「⑤上記以外のサービス」の内容は、以下のとおりである
（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 買い物
- ・ 家事援助、生活支援、代読・代筆
- ・ 家事援助
- ・ 通院等介助(身体介護無)通院のため付添い送迎
- ・ ホームヘルパー
- ・ 家事援助・ 買い物・ 朗読CD貸し出
- ・ 家事援助・ 印刷物やスマホ操作サポート
- ・ 家事援助、買物、粗大ゴミ出し等

■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の4段階で評価する。

- ・ 満足： 4 点
- ・ やや満足： 3 点
- ・ やや不満： 2 点
- ・ 不満： 1 点

○ 併せて、平成29年度～令和3年度の平均値も示す。

① 訪問介護

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況および介護内容は、表1-9、表1-10のとおりである。

表1-9 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	6	7	6	6	7	6	8	6	7	6	5	5	6.3	5.9	3.2	4.6	3.2	3.3
平均利用日数（日）	16.3	15.0	16.2	17.5	14.1	14.3	15.5	18.5	15.4	16.8	19.6	21.4	16.7	17.5	24.9	18.1	22.2	22.4
満足度平均（4点満点）	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.7

表1-10 介護内容の月別の状況

介護内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
身体介護中心型	5	7	4	5	9	6	6	8	4	5	7	4	5.8	3.5	2.1	2.8	2.1	2.3
生活援助中心型	5	5	5	4	3	4	5	4	5	3	3	3	4.1	4.0	2.3	4.2	2.3	1.7
通院等乗降介助	1	0	1	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0.7	0.2	0.1	0.4	0.2	0.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1

□ 利用者数は延べ75人で、平均では毎月6.3人が利用している

□ 平均利用日数は月に16.7日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると3.7点となっている

□ 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている」「苦手な家事もやってくれる」などをあげている

② 訪問入浴介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表 1-11 のとおりである。

表 1-11 訪問入浴介護の月別の利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	2.0	2.4	3.0	2.8	2.8
平均利用日数（日）	19.0	18.5	19.5	16.0	14.0	17.0	18.0	16.5	19.5	18.0	17.5	20.5	17.8	17.3	18.9	19.4	18.6	18.3
満足度平均（4点満点）	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0	3.3	3.4	3.4	3.5

- ☐ 利用者数は延べ 24 人で、平均では毎月 2.0 人が利用している
- ☐ 平均利用日数は月に 17.8 日となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 2.9 点となっている
- ☐ 満足度の理由としては「ヘルパーさんによって差がある」「家族も付き添う必要がある」などをあげている

③ 訪問看護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-12 のとおりである。

表 1-12 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	4	3	4	5	5	5	4.2	3.7	3.0	3.3	2.7	2.9
平均利用日数（日）	4.8	4.8	5.3	4.0	4.3	4.8	5.5	6.0	5.8	4.6	4.0	5.4	4.9	4.7	4.8	5.0	4.6	5.7
満足度平均（4点満点）	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.2	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4

- ☐ 利用者数は延べ 50 人で、平均では毎月 4.2 人が利用している
- ☐ 平均利用日数は月に 4.9 日となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「丁寧に体調を確認してくれる」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-13 のとおりである。

表 1-13 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3.5	4.3	3.7	4.4	4.7	4.8
平均利用日数（日）	6.3	6.8	7.0	7.0	5.3	7.7	6.7	7.7	6.3	6.5	6.8	7.5	6.8	6.9	7.6	7.6	7.3	6.7
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2

- ☐ 利用者数は延べ 42 人で、平均では毎月 3.5 人が利用している
- ☐ 平均利用日数は月に 6.8 日となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「身体のことをよく分かっている」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-14 のとおりである。

表 1-14 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	4.3	3.0	2.9	4.8	3.0
平均利用回数（回）	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	0.9	1.3
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.9	3.7

- ☐ 利用者数は延べ 36 人で、平均では毎月 3.0 人が利用している
- ☐ 平均利用回数は月に 1.3 回となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「安心できている」などをあげている

⑥ 通所介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-15 のとおりである。

表 1-15 通所介護の月別の利用状況

通所介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	6	5	5	5	5	5	6	6	6	4	5	5	5.3	4.2	2.9	3.1	2.9	2.0
平均利用回数（回）	12.3	14.0	14.8	12.8	11.0	14.8	12.5	13.0	11.7	12.0	12.8	15.8	13.1	13.8	15.7	14.6	15.2	12.8
満足度平均（4点満点）	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.5	3.6	3.5

- ☐ 利用者数は延べ 63 人で、平均では毎月 5.3 人が利用している
- ☐ 平均利用回数は月に 13.1 回となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「お風呂も食事も満足している」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-16 のとおりである。

表 1-16 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	3	3	3	4	3	3	3	3	3	4	4	4	3.3	4.3	3.3	4.3	4.0	4.0
平均利用回数（回）	6.3	8.0	7.3	5.8	7.3	7.7	8.3	8.3	8.0	6.0	6.0	6.3	7.1	6.7	6.7	6.2	6.1	5.8
満足度平均（4点満点）	3.5	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.8	3.8	3.3	3.5	3.7	3.6	3.4

- ☐ 利用者数は延べ 40 人で、平均では毎月 3.3 人が利用している
- ☐ 平均利用回数は 7.1 回となっている
- ☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている
- ☐ 満足度が高い理由としては「普通のジムは視力障害者は利用できないため」「運動不足解消になる」などをあげている

⑧ 短期入所

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、短期入所の利用状況および入所内容は、表 1-17、表 1-18 のとおりである。

表 1-17 短期入所の月別の利用状況

短 期 入 所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0.5	0.1	0.1	0.6	1.4	1.1
平均利用回数（回）	-	2.0	2.0	2.0	1.0	-	3.0	-	-	-	-	3.0	2.2	1.0	1.0	2.3	3.0	1.0
満足度平均（4点満点）	-	2.0	2.0	2.0	3.0	-	2.0	-	-	-	-	4.0	2.5	3.0	3.0	3.3	3.3	2.7

表 1-18 入所内容の月別の利用状況

入所内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0.3	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	1	2	2	2	2	1	1	0	1	1	0	0	1.1	0.0	0.1	0.3	1.1	1.1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 利用者数は延べ6人で、平均では毎月0.5人が利用している
- 平均利用回数は月に2.2回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると2.5点となっている
- 満足度の理由としては「気疲れした」などをあげている

⑨ 送迎サービス

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-19 のとおりである。

表 1-19 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	5	6	5	6	6	5	6	6	6	6	6	6	5.8	5.6	4.3	5.7	6.3	5.6
平均利用回数（回）	6.4	7.0	7.0	6.2	6.0	6.4	7.0	7.2	6.3	5.7	6.5	7.0	6.6	7.4	8.2	5.1	5.2	6.0
満足度平均（4点満点）	4.0	4.0	4.0	3.8	3.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.4	3.4

- 利用者数は延べ69人で、平均では毎月5.8人が利用している
- 平均利用回数は月に6.6回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると3.8点となっている
- 満足度が高い理由としては「安全に利用できる」などをあげる一方、「料金を安くしてほしい」という意見もあった。

⑩ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑨以外の介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-20 のとおりである。

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R3 平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均
利用者数（人）	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	2	0.9	1.2	0.9	2.8	2.3	4.0
平均利用回数（回）	1	5	-	5	5	-	5	5	4	4	4	4	4.2	4.7	4.2	5.4	5.5	9.0
満足度平均（4点満点）	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	2.9	3.1	3.0	3.4	3.1	3.3

表 1-20 その他の福祉サービスの月別の利用状況

- 利用者数は延べ 11 人で、平均では毎月 0.9 人が利用している
- 平均利用回数は月に 4.2 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 2.9 点となっている
- 具体的なサービス内容としては「移動支援」「デイジー図書」「ヘルパー支援」をあげている
- 満足度の理由としては「とても楽しみにしている」などをあげる一方、「休日に予約が集中して行きづらい」などの意見もあった。

⑪ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑩に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図 1-2 及び図 1-3 のとおりである。

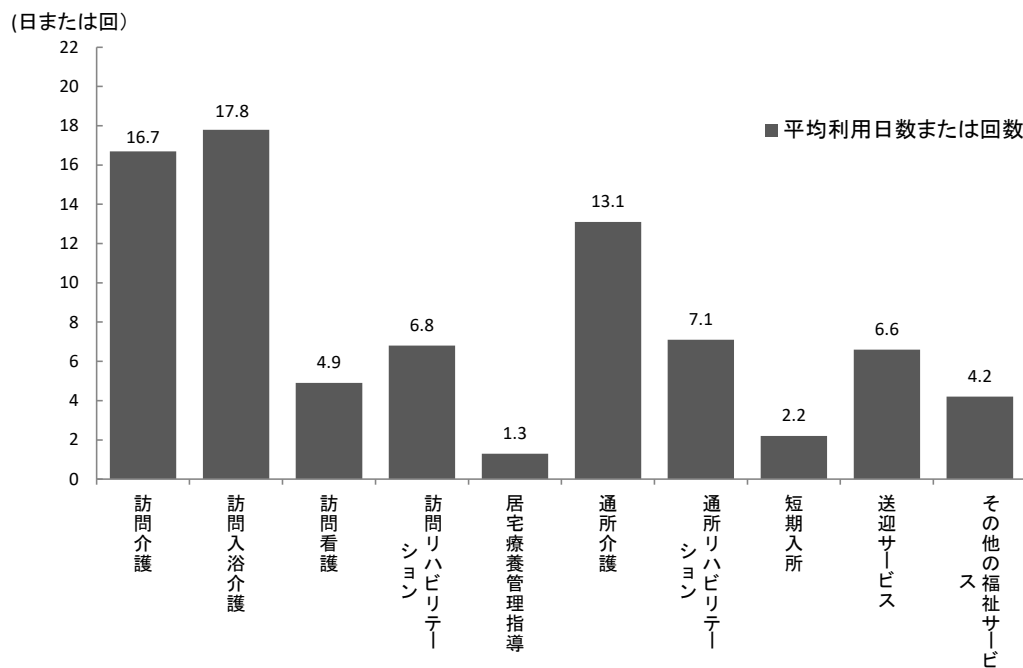


図 1-2 福祉サービスの年間利用状況

□ 1 年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、「訪問看護」、「通所介護」、「通所リハビリ」、「送迎サービス」が 3.8 点、「訪問介護」、「居宅療養管理指導」が 3.7 点となっている。

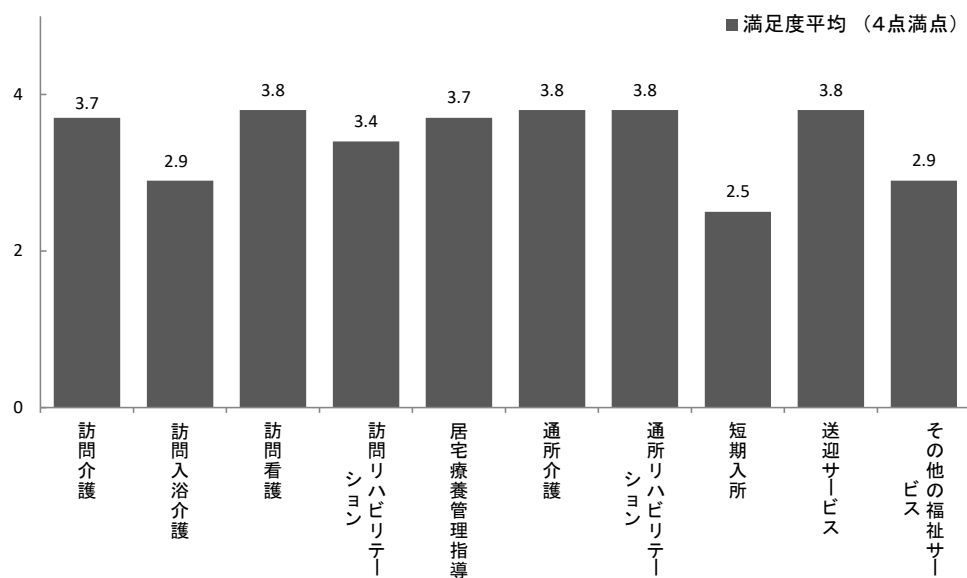


図 1-3 福祉サービスの満足度平均

■ 診察回数の状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑫ SJS 専門医への診察回数の状況

○SJS 専門医に受診した回数についてたずねた結果は、表 1-21 のとおりである。

表 1-21 SJS 専門医への診察回数の状況

利 用 状 況 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月に2回以上	8	7	8	7	7	7	5	7	7	7	6	7	6.9
月に1回程度	12	11	11	10	10	11	9	8	6	10	12	12	10.2
2ヶ月に1回程度	4	4	4	5	6	5	8	7	7	4	3	4	5.1
3ヶ月に1回程度	9	9	9	8	7	8	6	7	7	8	8	8	7.8
半年に1回程度	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.5
1年に1回程度	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	1.8
その他	2	2	3	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.6
行けていない	8	8	8	8	8	8	8	9	9	7	8	6	7.9
回答なし	6	8	6	9	9	8	9	8	10	8	7	7	7.9

□通院回数は平均で「月に 1 回程度」と回答した人が 10.2 人、「3 ヶ月に 1 回」が 7.8 人、「月に 2 回以上」が 6.9 人となっている

□一方で、「行けていない」と回答した人は平均で月に 7.9 人となっている

⑬ SJS 専門医の診察で通院に係る交通費

○SJS 専門医の診察で通院する際にかかる、1 回の往復交通費についてたずねた結果は、表 1-22 のとおりである。

表 1-22 SJS 専門医の診察で通院する際の往復交通費の状況

利 用 状 況 (金額)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1,000円未満	10	10	9	8	9	8	7	8	8	9	9	10	8.8
1,000円～10,000円	20	19	18	21	21	20	21	20	18	21	19	19	19.8
10,000円～30,000円	4	4	5	4	4	6	6	7	6	5	5	6	5.2
30,000円～50,000円	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0.8
50,000円以上	3	3	3	3	3	3	1	1	1	2	2	2	2.3
その他	2	3	3	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1.6
回答なし	13	13	13	17	15	15	16	15	17	13	14	13	14.5

□1 回の往復交通費は平均で「1,000 円～10,000 円」と回答した人が 19.8 人、「1,000 円未満」が 8.8 人となっている

⑭ 入院の有無

○SJSに係る治療での入院有無についてたずねた結果は、表1-23のとおりである。

表1-23 SJSに係る治療での入院有無の状況

利 用 状 況 (人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院した	1	2	0	0	0	0	2	1	0	1	1	1	0.8
入院していない	45	43	45	44	44	44	42	41	40	43	43	42	43.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
回答なし	7	8	8	10	10	10	8	10	12	8	8	9	9.0

□「入院した」と回答した人数は延べ9人で、平均では月に0.8人が入院している

□「入院していない」と回答した人は平均で月に43.0人となっている

(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

■ 健康被害者の外出について

① 外出の頻度

ア 第1・四半期（回答者 51 人）

○ 第1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ ほぼ毎日、週に 2～3 回が 27.5%、月に 2～3 回が 25.5%となっている

□ 一方、まったく外出していないは 7.8%となっている

イ 第2・四半期（回答者 52 人）

○ 第2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ 週に 2～3 回が 34.6%、ほぼ毎日、月に 2～3 回が 23.1%となっている

□ 一方、まったく外出していないは 7.7%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 50 人）

○ 第3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ 週に 2～3 回が 36.0%、ほぼ毎日が 24.0%、月 2～3 回が 20.0%となっている

□ 一方、まったく外出していないは 8.0%となっている

エ 第4・四半期（回答者 51 人）

○ 第4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ 週に 2～3 回が 27.5%、ほぼ毎日が 25.5%、月 2～3 回が 21.6%となっている

□ 一方、まったく外出していないは 9.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ 年間の平均では、ほぼ毎日外出している人が 25.0%、週に 4～5 回外出している人が 12.7%、週に 2～3 回外出している人が 31.4%、月に 2～3 回外出している人が 22.5%、まったく外出していないが 8.3%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	回答なし	合 計
第1・四半期	14 27.5%	6 11.8%	14 27.5%	13 25.5%	4 7.8%	2 —	51 100.0%
第2・四半期	12 23.1%	6 11.5%	18 34.6%	12 23.1%	4 7.7%	2 —	52 100.0%
第3・四半期	12 24.0%	6 12.0%	18 36.0%	10 20.0%	4 8.0%	2 —	50 100.0%
第4・四半期	13 25.5%	8 15.7%	14 27.5%	11 21.6%	5 9.8%	1 —	51 100.0%
年間単純平均	12.8 25.0%	6.5 12.7%	16.0 31.4%	11.5 22.5%	4.3 8.3%	1.8 —	51.0 100.0%
R3年度平均	13.0 25.6%	5.3 10.3%	17.5 34.5%	9.3 18.2%	5.8 11.3%	1.8 —	50.8 100.0%
R2年度平均	9.8 18.7%	7.5 14.4%	16.0 30.6%	13.3 25.4%	5.8 11.0%	1.3 —	52.4 100.0%
R1年度平均	13.0 24.5%	10.5 19.8%	14.0 26.4%	12.0 22.6%	3.5 6.6%	0.3 —	53.0 100.0%
H30年度平均	14.3 25.9%	12.3 22.3%	15.0 27.3%	10.3 18.6%	3.3 5.9%	0.0 —	52.5 100.0%
H29年度平均	13.0 24.8%	11.8 22.4%	13.0 24.8%	12.8 24.3%	2.0 3.8%	1.0 —	55.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

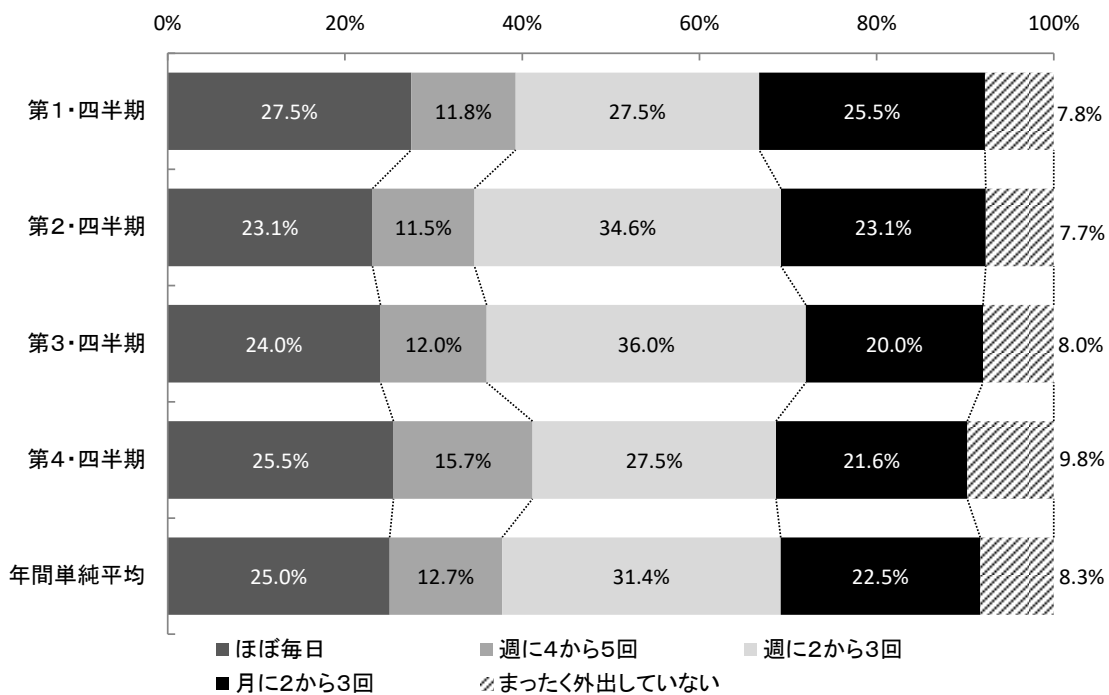


図 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

①-1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 47 人）

- 外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 34.0%、「子供」が 23.4%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 21.3%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 34.0%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「盲導犬」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 47 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 38.3%、「子供」が 31.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」「隣人・知人」が 23.4%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 36.2%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービス職員」「盲導犬」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 46 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 34.8%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 30.4%、「子供」が 26.1%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 32.6%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「ガイドヘルパー」「盲導犬」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 46 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 「配偶者」が 41.3%、「子供」が 26.1%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」「親」が 19.6%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 39.1%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「盲導犬」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-2及び図2-2のとおりである（複数回答）。

□外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が37.1%、「子供」が26.9%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が23.7%、「隣人・知人」が20.4%、「親」が17.2%、となっている

□一方、「介助なし」で外出している人は35.5%となっている

表2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム（ガイド）ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	16	7	11	3	4	10	9	1	3	12	0	47
	34.0%	34.0%	14.9%	23.4%	6.4%	8.5%	21.3%	19.1%	2.1%	6.4%	25.5%	—	100.0%
第2・四半期	17	18	8	15	4	6	11	11	0	2	11	1	47
	36.2%	38.3%	17.0%	31.9%	8.5%	12.8%	23.4%	23.4%	—	4.3%	23.4%	—	100.0%
第3・四半期	15	16	8	12	8	4	14	10	1	4	11	0	46
	32.6%	34.8%	17.4%	26.1%	17.4%	8.7%	30.4%	21.7%	2.2%	8.7%	23.9%	—	100.0%
第4・四半期	18	19	9	12	4	2	9	8	1	4	9	0	46
	39.1%	41.3%	19.6%	26.1%	8.7%	4.3%	19.6%	17.4%	2.2%	8.7%	19.6%	—	100.0%
年間単純平均	16.5	17.3	8.0	12.5	4.8	4.0	11.0	9.5	0.8	3.3	10.8	0.3	46.5
	35.5%	37.1%	17.2%	26.9%	10.2%	8.6%	23.7%	20.4%	1.6%	7.0%	23.1%	—	100.0%
R3年度平均	17.5	15.8	11.0	12.5	4.3	3.8	9.8	4.8	0.8	1.8	9.8	0.3	46.5
	37.6%	33.9%	23.7%	26.9%	9.1%	8.1%	21.0%	10.2%	1.6%	3.8%	21.0%	—	100.0%
R2年度平均	16.0	18.5	11.5	11.0	3.5	3.0	13.3	6.3	1.3	1.8	2.5	0.0	46.5
	34.4%	39.8%	24.7%	23.7%	7.5%	6.5%	28.5%	13.4%	2.7%	3.8%	5.4%	—	100.0%
R1年度平均	18.3	21.8	14.8	12.8	5.5	3.5	12.3	8.8	1.0	12.8	6.0	2.0	47.5
	38.4%	45.8%	31.1%	26.8%	11.6%	7.4%	25.8%	18.4%	2.1%	26.8%	12.6%	—	100.0%
H30年度平均	25.8	23.5	14.5	15.0	5.5	3.3	12.8	7.3	0.3	3.0	7.0	3.0	48.8
	52.8%	48.2%	29.7%	30.8%	11.3%	6.7%	26.2%	14.9%	0.5%	6.2%	14.4%	—	100.0%
H29年度平均	19.3	22.8	13.8	13.5	4.5	3.3	11.5	7.5	0.8	3.0	7.5	0.3	50.3
	38.3%	45.3%	27.4%	26.9%	9.0%	6.5%	22.9%	14.9%	1.5%	6.0%	14.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

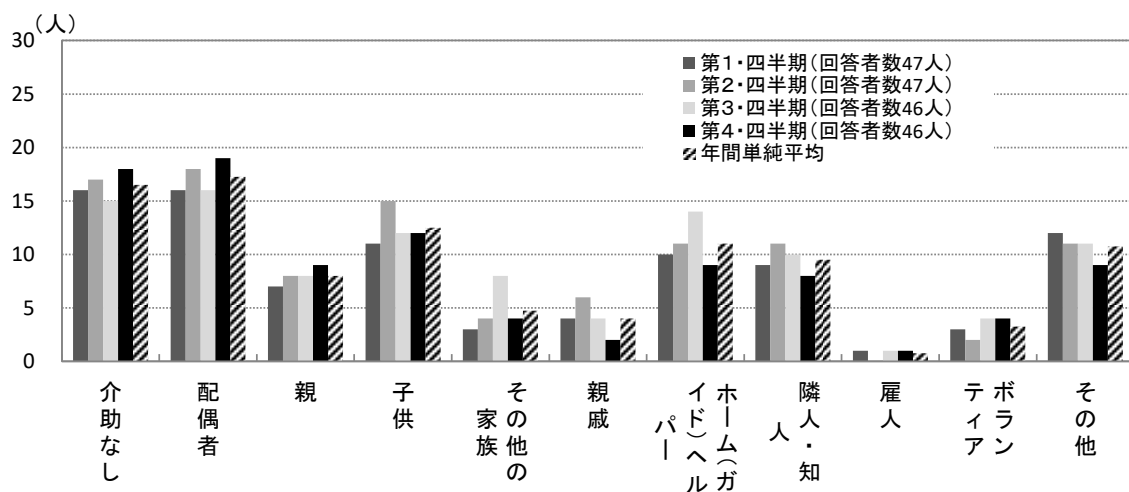


図2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 47 人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 80.9%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

イ 第2・四半期（回答者 49 人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 87.8%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 47 人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 89.4%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 85.1%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、85.8%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

	困ることや 不満に思う ことがある	困ることや 不満に思う ことがない	回答なし	合 計
第1・四半期	38	9	6	47
	80.9%	19.1%	—	100.0%
第2・四半期	43	6	5	49
	87.8%	12.2%	—	100.0%
第3・四半期	42	5	5	47
	89.4%	10.6%	—	100.0%
第4・四半期	40	7	5	47
	85.1%	14.9%	—	100.0%
年間単純平均	40.8	6.8	5.3	47.5
	85.8%	14.2%	—	100.0%
R3年度平均	41.0	7.3	4.3	48.3
	85.0%	15.0%	—	100.0%
R2年度平均	42.3	8.0	3.3	50.3
	84.1%	15.9%	—	100.0%
R1年度平均	46.5	5.8	2.5	52.3
	89.0%	11.0%	—	100.0%
H30年度平均	46.0	5.3	3.8	51.3
	89.8%	10.2%	—	100.0%
H29年度平均	47.5	5.0	1.0	52.5
	90.5%	9.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

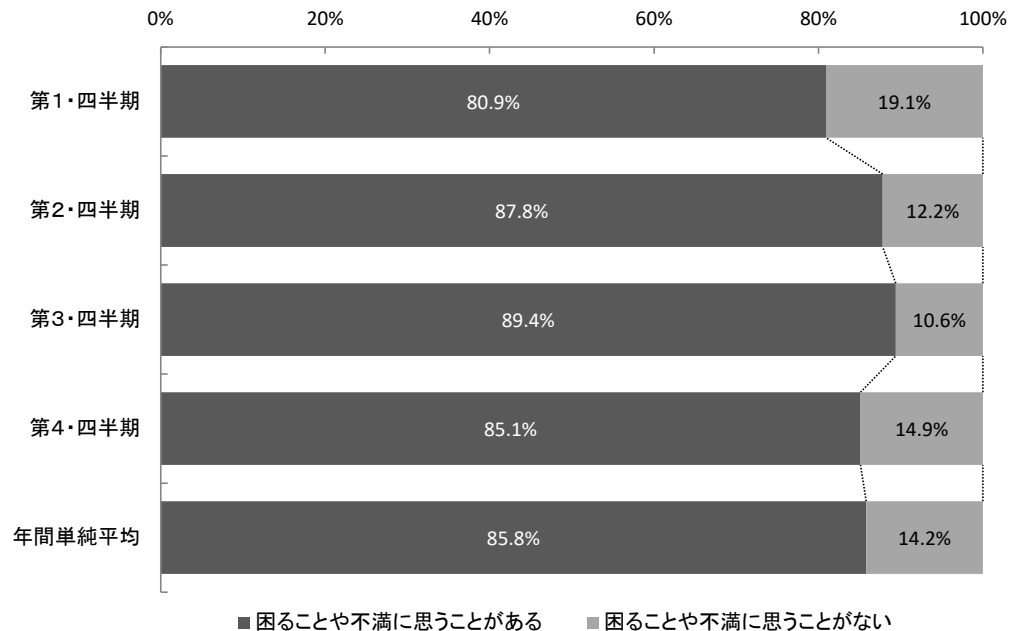


図 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者 38 人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 65.8%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が 55.3%となっている
- その他としては、「体力が必要」「社会不安障害」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 43 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- - 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 58.1%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 51.2%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が 48.8%となっている
 - その他としては、「蝉の声で音響式信号機の音が聞こえない」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が 64.3%、「利用する建物の設備の利用が不便」が 61.9%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 59.5%となっている
- その他としては、「歩道の指定外の場所に物が置かれ、ぶつかってしまう」「歩道上歩行時に急に工事が始まっていて怪我をしてしまう」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 40 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「利用する建物の設備の利用が不便」が 52.5%、「人の混雑や車に身の危険を感じる」「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が 50.0%となっている
- その他としては、「トイレの仕様が異なり、レバーやボタンの位置がわからない」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が59.5%、「利用する建物の設備の利用が不便」が54.6%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が52.8%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が50.3%となっている

表2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気になる	人と話をすることが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	10	13	8	9	7	21	21	20	25	6	6	38
	26.3%	34.2%	21.1%	23.7%	18.4%	55.3%	55.3%	52.6%	65.8%	15.8%	15.8%	100.0%
第2・四半期	11	15	11	6	8	20	21	22	25	4	9	43
	25.6%	34.9%	25.6%	14.0%	18.6%	46.5%	48.8%	51.2%	58.1%	9.3%	20.9%	100.0%
第3・四半期	11	15	8	7	8	25	21	26	27	5	6	42
	26.2%	35.7%	19.0%	16.7%	19.0%	59.5%	50.0%	61.9%	64.3%	11.9%	14.3%	100.0%
第4・四半期	12	17	8	7	9	20	19	21	20	3	7	40
	30.0%	42.5%	20.0%	17.5%	22.5%	50.0%	47.5%	52.5%	50.0%	7.5%	17.5%	100.0%
年間単純平均	11.0	15.0	8.8	7.3	8.0	21.5	20.5	22.3	24.3	4.5	7.0	40.8
	27.0%	36.8%	21.5%	17.8%	19.6%	52.8%	50.3%	54.6%	59.5%	11.0%	17.2%	100.0%
R3年度平均	8.3	13.3	8.8	8.0	6.8	18.0	17.0	22.5	24.0	4.5	9.5	40.8
	20.2%	32.5%	21.5%	19.6%	16.6%	44.2%	41.7%	55.2%	58.9%	11.0%	23.3%	100.0%
R2年度平均	6.5	14.0	9.0	6.8	8.0	18.8	18.5	22.5	26.0	4.8	9.5	42.3
	15.4%	33.1%	21.3%	16.0%	18.9%	44.4%	43.8%	53.3%	61.5%	11.2%	22.5%	100.0%
R1年度平均	9.8	15.3	8.3	8.8	9.3	25.0	23.5	29.0	31.8	12.0	7.3	46.5
	21.0%	32.8%	17.7%	18.8%	19.9%	53.8%	50.5%	62.4%	68.3%	25.8%	15.6%	100.0%
H30年度平均	21.3	15.8	7.5	8.5	9.3	25.3	22.3	26.5	31.0	5.5	10.3	46.0
	46.2%	34.2%	16.3%	18.5%	20.1%	54.9%	48.4%	57.6%	67.4%	12.0%	22.3%	100.0%
H29年度平均	6.8	14.5	10.3	8.0	10.3	25.0	21.8	29.0	33.5	2.3	9.0	47.5
	14.2%	30.5%	21.6%	16.8%	21.6%	52.6%	45.8%	61.1%	70.5%	4.7%	18.9%	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

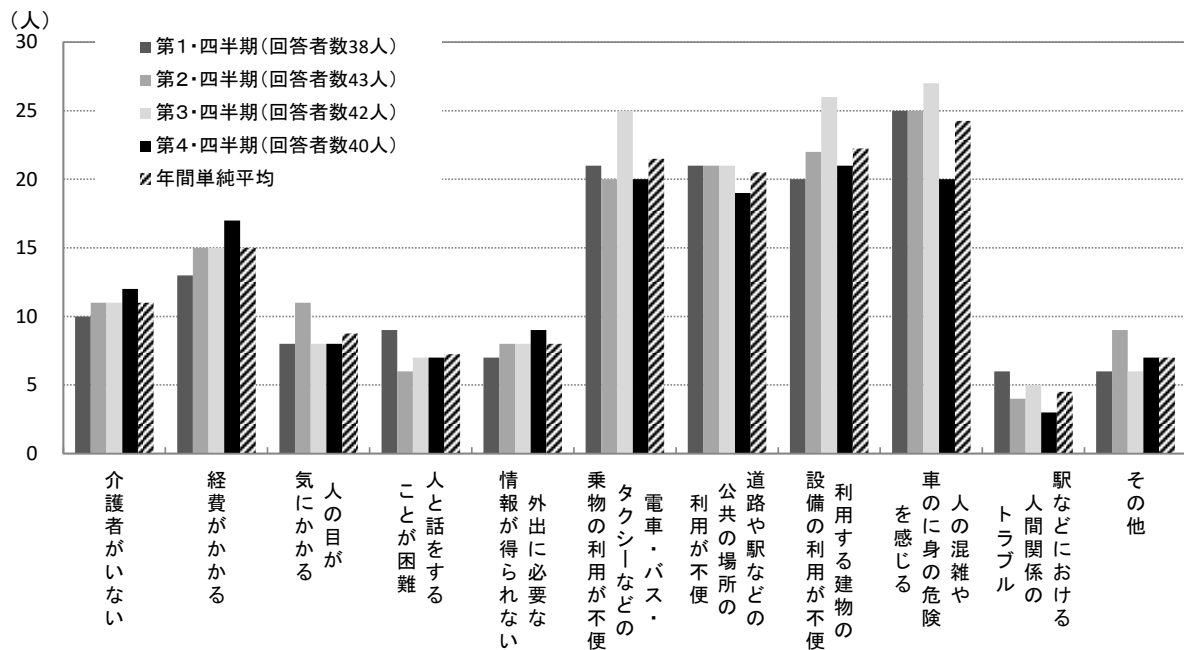


図2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 43 人）

○第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。

□「予め、交通機関や経路について調べておく」が 74.4%、「コースを事前に決めておく」が 62.8%、「介助者を依頼する」が 55.8%となっている

□その他としては、「介護者の予定を聞いておく」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 42 人）

○第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。

□「予め、交通機関や経路について調べておく」が 69.0%、「コースを事前に決めておく」が 59.5%、「介助者を依頼する」が 54.8%となっている

□その他としては、「ヘルパーを依頼できないときは、事前に他の人に頼んでおく」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 38 人）

○第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。

□「介助者を依頼する」が 68.4%、「予め、交通機関や経路について調べておく」が 65.8%、「コースを事前に決めておく」が 57.9%となっている

□その他としては、「盲導犬の使用」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 39 人）

○第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。

□「予め、交通機関や経路について調べておく」が 69.2%、「コースを事前に決めておく」、「介助者を依頼する」が 59.0%となっている

□その他としては、「知らない場所は、誘導や状況説明をしてもらえる人を頼んでおく」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-5及び図2-5のとおりである（複数回答）。

□外出する上で工夫した「外出前の準備」の年間の平均では「予め、交通機関や経路について調べておく」が69.8%、「コースを事前に決めておく」が59.9%、「介助者を依頼する」が59.3%となっている

表2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

	予め、交通 機関や経路 について調 べておく	介助者を 依頼する	コースを 事前に 決めておく	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	32 74.4%	24 55.8%	27 62.8%	2 4.7%	5 —	43 100.0%
第2・四半期	29 69.0%	23 54.8%	25 59.5%	2 4.8%	6 —	42 100.0%
第3・四半期	25 65.8%	26 68.4%	22 57.9%	1 2.6%	8 —	38 100.0%
第4・四半期	27 69.2%	23 59.0%	23 59.0%	3 7.7%	8 —	39 100.0%
年間単純平均	28.3 69.8%	24.0 59.3%	24.3 59.9%	2.0 4.9%	6.8 —	40.5 100.0%
R3年度平均	26.5 67.9%	22.5 57.7%	24.8 63.5%	1.5 3.8%	7.3 —	39.0 100.0%
R2年度平均	25.8 70.1%	18.8 51.0%	21.8 59.2%	2.5 6.8%	10.8 —	36.8 100.0%
R1年度平均	31.8 78.4%	21.5 53.1%	23.3 57.4%	2.8 6.8%	7.5 —	40.5 100.0%
H30年度平均	32.5 73.9%	22.5 51.1%	24.5 55.7%	3.0 6.8%	4.5 —	44.0 100.0%
H29年度平均	31.8 77.9%	15.8 38.7%	23.0 56.4%	3.5 8.6%	7.0 —	40.8 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

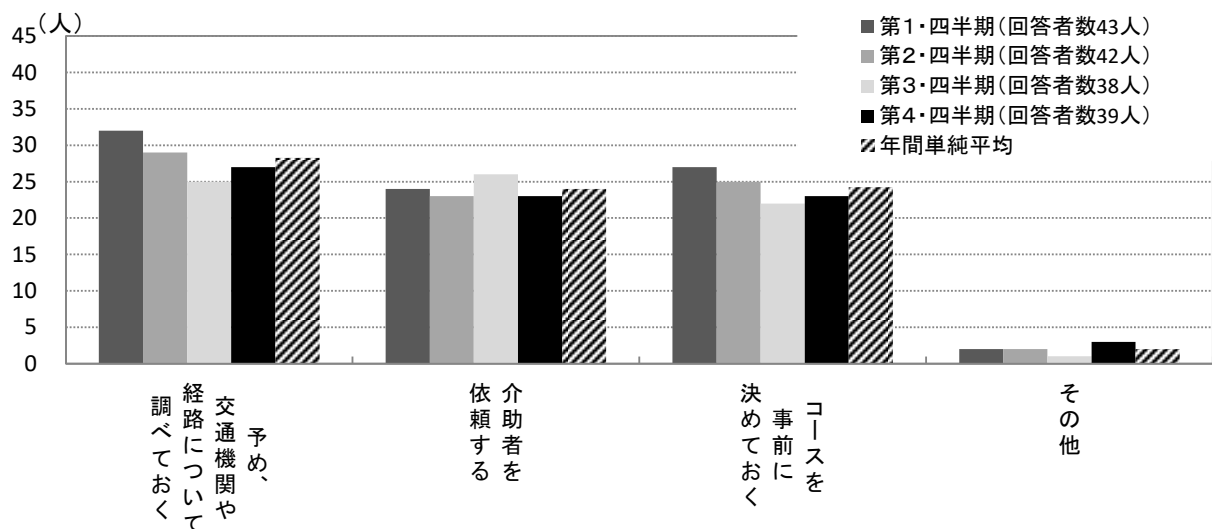


図2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 43 人）

- 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。
- 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 83.7%、「白杖の使用」が 72.1%、
「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 62.8%となっている
- その他としては、「滑りにくい靴」「飲み物の持参」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 44 人）

- 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。
- 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 81.8%、「白杖の使用」が 72.7%、
「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 59.1%となっている
- その他としては、「ヘルプカード着用」「杖の使用」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 42 人）

- 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。
- 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 78.6%、「白杖の使用」が 69.0%、
「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 59.5%となっている
- その他としては、「雨対策」「マスク着用」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 43 人）

- 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。
- 「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 79.1%、「白杖の使用」が 65.1%、
「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 60.5%となっている
- その他としては、「杖の使用」「ヘルプマーク着用」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6及び図2-6のとおりである（複数回答）。

□外出する上で工夫した「服装・持ち物」の年間の平均では「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が80.8%、「白杖の使用」が69.8%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が60.5%、「目立つ服装」が31.4%となっている

表2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

	目立つ服装	目の保護のためサングラス、帽子を着用	白杖の使用	両手が使えるようリュックサックを使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	12 27.9%	36 83.7%	31 72.1%	27 62.8%	6 14.0%	5 —	43 100.0%
第2・四半期	14 31.8%	36 81.8%	32 72.7%	26 59.1%	5 11.4%	4 —	44 100.0%
第3・四半期	14 33.3%	33 78.6%	29 69.0%	25 59.5%	4 9.5%	4 —	42 100.0%
第4・四半期	14 32.6%	34 79.1%	28 65.1%	26 60.5%	7 16.3%	4 —	43 100.0%
年間単純平均	13.5 31.4%	34.8 80.8%	30.0 69.8%	26.0 60.5%	5.5 12.8%	4.3 —	43.0 100.0%
R3年度平均	12.5 30.3%	32.3 78.2%	30.5 73.9%	24.8 60.0%	4.5 10.9%	5.0 —	41.3 100.0%
R2年度平均	14.0 33.5%	32.5 77.8%	30.8 73.7%	22.5 53.9%	5.3 12.6%	5.8 —	41.8 100.0%
R1年度平均	13.0 30.4%	36.5 85.4%	29.3 68.4%	24.8 57.9%	5.5 12.9%	5.3 —	42.8 100.0%
H30年度平均	13.3 29.6%	35.5 79.3%	32.0 71.5%	26.3 58.7%	5.0 11.2%	3.8 —	44.8 100.0%
H29年度平均	13.8 31.6%	36.0 82.8%	29.3 67.2%	25.0 57.5%	8.3 19.0%	4.3 —	43.5 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

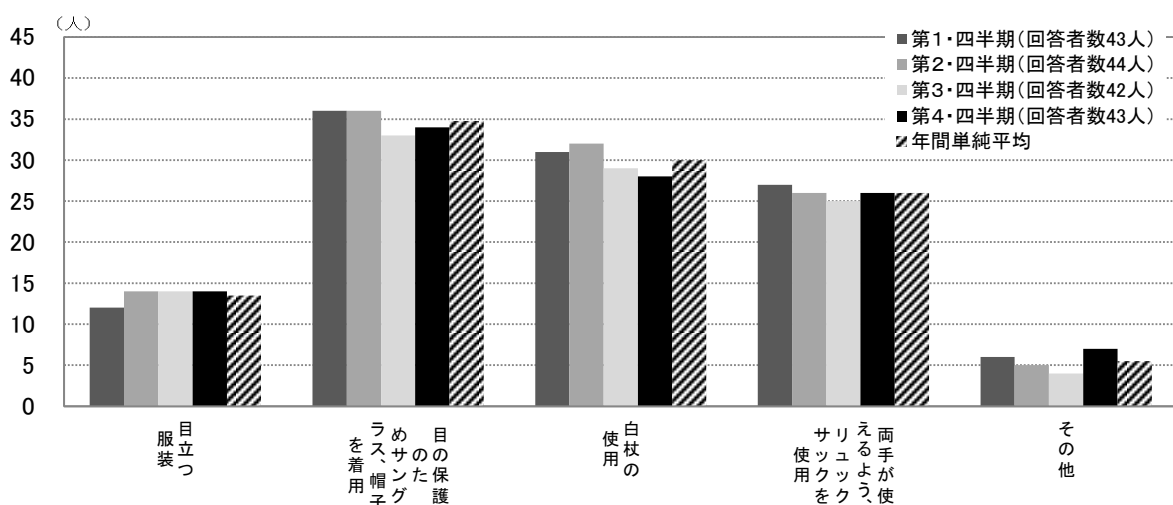


図2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 46 人）

- 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。
- 「公共交通機関を利用」が 69.6%、「自家用車を利用」が 65.2%、「介護タクシーを利用」が 6.5%となっている
- その他としては、「徒歩」「デイスサービスの送迎車」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 46 人）

- 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。
- 「公共交通機関を利用」が 65.2%、「自家用車を利用」が 63.0%、「介護タクシーを利用」が 8.7%となっている
- その他としては、「普通のタクシー」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 45 人）

- 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。
- 「公共交通機関を利用」が 64.4%、「自家用車を利用」が 60.0%、「介護タクシーを利用」が 13.3%となっている
- その他としては、「旅行先では事前に各地域の支援団体に相談して、送迎してもらおう」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 44 人）

- 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。
- 「公共交通機関を利用」が 65.9%、「自家用車を利用」が 56.8%、「介護タクシーを利用」が 6.8%となっている
- その他としては、「デイスサービスの送迎」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。
- 外出する上で工夫した「移動手段」の年間の平均では「公共交通機関を利用」が 66.3%、「自家用車を利用」が 61.3%、「介護タクシーを利用」が 8.8%となっている

表 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

	自家用車 を利用	介護タク シー を利用	公共交通 機関 を利用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	30	3	32	5	2	46
	65.2%	6.5%	69.6%	10.9%	—	100.0%
第2・四半期	29	4	30	10	2	46
	63.0%	8.7%	65.2%	21.7%	—	100.0%
第3・四半期	27	6	29	8	1	45
	60.0%	13.3%	64.4%	17.8%	—	100.0%
第4・四半期	25	3	29	5	3	44
	56.8%	6.8%	65.9%	11.4%	—	100.0%
年間単純平均	27.8	4.0	30.0	7.0	2.0	45.3
	61.3%	8.8%	66.3%	15.5%	—	100.0%
R3年度平均	27.3	3.3	26.5	6.5	2.3	44.0
	61.9%	7.4%	60.2%	14.8%	—	100.0%
R2年度平均	25.8	18.8	21.8	2.5	10.8	36.8
	70.1%	51.0%	59.2%	6.8%	—	100.0%
R1年度平均	30.3	4.3	34.3	5.0	1.8	46.3
	65.4%	9.2%	74.1%	10.8%	—	100.0%
H30年度平均	30.5	5.0	34.8	4.8	7.0	41.5
	73.5%	12.0%	83.7%	11.4%	—	100.0%
H29年度平均	29.0	5.8	33.5	7.3	2.0	45.8
	63.4%	12.6%	73.2%	15.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

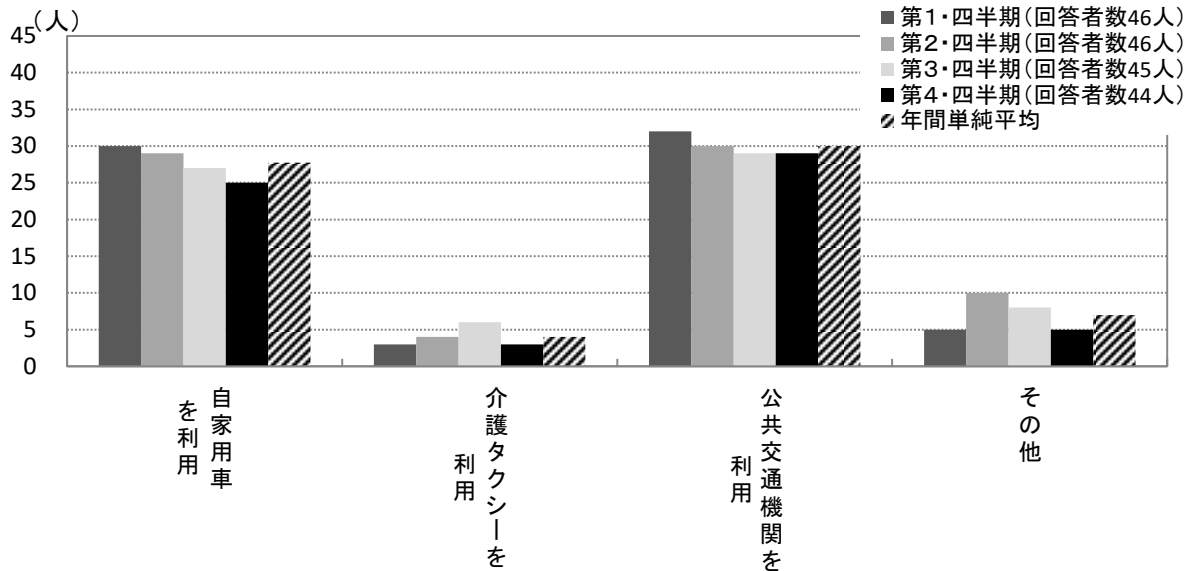


図 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと

○本人または介護者にたずねた外出する上で工夫したことの主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ デイサービスの送迎車を使用
- ・ 徒歩にする
- ・ 夏は暑くなるので、車いすに背中からファン（空調）を取りつけた
- ・ オムツ、パッドを場所やタイミングによって分けている
- ・ 車内で食事出来る様に流動食にした
- ・ 人出の少ない時間に外出する
- ・ 人混みを避けた時間帯を考える
- ・ 人手の少ない場所、時間帯に行く
- ・ 一人での外出は、家の周りを散歩するだけにする
- ・ 消毒薬を持ち歩く
- ・ 盲導犬

■ 社会参加や社会活動について

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 51 人）

○ 第1・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 58.8%、行っていない人が 41.2%となっている

イ 第2・四半期（回答者 52 人）

○ 第2・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 59.6%、行っていない人が 40.4%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 49 人）

○ 第3・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 63.3%、行っていない人が 36.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 50 人）

○ 第4・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 60.0%、行っていない人が 40.0%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 60.4%、行っていない人が 39.6%となっている

表 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	30	21	2	51
	58.8%	41.2%	—	100.0%
第2・四半期	31	21	2	52
	59.6%	40.4%	—	100.0%
第3・四半期	31	18	3	49
	63.3%	36.7%	—	100.0%
第4・四半期	30	20	2	50
	60.0%	40.0%	—	100.0%
年間単純平均	30.5	20.0	2.3	50.5
	60.4%	39.6%	—	100.0%
R3年度平均	24.8	25.8	2.0	50.5
	49.0%	51.0%	—	100.0%
R2年度平均	25.0	25.3	3.3	50.3
	49.8%	50.2%	—	100.0%
R1年度平均	35.8	17.5	1.5	53.3
	67.1%	32.9%	—	100.0%
H30年度平均	39.0	14.3	1.8	53.3
	73.2%	26.8%	—	100.0%
H29年度平均	38.3	15.3	0.0	53.5
	71.5%	28.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

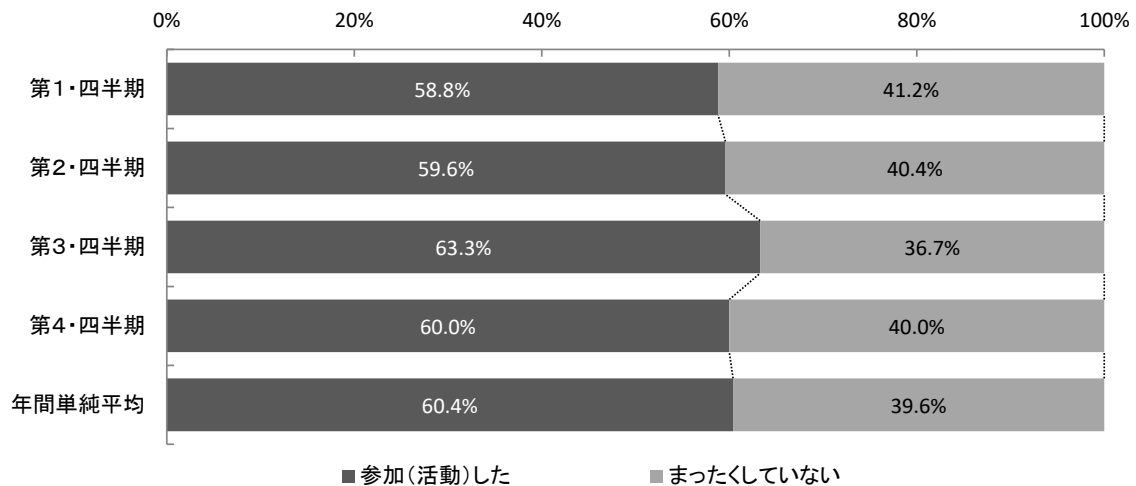


図 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 13 人）

- 社会参加や社会活動などを行っていないと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 46.2%、「介助なし」が 23.1%、「時間的・経済的余裕なし」が 7.7%となっている
- その他としては、「コロナ禍」「年齢と腰痛」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 18 人）

- 第2・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 61.1%、「時間的・経済的余裕なし」が 11.1%となっている
- その他としては、「心惹かれない」「催し自体がなかった」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 12 人）

- 第3・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 66.7%、「介助なし」「時間的・経済的余裕なし」が 8.3%となっている
- その他としては、「コロナ」「興味がない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 14 人）

- 第4・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 50.0%、「時間的・経済的余裕なし」が 14.3%、「介助なし」が 7.1%となっている
- その他としては、「そのような場がなかった」「コロナ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
社会参加や社会活動などを行わなかった理由の年間の平均では「体力的に余裕なし」が 56.1%、「時間的・経済的余裕なし」が 10.5%、「介助なし」が 8.8%となっている

表 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	介助者が いなかった	時間的・経済的 余裕なし	体力的に 余裕なし	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	3 23.1%	1 7.7%	6 46.2%	3 23.1%	5 —	13 100.0%
第2・四半期	0 0.0%	2 11.1%	11 61.1%	5 27.8%	0 —	18 100.0%
第3・四半期	1 8.3%	1 8.3%	8 66.7%	2 16.7%	4 —	12 100.0%
第4・四半期	1 7.1%	2 14.3%	7 50.0%	4 28.6%	4 —	14 100.0%
年間単純平均	1.3 8.8%	1.5 10.5%	8.0 56.1%	3.5 24.6%	3.3 —	14.3 100.0%
R3年度平均	3.5 16.7%	3.8 17.9%	11.0 52.4%	8.8 41.7%	1.5 —	21.0 100.0%
R2年度平均	3.0 14.6%	2.8 13.4%	9.8 47.6%	10.3 50.0%	2.3 —	20.5 100.0%
R1年度平均	3.0 25.5%	1.5 12.8%	7.5 63.8%	5.5 46.8%	1.5 —	11.8 100.0%
H30年度平均	3.5 29.8%	1.0 8.5%	5.3 44.7%	1.3 10.6%	3.8 —	11.8 100.0%
H29年度平均	2.5 21.3%	2.0 17.0%	3.8 31.9%	3.0 25.5%	3.0 —	11.8 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

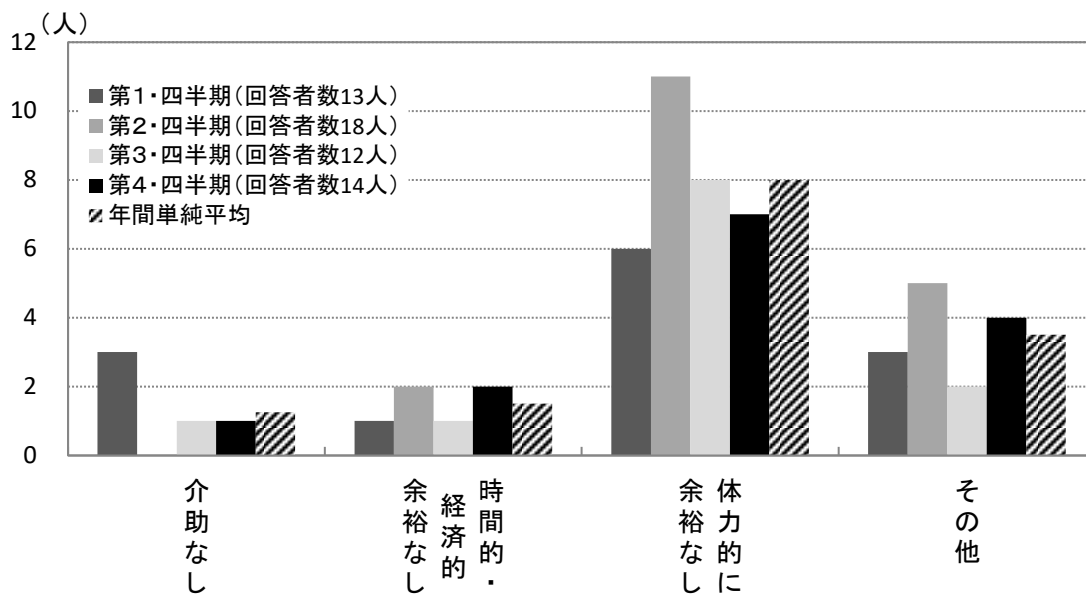


図 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 本人または介護者にたずねた社会参加・社会活動等のきっかけの主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇ 家族、親類

- ・ 家族旅行
- ・ 子供に連れられ旅行に行った

◇ 友人、知人等

- ・ 友達に誘われて点字学習・アコーディオン
- ・ 友人に誘って頂けたから

◇ 地域等

- ・ 地域からのお誘い
- ・ コロナ禍で中止だったスポーツ教室が再開された

◇ 患者団体、同好会等

- ・ 友人や障害者団体からのすすめ
- ・ 視覚障害者向けイベント案内の入手

◇ 自発的な活動

- ・ 少し体力がついてきたため
- ・ 気分転換
- ・ 運動不足解消
- ・ 精神的にも肉体的にも必要
- ・ 仕事につながる勉強会等で知識を広めるため
- ・ 知識・見聞を広めるため
- ・ 買い物、散歩

③-3 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 30 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10 及び図2-10 のとおりである（複数回答）。
- 「友達との遊び」が 46.7%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「趣味の同好会活動」が 33.3%、「スポーツ教室、大会などへの参加」「障害者団体の活動」「パソコンを利用した社会参加」が 30.0%となっている
- その他としては、「スマホ教室での学習」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10 及び図2-10 のとおりである（複数回答）。
- 「友達との遊び」「パソコンを利用した社会参加」が 38.7%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 35.5%、「趣味の同好会活動」が 32.3%となっている
- その他としては、「在宅リモートの SJS 患者会懇親会参加」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 31 人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10 及び図2-10 のとおりである（複数回答）。
- 「友達との遊び」が 41.9%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 38.7%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「パソコンを利用した社会参加」が 35.5%となっている
- その他としては、「ヨガ、ウォーキング」「小学校ゲストティーチャー」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 30 人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10 及び図2-10 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 43.3%、「趣味の同好会活動」「障害者団体の活動」が 33.3%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「パソコンを利用した社会参加」が 30.0%となっている
- その他としては、「家族との食事会」などをあげている

□オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。

□社会参加・社会活動などの内容の年間の平均では「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」、
「友達との遊び」が37.7%、「パソコンを利用した社会参加」が33.6%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が32.0%となっている

表2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサート や映画、 スポーツ などの鑑 賞・見学	スポーツ 教室、大 会などへ の参加	旅行・ キャンプ・ つりなど の活動	趣味の 同好会活 動	ボランテ ィアなど の社会活 動	障害者団 体の活動	地域活動	パソコンを 利用した 社会参加	友達との 遊び	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	10	9	10	10	5	9	3	9	14	2	0	30
	33.3%	30.0%	33.3%	33.3%	16.7%	30.0%	10.0%	30.0%	46.7%	6.7%	—	100.0%
第2・四半期	11	8	9	10	2	8	2	12	12	4	0	31
	35.5%	25.8%	29.0%	32.3%	6.5%	25.8%	6.5%	38.7%	38.7%	12.9%	—	100.0%
第3・四半期	12	8	11	8	3	10	3	11	13	4	0	31
	38.7%	25.8%	35.5%	25.8%	9.7%	32.3%	9.7%	35.5%	41.9%	12.9%	—	100.0%
第4・四半期	13	6	9	10	2	10	3	9	7	3	0	30
	43.3%	20.0%	30.0%	33.3%	6.7%	33.3%	10.0%	30.0%	23.3%	10.0%	—	100.0%
年間単純平均	11.5	7.8	9.8	9.5	3.0	9.3	2.8	10.3	11.5	3.3	0.0	30.5
	37.7%	25.4%	32.0%	31.1%	9.8%	30.3%	9.0%	33.6%	37.7%	10.7%	—	100.0%
R3年度平均	6.5	7.0	5.0	5.8	2.3	7.3	3.8	7.8	5.3	5.5	0.0	6.0
	26.3%	28.3%	20.2%	23.2%	9.1%	29.3%	15.2%	31.3%	21.2%	22.2%	—	100.0%
R2年度平均	3.5	6.5	4.8	4.8	1.5	5.8	2.3	7.0	5.5	6.0	0.0	25.0
	14.0%	26.0%	19.0%	19.0%	6.0%	23.0%	9.0%	28.0%	22.0%	24.0%	—	100.0%
R1年度平均	14.3	9.0	13.3	10.5	4.5	12.8	5.5	10.0	14.0	1.8	0.3	35.5
	40.1%	25.4%	37.3%	29.6%	12.7%	35.9%	15.5%	28.2%	39.4%	4.9%	—	100.0%
H30年度平均	21.3	8.8	15.0	10.5	4.0	15.0	5.0	9.5	13.8	5.5	6.3	32.8
	64.9%	26.7%	45.8%	32.1%	12.2%	45.8%	15.3%	29.0%	42.0%	16.8%	—	100.0%
H29年度平均	15.0	6.8	13.8	12.0	3.5	11.8	4.5	8.8	15.0	6.0	0.0	38.3
	39.2%	17.6%	35.9%	31.4%	9.2%	30.7%	11.8%	22.9%	39.2%	15.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

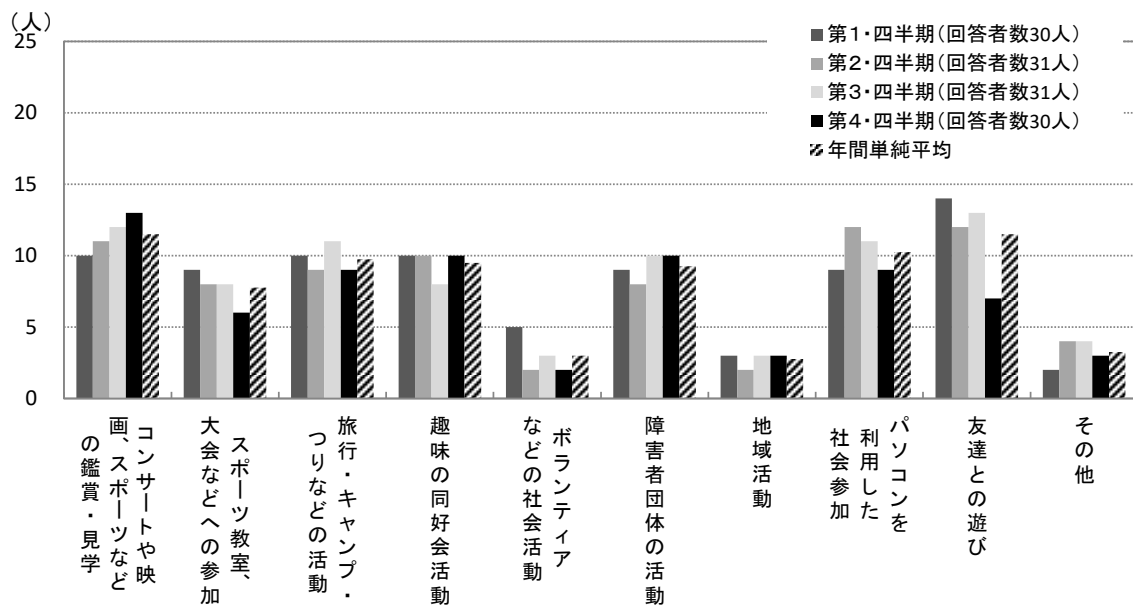


図2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

■ 屋内での生活における工夫について

④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 44 人）

○ 第 1・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 93.2%、工夫がない人が 6.8%となっている

イ 第 2・四半期（回答者 43 人）

○ 第 2・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 100.0%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 41 人）

○ 第 3・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 95.1%、工夫がない人が 4.9%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 43 人）

○ 第 4・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 88.4%、工夫がない人が 11.6%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活の工夫の有無の割合は、年間の平均では、工夫がある人が 94.2%、ない人が 5.8%となっている

表 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	41	3	4	44
	93.2%	6.8%	—	100.0%
第2・四半期	43	0	5	43
	100.0%	0.0%	—	100.0%
第3・四半期	39	2	5	41
	95.1%	4.9%	—	100.0%
第4・四半期	38	5	4	43
	88.4%	11.6%	—	100.0%
年間単純平均	40.3	2.5	4.5	42.8
	94.2%	5.8%	—	100.0%
R3年度平均	44.0	1.5	0.8	45.5
	96.7%	3.3%	—	100.0%
R2年度平均	44.8	2.3	0.5	47.0
	95.2%	4.8%	—	100.0%
R1年度平均	39.3	4.5	4.3	43.8
	89.7%	10.3%	—	100.0%
H30年度平均	44.0	2.3	8.8	46.3
	95.1%	4.9%	—	100.0%
H29年度平均	44.8	2.0	1.0	46.8
	95.7%	4.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

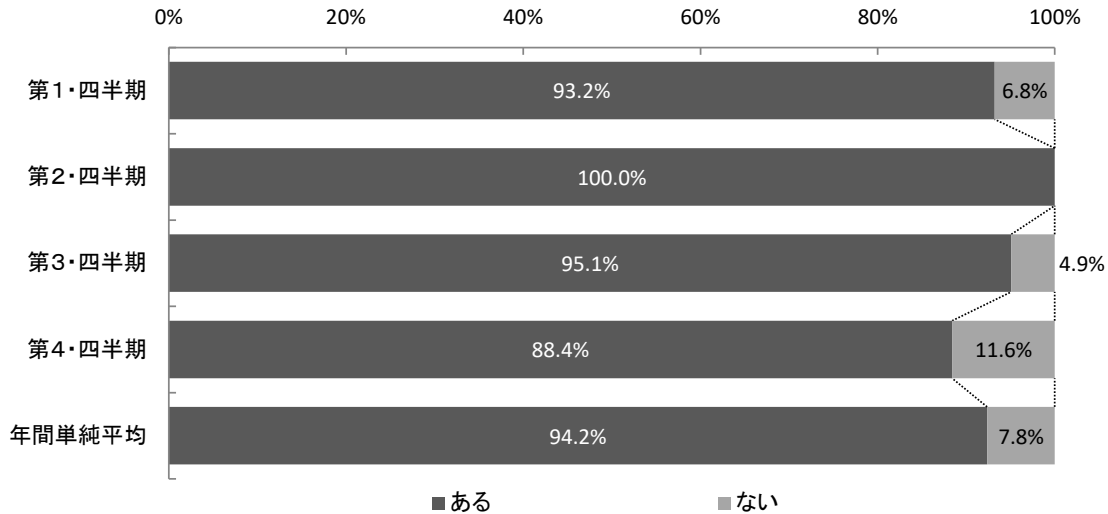


図 2-11 屋内での生活における工夫の有無の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【家のつくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 40 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第 1・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.5%、「通路や床に物を置かない」が 85.0%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 55.0%、「段差がないように敷物などで調整」が 27.5%となっている
- その他としては、「カラーテープ」「手すりの設置」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 43 人）

- 第 2・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 95.3%、「通路や床に物を置かない」が 79.1%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 55.8%、「段差がないように敷物などで調整」が 20.9%となっている
- その他としては、「玄関に横線を引く」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 39 人）

- 第 3・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.4%、「通路や床に物を置かない」が 79.5%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 28.2%、「段差がないように敷物などで調整」が 23.1%となっている
- その他としては、「家中の温度差を少なくしている」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 38 人）

- 第 4・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.4%、「通路や床に物を置かない」が 65.8%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 34.2%、「段差がないように敷物などで調整」が 13.2%となっている
- その他としては、「手すりをつける」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-12及び図2-12のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容の年間の平均では「よく使う物は同じ場所に置く」が96.9%、「通路や床に物を置かない」が77.5%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が43.8%、「段差がないように敷物などで調整」が21.3%となっている

表2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

	通路や床に物を置かない	よく使う物は同じ場所に置く	段差がないように敷物などで調整	移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	34	39	11	22	3	1	40
	85.0%	97.5%	27.5%	55.0%	7.5%	—	100.0%
第2・四半期	34	41	9	24	2	0	43
	79.1%	95.3%	20.9%	55.8%	4.7%	—	100.0%
第3・四半期	31	38	9	11	5	0	39
	79.5%	97.4%	23.1%	28.2%	12.8%	—	100.0%
第4・四半期	25	37	5	13	2	0	38
	65.8%	97.4%	13.2%	34.2%	5.3%	—	100.0%
年間単純平均	31.0	38.8	8.5	17.5	3.0	0.3	40.0
	77.5%	96.9%	21.3%	43.8%	7.5%	—	100.0%
R3年度平均	34.5	41.3	11.8	21.3	2.0	1.5	42.5
	81.2%	97.1%	27.6%	50.0%	4.7%	—	100.0%
R2年度平均	30.5	41.0	11.3	19.3	4.3	2.5	42.3
	72.2%	97.0%	26.6%	45.6%	10.1%	—	100.0%
R1年度平均	29.8	37.0	8.8	16.3	5.0	1.0	38.3
	77.8%	96.7%	22.9%	42.5%	13.1%	—	100.0%
H30年度平均	32.0	41.3	9.3	18.0	7.0	1.5	42.5
	75.3%	97.1%	21.8%	42.4%	16.5%	—	100.0%
H29年度平均	34.3	40.8	11.0	16.8	6.5	2.0	42.8
	80.1%	95.3%	25.7%	39.2%	15.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

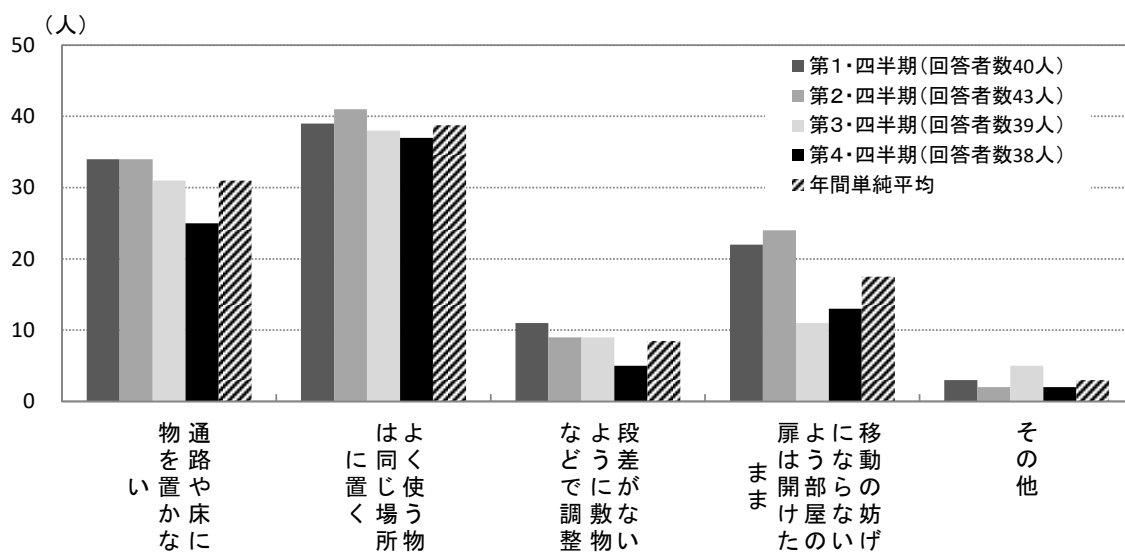


図2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 40 人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 60.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 55.0%となっている
- ☐ その他としては、「スマホのズームカメラ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 42 人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 66.7%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 47.6%、となっている
- ☐ その他としては、「音声ガイド付時計」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 37 人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 64.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 48.6%となっている
- ☐ その他としては、「各種読み上げ機能」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 63.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 44.4%となっている
- ☐ その他としては、「音声血圧計」「スマホ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-13及び図2-13のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容の年間の平均では「音声ガイドや朗読サービスの活用」が63.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が49.0%となっている

表2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

	拡大読書器・ ルーペの活用	音声ガイドや 朗読サービスの 活用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	22	24	10	1	40
	55.0%	60.0%	25.0%	—	100.0%
第2・四半期	20	28	8	1	42
	47.6%	66.7%	19.0%	—	100.0%
第3・四半期	18	24	8	2	37
	48.6%	64.9%	21.6%	—	100.0%
第4・四半期	16	23	8	2	36
	44.4%	63.9%	22.2%	—	100.0%
年間単純平均	19.0	24.8	8.5	1.5	38.8
	49.0%	63.9%	21.9%	—	100.0%
R3年度平均	21.8	25.8	7.0	3.3	40.8
	53.4%	63.2%	17.2%	—	100.0%
R2年度平均	23.8	24.5	8.5	4.0	40.8
	58.3%	60.1%	20.9%	—	100.0%
R1年度平均	20.8	23.0	6.8	2.3	37.0
	56.1%	62.2%	18.2%	—	100.0%
H30年度平均	22.8	21.0	5.5	2.8	41.3
	55.2%	50.9%	13.3%	—	100.0%
H29年度平均	21.3	25.0	8.8	4.8	40.0
	53.1%	62.5%	21.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

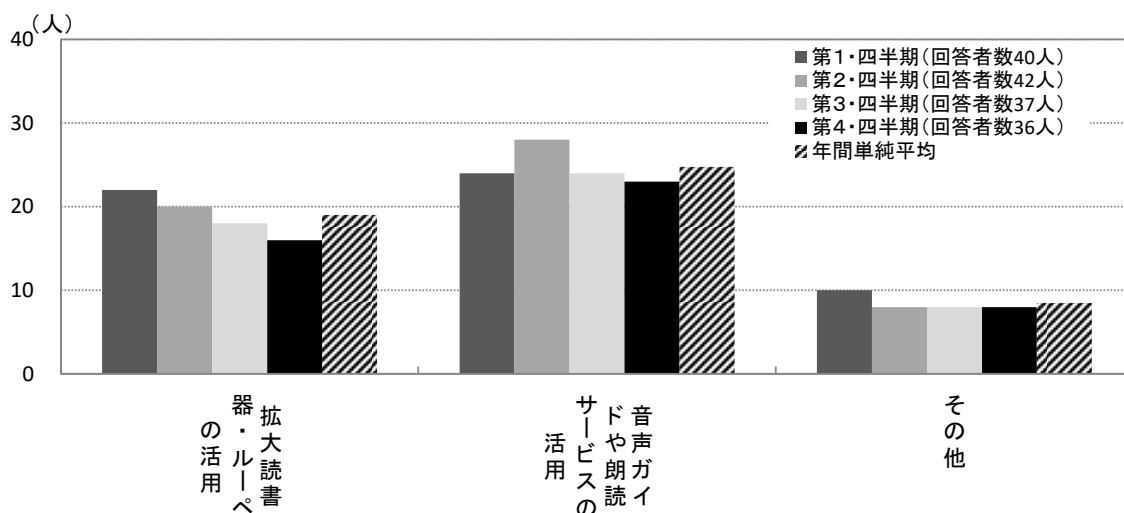


図2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 27 人）

○屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「こまめな温度調節」が 85.2%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 37.0%、「ハウスダストの徹底した除去」が 25.9%となっている
- ☐ その他としては、「布団クリーナー」「空気清浄機」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 29 人）

○第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「こまめな温度調節」が 79.3%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 34.5%、「ハウスダストの徹底した除去」が 27.6%となっている
- ☐ その他としては、「収納ケースの活用」「保湿」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 30 人）

○第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「こまめな温度調節」が 76.7%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 46.7%、「ハウスダストの徹底した除去」が 30.0%となっている
- ☐ その他としては、「浴室などの徹洗浄」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 29 人）

○第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。

- ☐ 「こまめな温度調節」が 75.9%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 44.8%、「ハウスダストの徹底した除去」が 37.9%となっている
- ☐ その他としては、「空気清浄機」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容の年間の平均では「こまめな温度調節」が79.1%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が40.9%、「ハウスダストの徹底した除去」が30.4%となっている

表2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

	乾燥予防のため加湿器を利用	こまめな温度調節	ハウスダストの徹底した除去	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	10 37.0%	23 85.2%	7 25.9%	6 22.2%	14 —	27 100.0%
第2・四半期	10 34.5%	23 79.3%	8 27.6%	7 24.1%	14 —	29 100.0%
第3・四半期	14 46.7%	23 76.7%	9 30.0%	4 13.3%	9 —	30 100.0%
第4・四半期	13 44.8%	22 75.9%	11 37.9%	6 20.7%	9 —	29 100.0%
年間単純平均	11.8 40.9%	22.8 79.1%	8.8 30.4%	5.8 20.0%	11.5 —	28.8 100.0%
R3年度平均	13.3 43.8%	23.0 76.0%	12.3 40.5%	5.5 18.2%	13.8 —	30.3 100.0%
R2年度平均	15.0 48.8%	23.3 75.6%	9.8 31.7%	5.0 16.3%	14.0 —	30.8 100.0%
R1年度平均	16.3 52.8%	21.5 69.9%	10.5 34.1%	4.8 15.4%	8.5 —	30.8 100.0%
H30年度平均	17.3 54.8%	19.5 61.9%	7.5 23.8%	3.3 10.3%	12.5 —	31.5 100.0%
H29年度平均	18.8 58.6%	21.3 66.4%	9.8 30.5%	6.5 20.3%	12.8 —	32.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

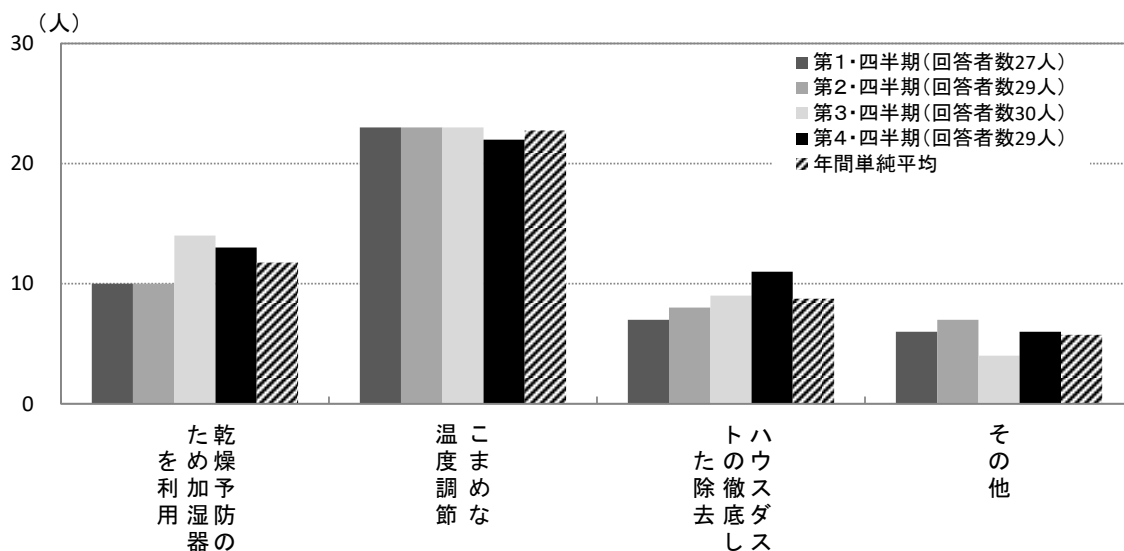


図2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 27 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第 1・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- ☐ 「点字シールをつける」が 48.1%、「カラーテープで目印」が 37.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 25.9%となっている
- ☐ その他としては、「凹凸の印をつける」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 26 人）

- 第 2・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- ☐ 「点字シールをつける」が 53.8%、「カラーテープで目印」が 26.9%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 19.2%となっている
- ☐ その他としては、「外に出た時にランプつくようにする」「物探しタグや音声識別タグと紐付いたスマホアプリで管理する」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 25 人）

- 第 3・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- ☐ 「点字シールをつける」が 52.0%、「カラーテープで目印」が 28.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 20.0%となっている
- ☐ その他としては、「収納ケースの活用」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 24 人）

- 第 4・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- ☐ 「点字シールをつける」が 50.0%、「カラーテープで目印」が 16.7%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 12.5%となっている
- ☐ その他としては、「鈴などを利用」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-15及び図2-15のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容の年間の平均では「点字シールをつける」が51.0%、「カラーテープで目印」が27.5%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が19.6%となっている

表2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

	点字シールをつける	カラーテープで目印	室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	13 48.1%	10 37.0%	7 25.9%	8 29.6%	14 —	27 100.0%
第2・四半期	14 53.8%	7 26.9%	5 19.2%	8 30.8%	17 —	26 100.0%
第3・四半期	13 52.0%	7 28.0%	5 20.0%	7 28.0%	14 —	25 100.0%
第4・四半期	12 50.0%	4 16.7%	3 12.5%	9 37.5%	14 —	24 100.0%
年間単純平均	13.0 51.0%	7.0 27.5%	5.0 19.6%	8.0 31.4%	14.8 —	25.5 100.0%
R3年度平均	12.0 46.6%	8.3 32.0%	4.5 17.5%	8.3 32.0%	18.3 —	25.8 100.0%
R2年度平均	12.8 49.0%	11.3 43.3%	6.3 24.0%	5.0 19.2%	18.8 —	26.0 100.0%
R1年度平均	12.3 45.4%	9.0 33.3%	6.0 22.2%	7.8 28.7%	12.3 —	27.0 100.0%
H30年度平均	11.0 40.4%	9.8 35.8%	4.0 14.7%	7.5 27.5%	16.8 —	27.3 100.0%
H29年度平均	10.8 41.3%	8.3 31.7%	4.3 16.3%	7.3 27.9%	18.8 —	26.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

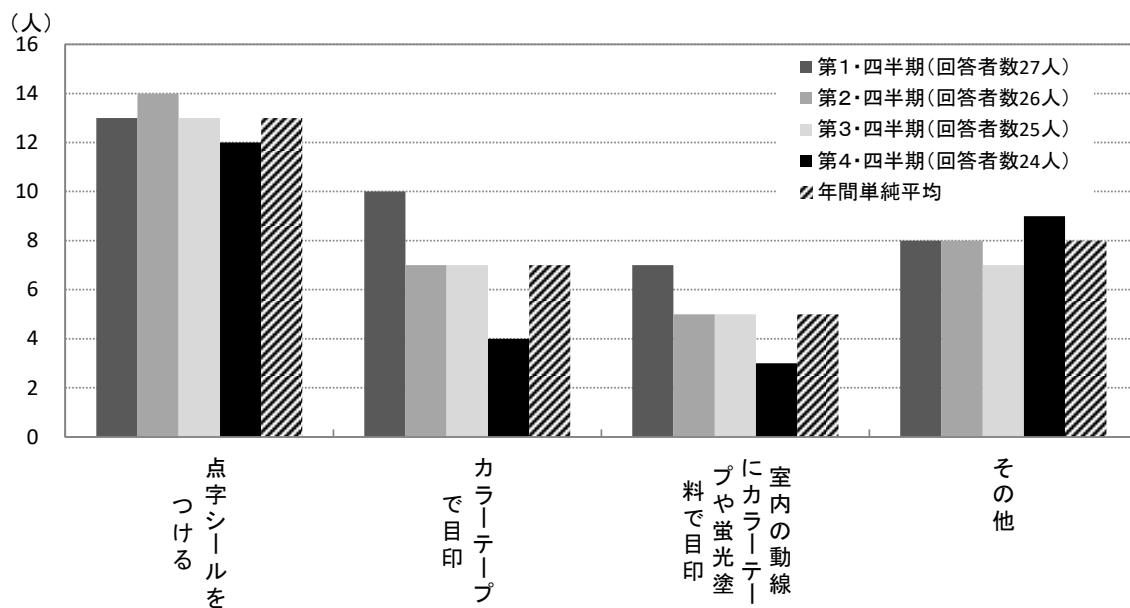


図2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

④ー2 屋内での生活における工夫

○ 本人または介護者にたずねた屋内での生活における工夫の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ テーブルやカウンターなどの上に物を置かない、出したらすぐしまう
- ・ 手すりを付けている
- ・ 家の中は常に明かりをつけている
- ・ 茶碗を黒いものに変えた
- ・ 採光・照明の調節
- ・ ネットで音声検索していろいろ楽しんでいる
- ・ 寝室を2階から1階へ移動した
- ・ シャンプーやボディソープ類のボトルの型をそれぞれ変える
- ・ リフォームで部屋をバリアフリーにしたり、昇降機をつけて車イスのまま生活しやすいようにしている
- ・ 寝たきりなので、出来るだけ車イスに座せる様に気を付けている
- ・ ワクチン接種が出来ないので外からのウイルス持込がされない様に気を付けている
- ・ 最近音声チックが激しく、どこに居ても声が大きく回りに迷惑かけているので、どうしても窓などを閉めがち
- ・ 移動する事なく取りやすいように、身の回りに好きなアイテムを置いた
- ・ ベッドの角にぶつかりケガをするため、ベッドの角にカバーをかけた
- ・ よくぶつかる所に、クッションテープを貼った
- ・ 食器などの整理整頓をしやすい棚の配置、扉はすべて開けておく
- ・ スマートスピーカーに音声指示する事で、家電リモコンアプリを通してエアコンなどのリモコンが万が一すぐに見つからなかったとしても、ほぼ自分の要望が叶えられている事もある
- ・ 探し物タグや物の識別タグを紐付けさせ、各専用アプリ操作で屋内の物の置き場や識別をしやすくなってきている
- ・ 音声読み上げ機能付きスマートホンやAIスピーカーの使用で、印刷物のQRコード読み取りやラジオ聴取などがより容易になってきている
- ・ 床に絨毯などで足の感覚で探る
- ・ フロアーに点字ブロックを貼った
- ・ エアコンの付け変えで音声の出るものにした。家電に苦労している
- ・ ドアは開けっぱなしにしておくとうぶつかってあぶないので、必ず閉める
- ・ ガラス食器は使用后、すぐに片付ける

■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤日常生活について

⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて

ア 第1・四半期（回答者 44 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 77.3%、「とても不自由」が 20.5%となっている

イ 第2・四半期（回答者 44 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 70.5%、「とても不自由」が 27.3%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 41 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 70.7%、「とても不自由」が 26.8%となっている

エ 第4・四半期（回答者 42 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 78.6%、「とても不自由」が 19.0%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□ものが見えにくいため新聞や本を読むことの不自由さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が 74.3%、「とても不自由」が 23.4%となっている

表 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

	全く不自由 はない	あまり不自由 はない	とても不自由	見えにくいので やめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0	1	9	34	4	44
	0.0%	2.3%	20.5%	77.3%	—	100.0%
第2・四半期	0	1	12	31	4	44
	0.0%	2.3%	27.3%	70.5%	—	100.0%
第3・四半期	0	1	11	29	5	41
	0.0%	2.4%	26.8%	70.7%	—	100.0%
第4・四半期	0	1	8	33	5	42
	0.0%	2.4%	19.0%	78.6%	—	100.0%
年間単純平均	0.0	1.0	10.0	31.8	4.5	42.8
	0.0%	2.3%	23.4%	74.3%	—	100.0%
R3年度平均	0.0	1.8	9.5	30.3	4.8	41.5
	0.0%	4.2%	22.9%	72.9%	—	100.0%
R2年度平均	0.3	1.0	12.0	31.8	2.5	45.0
	0.6%	2.2%	26.7%	70.6%	—	100.0%
R1年度平均	0.8	1.5	14.5	26.3	5.0	43.0
	1.7%	3.5%	33.7%	61.0%	—	100.0%
H30年度平均	1.0	2.3	12.8	28.5	10.5	44.5
	2.2%	5.1%	28.7%	64.0%	—	100.0%
H29年度平均	0.8	2.0	13.3	26.0	5.8	42.0
	1.8%	4.8%	31.5%	61.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

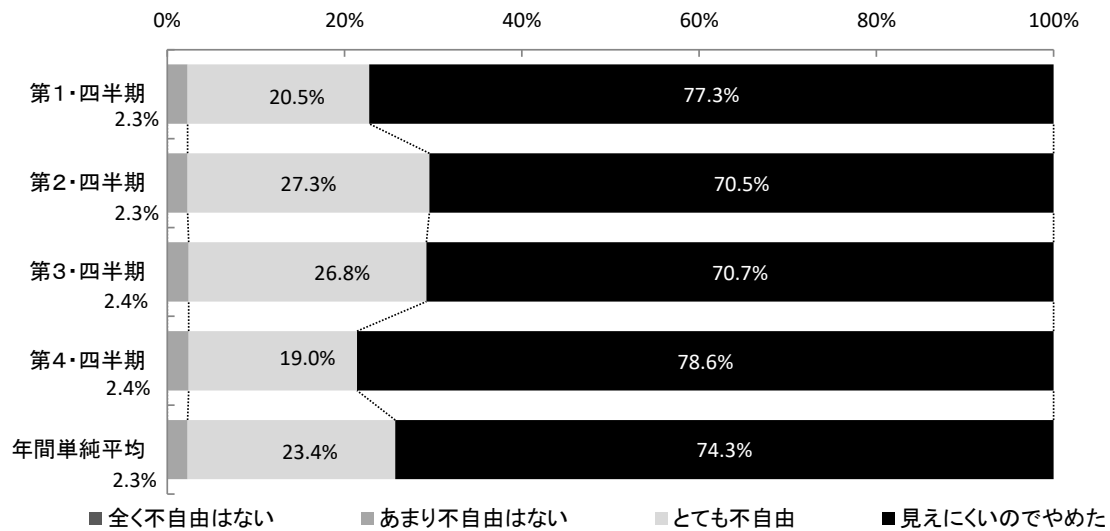


図 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者 45 人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 64.4%、「中くらいある」が 22.2%となっている

イ 第2・四半期（回答者 46 人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 60.9%、「中くらいある」が 26.1%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 59.5%、「中くらいある」が 26.2%となっている

エ 第4・四半期（回答者 46 人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 52.2%、「中くらいある」が 30.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「かなりある」が 59.2%、「中くらいある」が 26.3%となっている

表 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合 計
第1・四半期	29 64.4%	10 22.2%	6 13.3%	0 0.0%	3 —	45 100.0%
第2・四半期	28 60.9%	12 26.1%	6 13.0%	0 0.0%	2 —	46 100.0%
第3・四半期	25 59.5%	11 26.2%	5 11.9%	1 2.4%	4 —	42 100.0%
第4・四半期	24 52.2%	14 30.4%	8 17.4%	0 0.0%	1 —	46 100.0%
年間単純平均	26.5 59.2%	11.8 26.3%	6.3 14.0%	0.3 0.6%	2.5 —	44.8 100.0%
R3年度平均	26.3 58.3%	12.0 26.7%	6.5 14.4%	0.3 0.6%	1.3 —	45.0 100.0%
R2年度平均	27.5 59.5%	11.8 25.4%	7.0 15.1%	0.0 0.0%	1.3 —	46.3 100.0%
R1年度平均	25.3 54.0%	14.3 30.5%	7.3 15.5%	0.0 0.0%	1.3 —	46.8 100.0%
H30年度平均	25.0 53.5%	13.3 28.3%	8.5 18.2%	0.0 0.0%	8.3 —	46.8 100.0%
H29年度平均	23.5 51.9%	13.5 29.8%	8.0 17.7%	0.3 0.6%	2.5 —	45.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

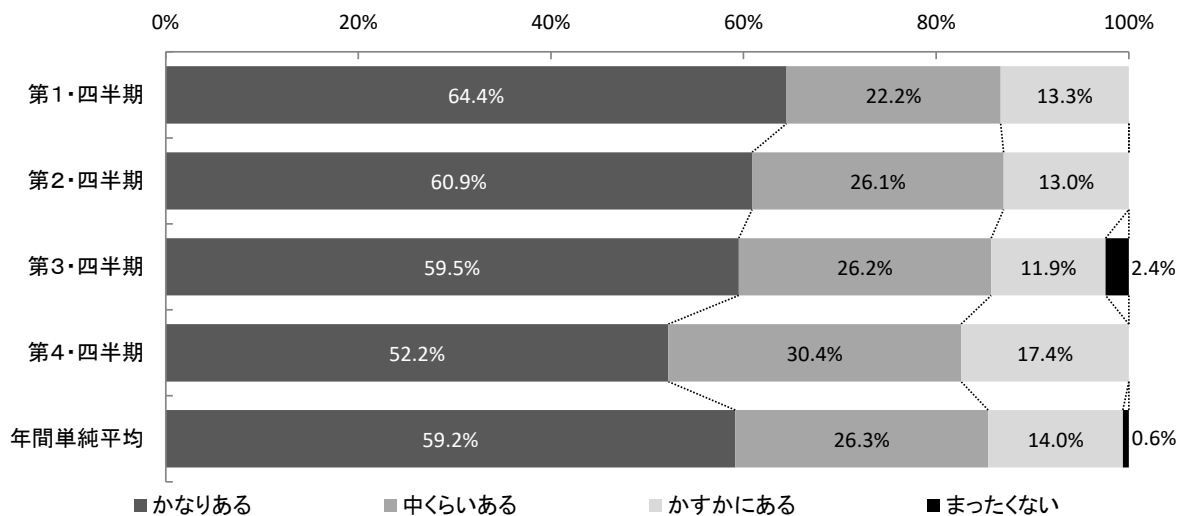


図 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

⑤-3 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 97.7%、「ない」が 2.3%となっている

イ 第2・四半期（回答者 42 人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 92.9%、「ない」が 7.1%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 40 人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 97.5%、「ない」が 2.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者 42 人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.2%、「ない」が 4.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「ある」が 95.8%、「ない」が 4.2%となっている

表 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	42	1	5	43
	97.7%	2.3%	—	100.0%
第2・四半期	39	3	6	42
	92.9%	7.1%	—	100.0%
第3・四半期	39	1	6	40
	97.5%	2.5%	—	100.0%
第4・四半期	40	2	5	42
	95.2%	4.8%	—	100.0%
年間単純平均	40.0	1.8	5.5	41.8
	95.8%	4.2%	—	100.0%
R3年度平均	41.3	2.8	2.3	44.0
	93.8%	6.3%	—	100.0%
R2年度平均	42.0	2.3	3.3	45.3
	94.5%	5.5%	—	100.0%
R1年度平均	42.8	2.5	2.8	45.3
	94.5%	5.5%	—	100.0%
H30年度平均	43.5	2.0	9.0	45.5
	95.6%	4.4%	—	100.0%
H29年度平均	41.8	2.8	3.3	44.5
	93.8%	6.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

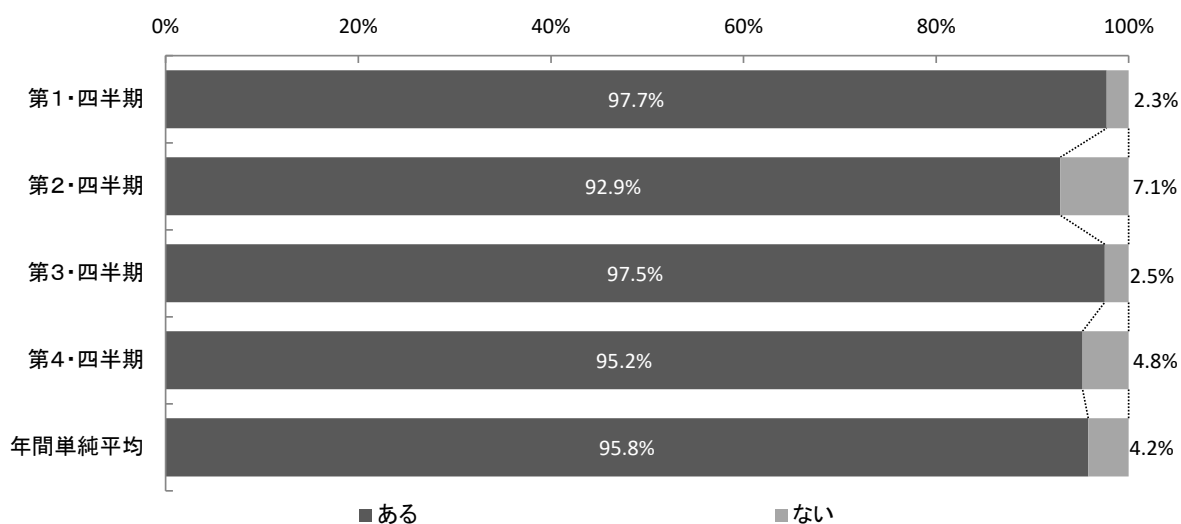


図 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 86.0%、「ない」が 14.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 41 人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 92.7%、「ない」が 7.3%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 40 人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 87.5%、「ない」が 12.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者 42 人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 85.7%、「ない」が 14.3%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「ある」が 88.0%、「ない」が 12.0%となっている

表 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	37	6	5	43
	86.0%	14.0%	—	100.0%
第2・四半期	38	3	7	41
	92.7%	7.3%	—	100.0%
第3・四半期	35	5	6	40
	87.5%	12.5%	—	100.0%
第4・四半期	36	6	5	42
	85.7%	14.3%	—	100.0%
年間単純平均	36.5	5.0	5.8	41.5
	88.0%	12.0%	—	100.0%
R3年度平均	38.5	5.5	2.3	44.0
	87.5%	12.5%	—	100.0%
R2年度平均	38.5	5.8	3.3	44.3
	87.0%	13.0%	—	100.0%
R1年度平均	40.3	5.3	2.5	45.5
	88.5%	11.5%	—	100.0%
H30年度平均	40.0	5.8	9.3	45.8
	87.4%	12.6%	—	100.0%
H29年度平均	36.8	7.3	3.8	44.0
	83.5%	16.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

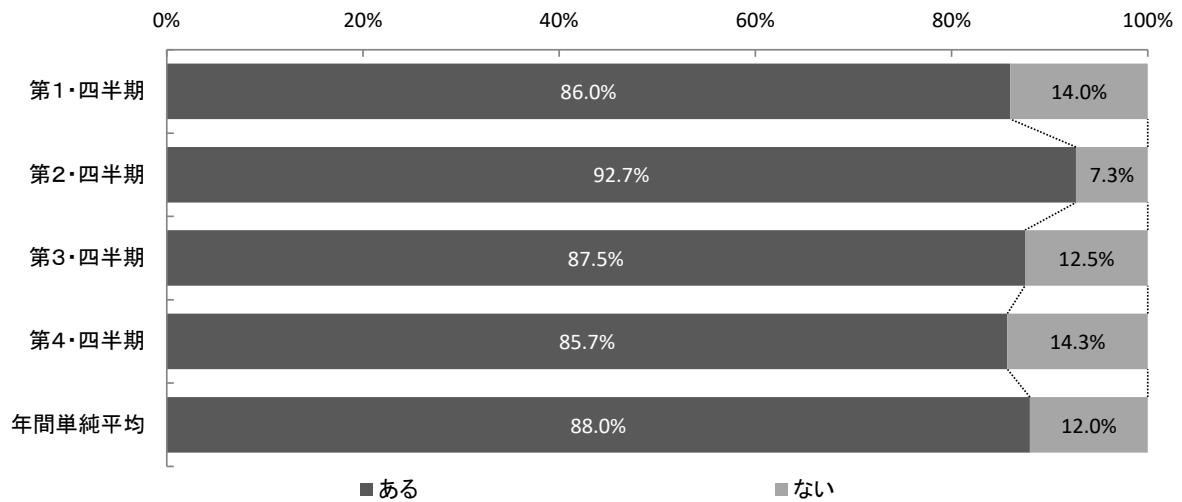


図 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

⑤-5 呼吸器領域に関する診断の有無

ア 第1・四半期（回答者 22 人）

○第1・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。

□「気管支炎」が 40.9%、「閉塞性細気管支炎」「気管支喘息」が 18.2%、「肺気腫」が 13.6%となっている

□その他としては、「酸素数値は普通だが、息苦しさがある」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 20 人）

○第2・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。

□「気管支炎」が 40.0%、「気管支喘息」が 25.0%、「閉塞性細気管支炎」「肺気腫」が 15.0%となっている

□その他としては、「肺マック症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 20 人）

○第3・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。

□「気管支炎」が 60.0%、「閉塞性細気管支炎」「気管支喘息」が 20.0%、「肺気腫」が 15.0%となっている

□その他としては、「食事中に咳込んでしまう」「非結核性抗酸菌症」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 23 人）

○第4・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。

□「気管支炎」が 56.5%、「気管支喘息」が 30.4%、「閉塞性細気管支炎」「肺気腫」が 8.7%となっている

□その他としては、「肺マック症」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-20及び図2-20のとおりである（複数回答）。

呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果の年間の平均では「気管支炎」が49.4%、「気管支喘息」が23.5%、「閉塞性細気管支炎」が15.3%、「肺気腫」が12.9%となっている

表2-20 呼吸器領域に関する診断の有無

	閉塞性細気管支炎	気管支喘息	肺気腫	気管支炎	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	4	4	3	9	9	26	22
	18.2%	18.2%	13.6%	40.9%	40.9%	—	100.0%
第2・四半期	3	5	3	8	6	28	20
	15.0%	25.0%	15.0%	40.0%	30.0%	—	100.0%
第3・四半期	4	4	3	12	7	26	20
	20.0%	20.0%	15.0%	60.0%	35.0%	—	100.0%
第4・四半期	2	7	2	13	5	24	23
	8.7%	30.4%	8.7%	56.5%	21.7%	—	100.0%
年間単純平均	3.3	5.0	2.8	10.5	6.8	26.0	21.3
	15.3%	23.5%	12.9%	49.4%	31.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

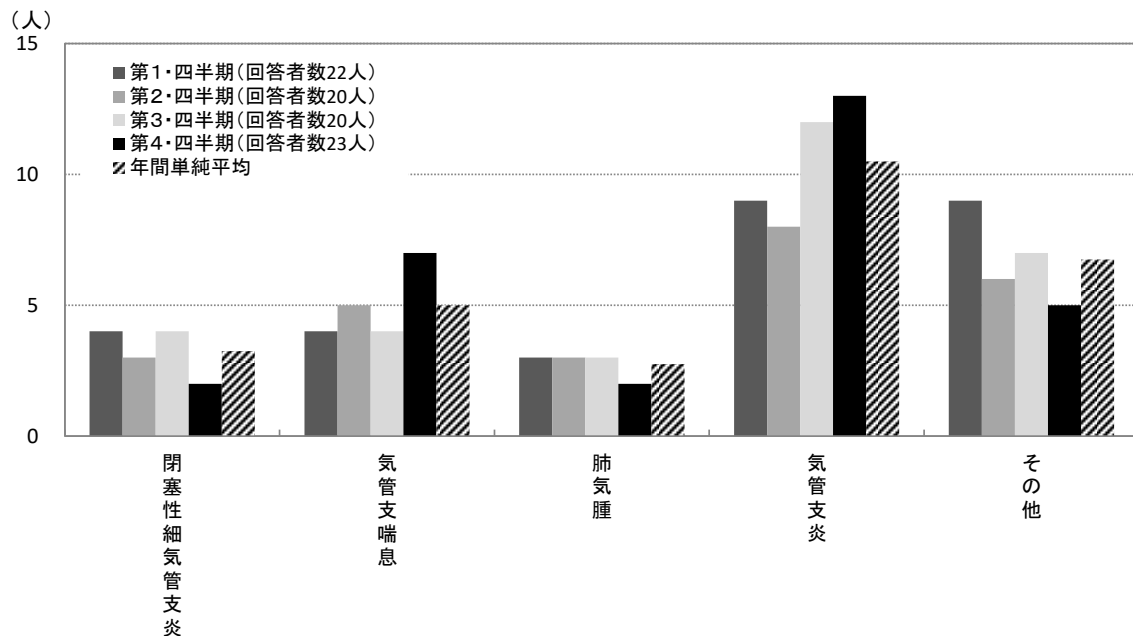


図2-20 呼吸器領域に関する診断の有無

⑤-6 呼吸器に関する症状の有無

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

- 第1・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 89.3%、「息切れ」が 28.6%となっている
- その他としては、「咳痰」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

- 第2・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 90.3%、「息切れ」が 25.8%となっている
- その他としては、「息が浅く、肺活量が少ない」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 29 人）

- 第3・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 96.6%、「息切れ」が 31.0%、「酸素の使用」が 3.4%となっている
- その他としては、「たんが食事中にも溜まり外食が出来ない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 32 人）

- 第4・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表 2-21 及び図 2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 93.8%、「息切れ」が 34.4%となっている
- その他としては、「ひどい咳の時に胸の表面がピリピリする」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-21 及び図 2-21 のとおりである（複数回答）。
- 呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果の年間の平均では「咳、たん」が 92.5%、「息切れ」が 30.0%、「酸素の使用」が 0.8%となっている

表 2-21 呼吸器に関する症状の有無

	咳、たん	息切れ	酸素の使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	25	8	0	2	20	28
	89.3%	28.6%	0.0%	7.1%	—	100.0%
第2・四半期	28	8	0	4	17	31
	90.3%	25.8%	0.0%	12.9%	—	100.0%
第3・四半期	28	9	1	3	17	29
	96.6%	31.0%	3.4%	10.3%	—	100.0%
第4・四半期	30	11	0	2	15	32
	93.8%	34.4%	0.0%	6.3%	—	100.0%
年間単純平均	27.8	9.0	0.3	2.8	17.3	30.0
	92.5%	30.0%	0.8%	9.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

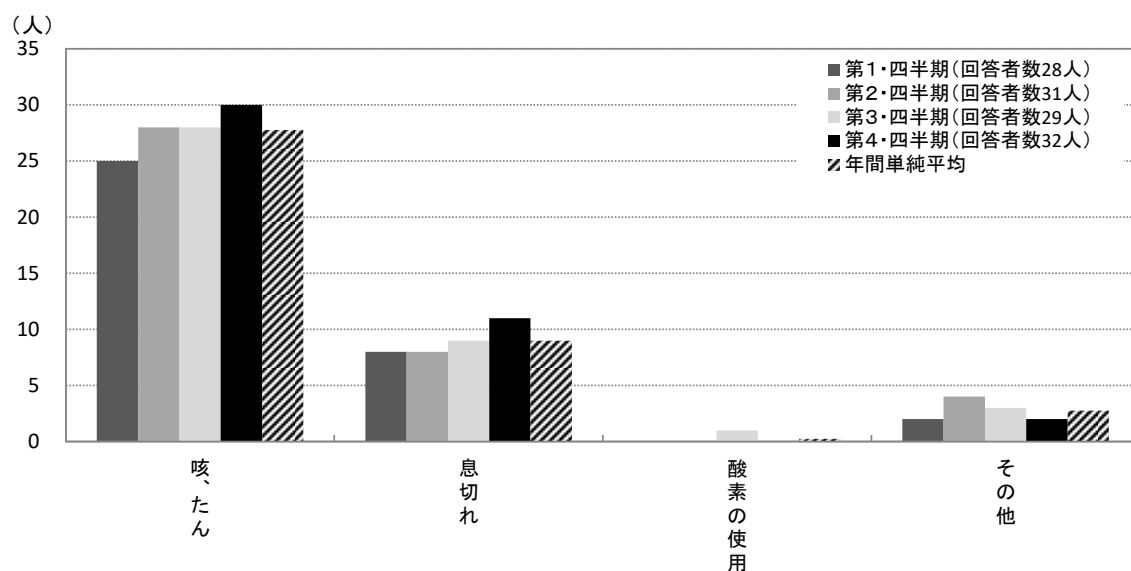


図 2-21 呼吸器に関する症状の有無

⑤ー7 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 44 人）

○第1・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 90.9%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 72.7%、「瘢痕が残る」が 54.5%となっている

□その他としては、「日光に当たると痒みや、ヒリヒリする」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 45 人）

○第2・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 88.9%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 73.3%、「瘢痕が残る」が 53.3%となっている

□その他としては、「爪がないので物がつかめない」「リンパ腫様丘疹症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

○第3・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 88.6%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 72.7%、「瘢痕が残る」が 50.0%となっている

□その他としては、「アトピー性皮膚炎・水虫」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 44 人）

○第4・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 84.1%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 77.3%、「瘢痕が残る」が 56.8%となっている

□その他としては、「アトピー性皮膚炎・毛嚢炎」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「爪の変更、剥離」が 88.1%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 74.0%、「瘢痕が残る」が 53.7%となっている

表 2-22 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

	皮膚のかゆみ、乾燥	瘢痕が残る	爪の変更、剥離	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	32 72.7%	24 54.5%	40 90.9%	4 9.1%	4 —	44 100.0%
第2・四半期	33 73.3%	24 53.3%	40 88.9%	5 11.1%	3 —	45 100.0%
第3・四半期	32 72.7%	22 50.0%	39 88.6%	7 15.9%	2 —	44 100.0%
第4・四半期	34 77.3%	25 56.8%	37 84.1%	3 6.8%	3 —	44 100.0%
年間単純平均	32.8 74.0%	23.8 53.7%	39.0 88.1%	4.8 10.7%	3.0 —	44.3 100.0%
R3年度平均	32.5 75.6%	22.8 52.9%	36.0 83.7%	2.5 5.8%	3.3 —	43.0 100.0%
R2年度平均	36.0 81.4%	25.0 56.5%	37.3 84.2%	1.5 3.4%	3.3 —	44.3 100.0%
R1年度平均	36.5 80.7%	20.5 45.3%	36.0 79.6%	3.0 6.6%	2.8 —	45.3 100.0%
H30年度平均	36.8 82.1%	20.8 46.4%	37.5 83.8%	2.3 5.0%	10.3 —	44.8 100.0%
H29年度平均	35.0 80.9%	21.8 50.3%	37.5 86.7%	2.5 5.8%	4.5 —	43.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

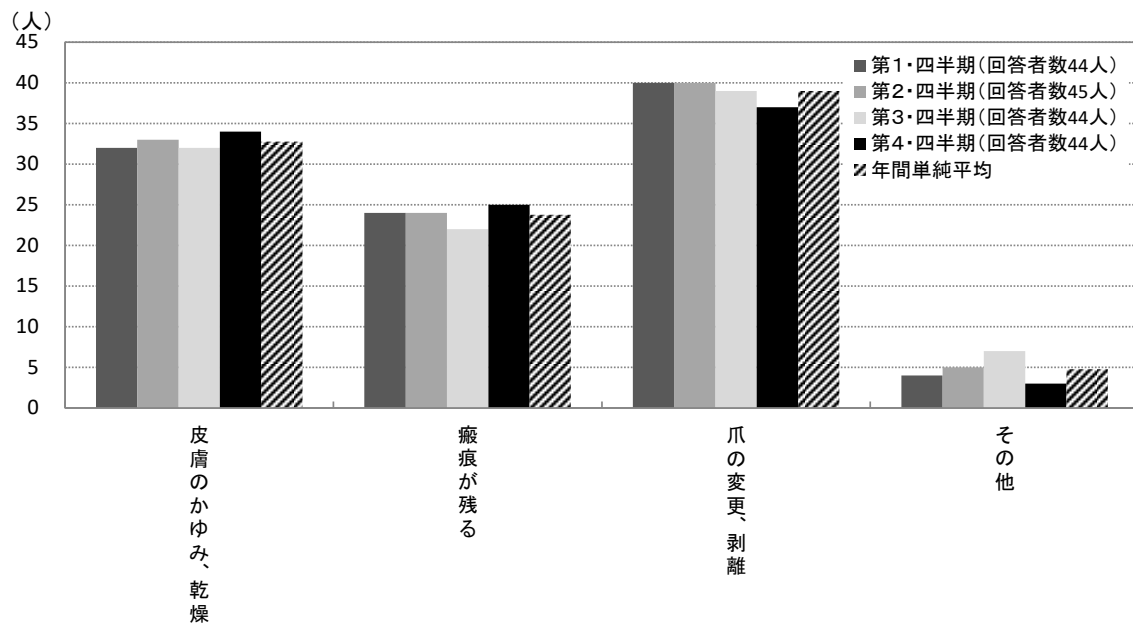


図 2-22 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

⑤-7 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

- 第1・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。
- 「高血圧」が 57.1%、「粘膜不全」が 35.7%、「心肺機能の低下・異常」が 32.1%、「肝機能の低下・異常」が 21.4%となっている
- その他としては、「甲状腺腫」「血糖値が高い」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 25 人）

- 第2・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。
- 「高血圧」が 60.0%、「心肺機能の低下・異常」「粘膜不全」が 36.0%となっている
- その他としては、「便秘症」「貧血症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 25 人）

- 第3・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。
- 「高血圧」が 56.0%、「心肺機能の低下・異常」が 40.0%、「粘膜不全」が 36.0%となっている
- その他としては、「高脂血症」「以前急性虫垂炎から腹膜炎を起こし、開腹手術後の腹部の引きつり感が時々ある」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 26 人）

- 第4・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。
- 「高血圧」が 57.7%、「粘膜不全」が 34.6%、「心肺機能の低下・異常」が 26.9%となっている
- その他としては、「粘膜が薄くなっている為果物で酔ぱく感じる柑橘類は控える」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。
- 内臓機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「高血圧」が 57.7%、「粘膜不全」が 35.6%、「心肺機能の低下・異常」が 33.7%となっている

表 2-23 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

	高血圧	粘膜不全	心肺機能の低下・異常	肝機能の低下・異常	腎機能の低下・異常	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	10	9	6	3	5	20	28
	57.1%	35.7%	32.1%	21.4%	10.7%	17.9%	—	100.0%
第2・四半期	15	9	9	5	1	4	23	25
	60.0%	36.0%	36.0%	20.0%	4.0%	16.0%	—	100.0%
第3・四半期	14	9	10	6	3	4	21	25
	56.0%	36.0%	40.0%	24.0%	12.0%	16.0%	—	100.0%
第4・四半期	15	9	7	5	5	5	21	26
	57.7%	34.6%	26.9%	19.2%	19.2%	19.2%	—	100.0%
年間単純平均	15.0	9.3	8.8	5.5	3.0	4.5	21.3	26.0
	57.7%	35.6%	33.7%	21.2%	11.5%	17.3%	—	100.0%
R3年度平均	15.0	8.3	7.3	6.3	3.3	3.3	21.8	24.5
	61.2%	33.7%	29.6%	25.5%	13.3%	13.3%	—	100.0%
R2年度平均	16.5	12.3	9.3	5.0	4.8	2.8	20.0	27.5
	60.0%	44.5%	33.6%	18.2%	17.3%	10.0%	—	100.0%
R1年度平均	17.5	10.8	10.5	5.5	5.3	4.5	20.8	27.3
	64.2%	39.4%	38.5%	20.2%	19.3%	16.5%	—	100.0%
H30年度平均	15.5	10.8	9.3	5.8	3.3	5.0	27.8	27.3
	56.9%	39.4%	33.9%	21.1%	11.9%	18.3%	—	100.0%
H29年度平均	14.3	10.8	8.5	6.8	3.5	4.5	22.3	25.5
	55.9%	42.2%	33.3%	26.5%	13.7%	17.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

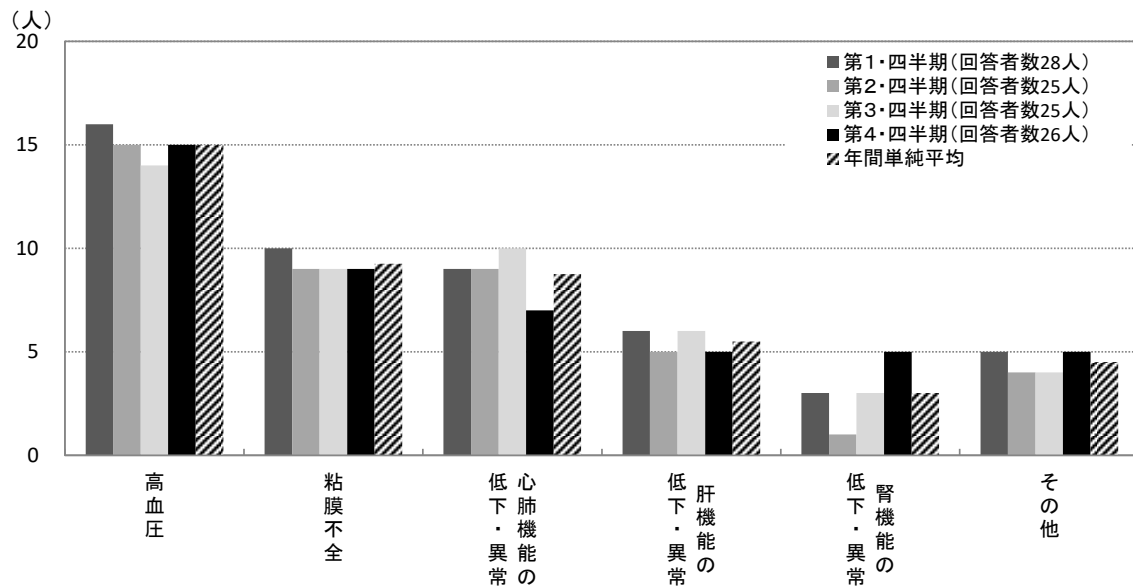


図 2-23 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【聴覚に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 20 人）

- 第1・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 80.0%となっている
- その他としては、「右鼓膜炎と両外耳炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 17 人）

- 第2・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 76.5%となっている
- その他としては、「耳鳴り」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 20 人）

- 第3・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 80.0%となっている
- その他としては、「めまい、耳鳴り」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 18 人）

- 第4・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 88.9%となっている
- その他としては、「右鼓膜炎と両外耳炎、眩暈」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 聴覚に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「音声が聞き取りにくい」が 81.3%となっている

表 2-24 視力以外の状況【聴覚に関する症状】の推移

	音声が聞き取りにくい	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	6	28	20
	80.0%	30.0%	—	100.0%
第2・四半期	13	4	31	17
	76.5%	23.5%	—	100.0%
第3・四半期	16	4	26	20
	80.0%	20.0%	—	100.0%
第4・四半期	16	2	29	18
	88.9%	11.1%	—	100.0%
年間単純平均	15.3	4.0	28.5	18.8
	81.3%	21.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

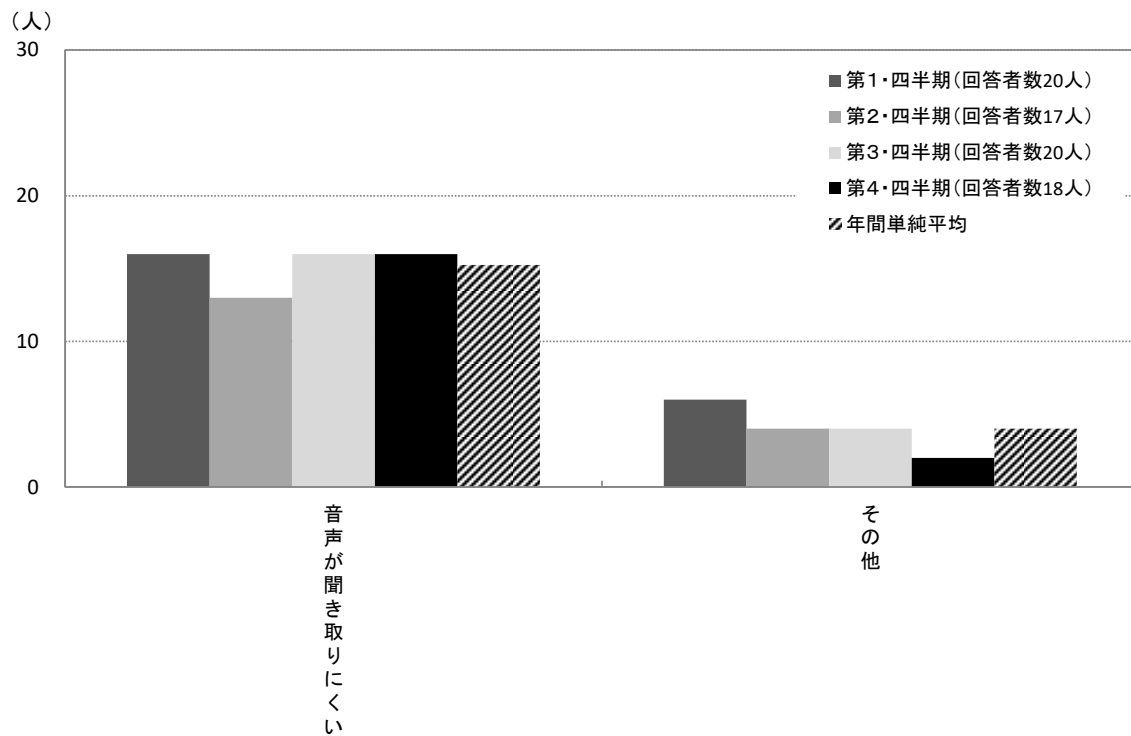


図 2-24 視力以外の状況【聴覚に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 48 人）

○第1・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が 97.9%、「さかさまつげ」が 95.8%、「角膜の炎症」が 64.6% となっている

□その他としては、「角膜の角化」「高眼圧」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 48 人）

○第2・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が 97.9%、「さかさまつげ」が 93.8%、「角膜の炎症」が 56.3% となっている

□その他としては、「結膜炎」「緑内障、角膜白濁」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 45 人）

○第3・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が 97.8%、「さかさまつげ」が 95.6%、「角膜の炎症」が 64.4% となっている

□その他としては、「瞼球癒着、内反症、爛れ」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

○第4・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表 2-25 及び図 2-25 のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が 97.9%、「さかさまつげ」が 87.2%、「角膜の炎症」が 57.4% となっている

□その他としては、「視力低下」「角膜混濁」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-25 及び図 2-25 のとおりである（複数回答）。

眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「ドライアイ」が 97.9%、「さかさまつげ」が 93.1%、「角膜の炎症」が 60.6% となっている

表 2-25 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

	さかさまつげ	ドライアイ	角膜の炎症	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	46	47	31	12	0	48
	95.8%	97.9%	64.6%	25.0%	—	100.0%
第2・四半期	45	47	27	12	0	48
	93.8%	97.9%	56.3%	25.0%	—	100.0%
第3・四半期	43	44	29	9	1	45
	95.6%	97.8%	64.4%	20.0%	—	100.0%
第4・四半期	41	46	27	10	0	47
	87.2%	97.9%	57.4%	21.3%	—	100.0%
年間単純平均	43.8	46.0	28.5	10.8	0.3	47.0
	93.1%	97.9%	60.6%	22.9%	—	100.0%
R3年度平均	42.3	43.5	31.0	8.0	0.8	45.5
	92.9%	95.6%	68.1%	17.6%	—	100.0%
R2年度平均	41.3	44.3	31.0	9.8	1.5	46.0
	89.7%	96.2%	67.4%	21.2%	—	100.0%
R1年度平均	41.5	45.8	30.8	10.0	0.5	47.5
	87.4%	96.3%	64.7%	21.1%	—	100.0%
H30年度平均	44.3	45.5	33.5	8.3	7.3	47.8
	92.7%	95.3%	70.2%	17.3%	—	100.0%
H29年度平均	41.5	45.0	34.3	9.0	1.5	46.3
	89.7%	97.3%	74.1%	19.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

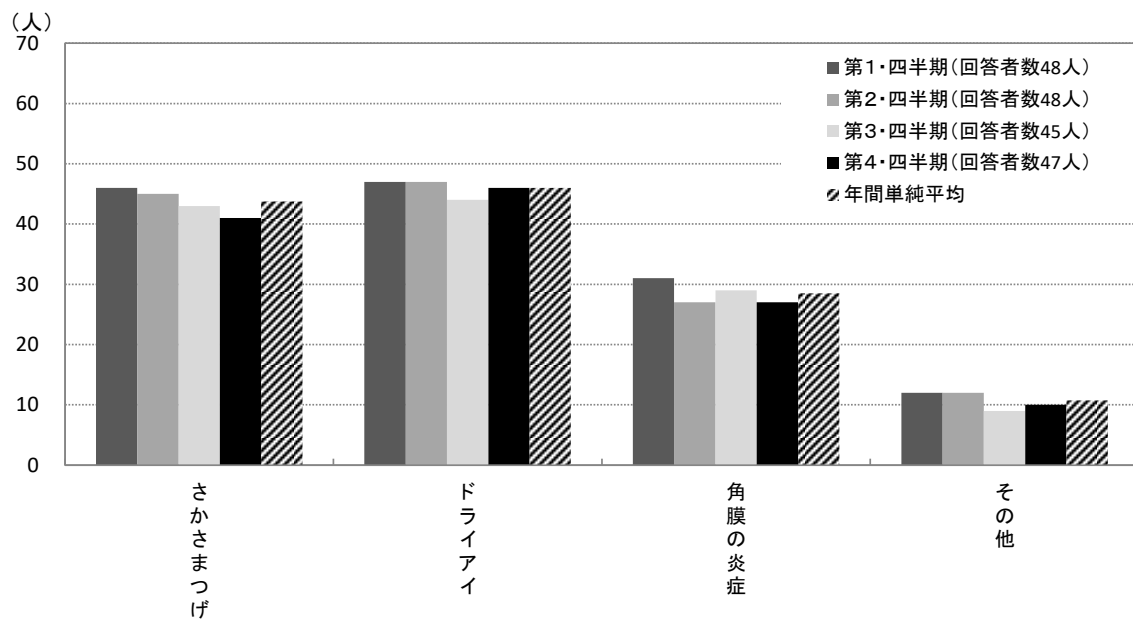


図 2-25 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【口腔に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 34 人）

○第1・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 82.4%、「口内炎」が 44.1%、「味覚障害」が 26.5%となっている

□その他としては、「舌が常にただれている」「歯周病」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 31 人）

○第2・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 87.1%、「口内炎」が 54.8%、「味覚障害」が 16.1%となっている

□その他としては、「塩味を強く感じる」「アフタ性潰瘍」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 32 人）

○第3・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 84.4%、「口内炎」が 46.9%、「味覚障害」が 18.8%となっている

□その他としては、「唾液が出ないので食物がのみこめない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 33 人）

○第4・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 87.9%、「口内炎」が 51.5%、「味覚障害」が 18.2%となっている

□その他としては、「喉の違和感」「口腔内狭窄」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

口腔に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「口の中が乾く」が 85.4%、「口内炎」が 49.2%、「味覚障害」が 20.0%となっている

表 2-26 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

	口内炎	味覚障害	口の中が乾く	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	9	28	6	14	34
	44.1%	26.5%	82.4%	17.6%	—	100.0%
第2・四半期	17	5	27	6	17	31
	54.8%	16.1%	87.1%	19.4%	—	100.0%
第3・四半期	15	6	27	7	14	32
	46.9%	18.8%	84.4%	21.9%	—	100.0%
第4・四半期	17	6	29	5	14	33
	51.5%	18.2%	87.9%	15.2%	—	100.0%
年間単純平均	16.0	6.5	27.8	6.0	14.8	32.5
	49.2%	20.0%	85.4%	18.5%	—	100.0%
R3年度平均	16.8	6.3	27.0	6.3	13.8	32.5
	51.5%	19.2%	83.1%	19.2%	—	100.0%
R2年度平均	13.8	5.5	29.0	5.8	14.0	33.5
	41.0%	16.4%	76.6%	17.2%	—	100.0%
R1年度平均	15.8	6.3	29.8	6.8	11.5	35.5
	44.4%	17.6%	83.8%	19.0%	—	100.0%
H30年度平均	17.3	6.3	29.5	6.8	19.8	34.3
	50.4%	18.2%	86.1%	19.7%	—	100.0%
H29年度平均	16.3	6.3	27.3	7.5	15.0	34.0
	47.8%	18.4%	80.1%	22.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

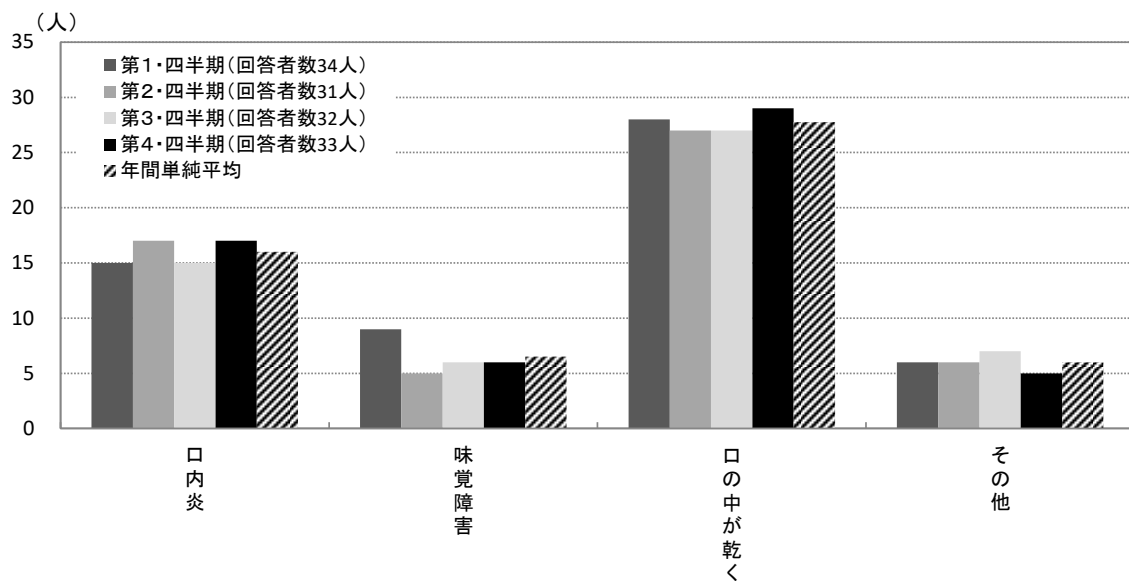


図 2-26 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【精神的な症状】

ア 第1・四半期（回答者 24 人）

- 第1・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 75.0%、「不安障害」が 66.7%、「うつ」が 29.2%となっている
- その他としては、「過去の PTSD」「無気力障害」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 23 人）

- 第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 78.3%、「不安障害」が 60.9%、「うつ」が 34.8%となっている
- その他としては、「時々熟睡が出きない事がある」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 23 人）

- 第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 78.3%、「不安障害」が 56.5%、「うつ」が 26.1%となっている
- その他としては、「眠りが浅い」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 24 人）

- 第4・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。
- 「睡眠障害」が 79.2%、「不安障害」が 54.2%、「うつ」が 25.0%となっている
- その他としては、「過去の対人的 PTSD」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。
- 精神的な症状についてたずねた結果の年間の平均では「睡眠障害」が 77.7%、「不安障害」が 59.6%、「うつ」が 28.7%となっている

表 2-27 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

	不安障害	睡眠障害	うつ	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	16	18	7	3	24	24
	66.7%	75.0%	29.2%	12.5%	—	100.0%
第2・四半期	14	18	8	2	25	23
	60.9%	78.3%	34.8%	8.7%	—	100.0%
第3・四半期	13	18	6	4	23	23
	56.5%	78.3%	26.1%	17.4%	—	100.0%
第4・四半期	13	19	6	2	23	24
	54.2%	79.2%	25.0%	8.3%	—	100.0%
年間単純平均	14.0	18.3	6.8	2.8	23.8	23.5
	59.6%	77.7%	28.7%	11.7%	—	100.0%
R3年度平均	15.0	17.0	6.0	2.3	23.0	23.3
	64.5%	73.1%	25.8%	9.7%	—	100.0%
R2年度平均	15.5	17.8	6.8	1.8	24.5	23.0
	67.4%	77.2%	29.3%	7.6%	—	100.0%
R1年度平均	15.3	18.0	6.5	2.5	23.0	25.0
	61.0%	72.0%	26.0%	10.0%	—	100.0%
H30年度平均	15.3	16.0	4.8	2.3	32.8	22.3
	68.5%	71.9%	21.3%	10.1%	—	100.0%
H29年度平均	14.5	14.3	4.8	2.5	26.5	21.3
	68.2%	67.1%	22.4%	11.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

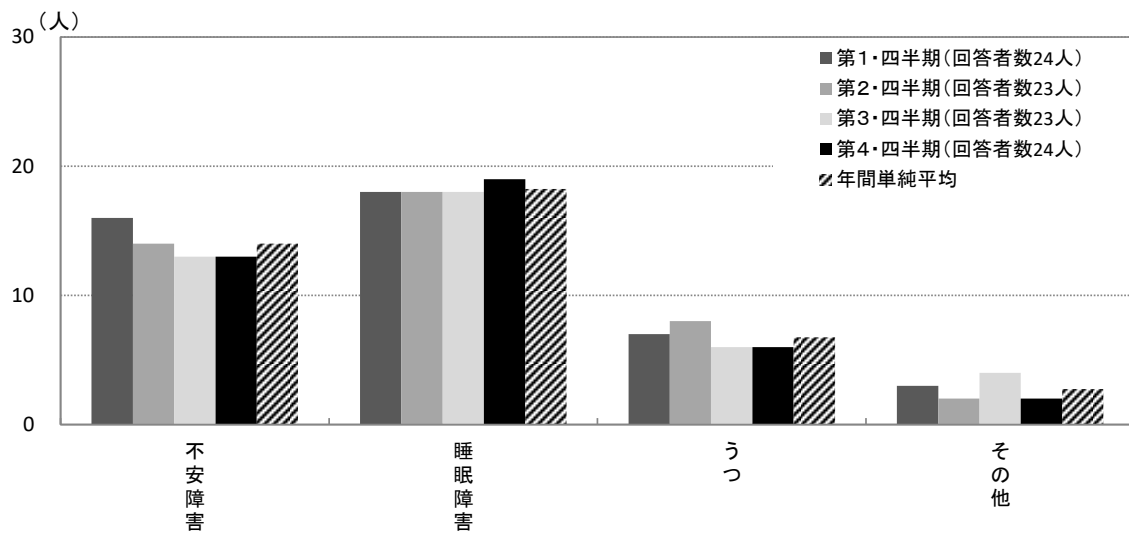


図 2-27 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況（その他の後遺症等）について

○ 本人または介護者にたずねた視力以外の状況などについて主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 骨粗鬆症
- ・ 食道の入り口が細くなったのか、食べ物を飲み込む時に飲み込みにくくなってきた。爪がないためか指先の感覚がうまくわからないので力が入りにくい
- ・ 呼吸器（のど）が不安
- ・ 硝子体混濁のため入院手術したのですが、その後飛蚊症になり現在もまだ治っていません
- ・ 胃炎、首と肩が痛い
- ・ 唾液が少ないので虫歯になりやすい
- ・ 年齢と共に何が起るやら不安
- ・ 膣萎縮、排泄(肛門)痛、骨密度の減少(皮膚におけるビタミンD生成機能の低下?)
- ・ 腰痛。両手の手根管症候群で手術、しびれは残るが痛みは治った
- ・ 加齢の為の腰痛、高脂血症
- ・ 少しの運動で心拍数が急増し苦しい
- ・ 頭痛・化学物質過敏症
- ・ 首や肩の重度のこり。全身の関節が痛む
- ・ 全身の筋肉と関節が痛い
- ・ 全身の関節痛とひどい頭痛
- ・ 年齢的に将来の身体に不安
- ・ 脳梗塞による嚥下障害がある
- ・ 脳梗塞による副作用が若干ある（言語障害など）
- ・ 脳梗塞、鼻からの出血で入院、手術を行なう
- ・ 胃ガンの手術
- ・ 骨折
- ・ 便秘があり、夜間腹痛がある
- ・ 腹痛がある
- ・ 心房頻拍
- ・ 不整脈、ペースメーカー使用
- ・ 毎日生きるのが大変そうです
- ・ 夜になるとかゆいと言って薬を飲み、眼剤を飲みますが寝れない
- ・ 皮膚のかゆみの為、夜になると寝れない
- ・ 肩こり、主に右の座骨神経痛（リハビリ治療中）
- ・ 各月1回ずつの心療内科受診（カウンセリング）、整形外科受診時の腹痛部の温湿布・干渉波リハビリ治療中
- ・ 両腰下肢の座骨神経痛(リハビリ治療中)
- ・ 精神面で大変になってきた
- ・ てんかん、片頭痛

- ・頻尿
- ・身体の筋肉や関節が弱ってきている
- ・泌尿器
- ・頭痛や頸の痛み（まぶたが下がっているので頸のうしろが重痛い）
- ・リンデロン錠・ボノテオ錠による副作用

■ 主たる介護者の状況について

◎主たる介護者

○主たる介護者は以下のとおりである。

□年間平均では、「主として介護をしている配偶者」が 48.8%、「主として介護をしている親」が 19.1%となっている

表 2-28 主たる介護者の推移

	主として介護 をしている配 偶者	主として介護 をしている親	主として介護 をしている兄 弟姉妹	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	19 48.7%	7 17.9%	3 7.7%	10 25.6%	14 —	39 100.0%
第2・四半期	21 48.8%	8 18.6%	3 7.0%	11 25.6%	11 —	43 100.0%
第3・四半期	19 46.3%	8 19.5%	3 7.3%	11 26.8%	11 —	41 100.0%
第4・四半期	20 51.3%	8 20.5%	3 7.7%	8 20.5%	13 —	39 100.0%
年間単純平均	19.8 48.8%	7.8 19.1%	3.0 7.4%	10.0 24.7%	12.3 —	40.5 100.0%
R3年度平均	19.8 50.3%	10.5 26.8%	0.5 1.3%	8.5 21.7%	13.3 —	39.3 100.0%
R2年度平均	20.0 47.9%	12.0 28.7%	1.0 2.4%	8.8 21.0%	11.8 —	41.8 100.0%
R1年度平均	20.3 47.6%	12.0 28.2%	1.5 3.5%	8.8 20.6%	12.3 —	42.5 100.0%
H30年度平均	21.8 51.2%	12.3 28.8%	1.0 2.4%	7.5 17.6%	12.8 —	42.5 100.0%
H29年度平均	21.3 50.3%	12.3 29.0%	1.8 4.1%	7.0 16.6%	11.3 —	42.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

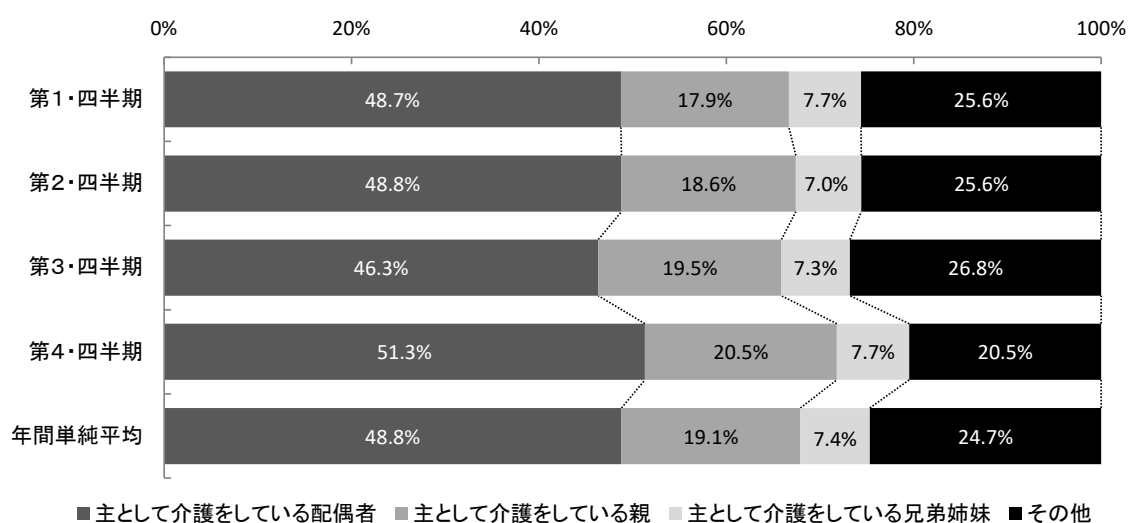


図 2-28 主たる介護者の推移

⑥主たる介護者の健康状態

ア 第1・四半期（回答者 38 人）

- 第1・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 13.2%、「まあ良好」が 55.3%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 18.4%、「やや悪い」が 13.2%である

イ 第2・四半期（回答者 37 人）

- 第2・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 10.8%、「まあ良好」が 51.4%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 10.8%、「やや悪い」が 27.0%である

ウ 第3・四半期（回答者 36 人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 5.6%、「まあ良好」が 58.3%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 13.9%、「やや悪い」が 22.2%である

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

- 第4・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 11.1%、「まあ良好」が 47.2%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 19.4%、「やや悪い」が 22.2%である

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 主な介護者の健康状態については年間の平均では「たいへん良好」が 10.2%、「まあ良好」が 53.1%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 15.6%、「やや悪い」が 21.1%である

表 2-29 主たる介護者の健康状態の推移

	たいへん良好	まあ良好	やや悪い	たいへん悪い	回答なし	合 計
第1・四半期	5 13.2%	21 55.3%	5 13.2%	7 18.4%	15 —	38 100.0%
第2・四半期	4 10.8%	19 51.4%	10 27.0%	4 10.8%	17 —	37 100.0%
第3・四半期	2 5.6%	21 58.3%	8 22.2%	5 13.9%	16 —	36 100.0%
第4・四半期	4 11.1%	17 47.2%	8 22.2%	7 19.4%	16 —	36 100.0%
年間単純平均	3.8 10.2%	19.5 53.1%	7.8 21.1%	5.8 15.6%	16.0 —	36.8 100.0%
R3年度平均	4.0 10.5%	19.0 49.7%	7.3 19.0%	8.0 20.9%	14.3 —	38.3 100.0%
R2年度平均	4.3 10.5%	20.5 50.6%	8.3 20.4%	7.5 18.5%	13.0 —	40.5 100.0%
R1年度平均	3.5 8.3%	21.5 51.2%	9.8 23.2%	7.3 17.3%	12.5 —	42.0 100.0%
H30年度平均	2.0 5.0%	20.8 51.6%	10.8 26.7%	6.8 16.8%	14.8 —	40.3 100.0%
H29年度平均	1.0 2.5%	23.3 57.4%	10.0 24.7%	6.3 15.4%	13.0 —	40.5 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

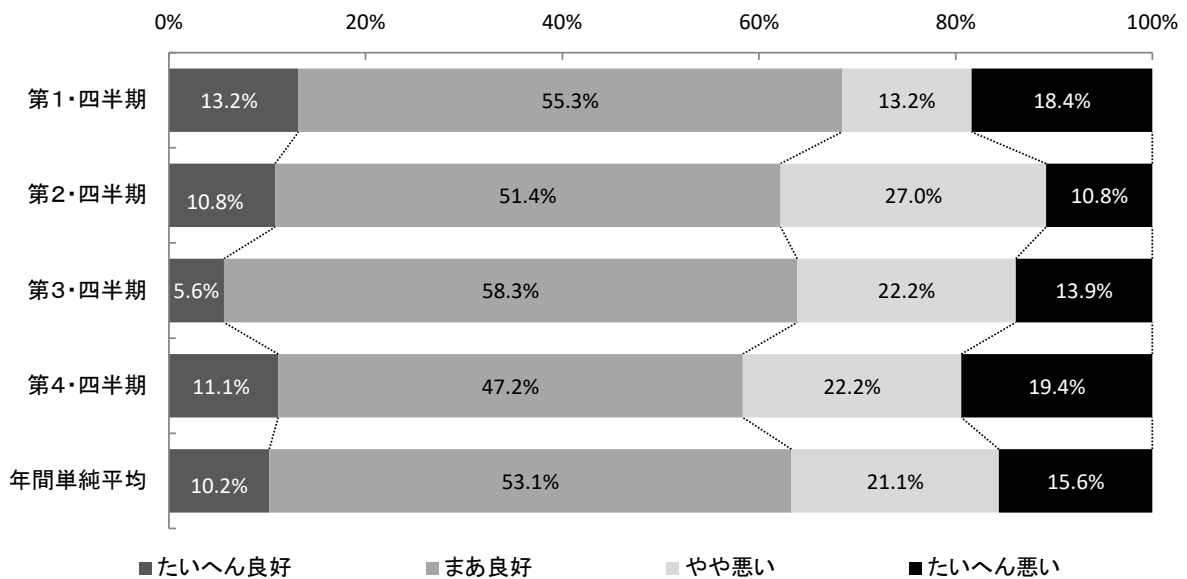


図 2-29 主たる介護者の健康状態の推移

⑥ー1 主たる介護者の健康状態 詳細

○主たる介護者の健康状態についての主な具体的理由については、以下のとおりである
(自由記載、順不同、複数記載)。

◇たいへん良好

- ・特に問題がないから
- ・食生活や睡眠の確保が出来ている
- ・規則正しい生活を心掛けている
- ・沢山の方に協力してもらえるようになった
- ・体力があるため
- ・ストレスを発散しているため
- ・病気がない

◇まあ良好

- ・スポーツ(ヨガ)をしてる
- ・皆に助けをもらうから
- ・本人が明るいので元気をもらえる
- ・介護する必要がないため
- ・地域活動が少しずつ開催される様になってきたので、気持ち的に明るくなった
- ・コロナ感染に気をつけながら少しずつ生活できている
- ・食・運動・休養に気をつけている
- ・気をつけているが年齢とともに弱っている事を感じる様になった
- ・体調管理に気を使っている
- ・ある程度自分の事は自分でできている、あまり負担にはなっていない
- ・ヘルパーさんやデイサービスを利用して自分の時間を有効に使っている
- ・加齢による体力の衰え
- ・ところどころ体が痛いですがコロナ感染する事なく過ごせてる
- ・歳のせいで疲れもある
- ・寝込むことはなかった
- ・膝、肩こり、高脂血症等
- ・腰痛、膝痛がかなりあるが、日常生活に大きな支障なし
- ・特に異状がないので
- ・食事と運動に気をつけている
- ・息抜きをする場所があるから

◇やや悪い

- ・地域の行事の事で、代わりに自分がやらなければいけない事が増え忙しくなる
- ・体力がおちているのか疲れて仕方がない
- ・疲れやすくなってきた

- ・腰痛
- ・今年の夏は暑くてコロナもあり外出が増々億劫だった。9月に入り、带状疱疹が発生、年齢と疲れが重なり、気持ちが落ち込んだ
- ・仕事が忙しい中で介護をするのがきつくなってきた
- ・腰のあたりの痛み
- ・転んでしまい歩行がスムーズではない
- ・腰痛
- ・介護がしんどくなっている。自分の事ですら、まともにできない事が増えた
- ・腰を痛めた
- ・ギックリ腰、五十肩など、体が痛くて大変な時期があった
- ・血圧上昇、首の捻挫等あり、活動が制約された
- ・腰痛がひどい、物忘れがだんだん多くなった
- ・体力低下
- ・全て会話で情報を伝えないと生活できないので疲れる
- ・コロナ禍と介護が重なり、休息がとれない
- ・常に介護が必要なため
- ・自身も障害がある
- ・介護量増加、仕事と子供と主人と実父の介護増加
- ・全盲で苦しんでいる主人と一緒に苦しいです
- ・介助者も目が悪い
- ・介護者も高齢の為疲労もある

◇たいへん悪い

- ・色々体調悪くて入院している。特に足腰が痛い
- ・仕事が忙しすぎて、手がまわらなかった
- ・コロナに感染した
- ・自分も体調が悪いので介助が辛い
- ・介護疲れ
- ・年齢的にも自分自身の持っている病気もあり、毎日実家に行って介護するのに疲れている
- ・足が悪いのでうまく歩けず年齢的にも大変です
- ・足が歩くのがだんだんと無理になり大変
- ・足が痛いのと、年齢的に体力を低下
- ・常に介護が必要なため
- ・高齢の為
- ・視覚状態の悪化
- ・介護者も目が悪い
- ・配偶者の視力障害による視力低下による不安

⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無

ア 第1・四半期（回答者 37 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 32.4%、「減った」と回答した人は 0.0%、
「変わらない」と回答した人は 51.4%であった

□一方で 16.2%の人は、困ったことは「ない」と回答している

イ 第2・四半期（回答者 39 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 30.8%、「減った」と回答した人は 2.6%、
「変わらない」と回答した人は 53.8%であった

□一方で 12.8%の人は、困ったことは「ない」と回答している

ウ 第3・四半期（回答者 36 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 30.6%、「減った」と回答した人は 2.8%、
「変わらない」と回答した人は 55.6%であった

□一方で 11.1%の人は、困ったことは「ない」と回答している

エ 第4・四半期（回答者 37 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 29.7%、「減った」と回答した人は 5.4%、
「変わらない」と回答した人は 45.9%であった

□一方で 18.9%の人は、困ったことは「ない」と回答している

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 30.9%、「減った」と回答した人は 2.7%、
「変わらない」と回答した人は 51.7%である

□また、困ったことは「ない」と回答した人は 14.8%である

表 2-30 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

	困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことが 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
第1・四半期	12 32.4%	0 0.0%	19 51.4%	6 16.2%	16 —	37 100.0%
第2・四半期	12 30.8%	1 2.6%	21 53.8%	5 12.8%	15 —	39 100.0%
第3・四半期	11 30.6%	1 2.8%	20 55.6%	4 11.1%	16 —	36 100.0%
第4・四半期	11 29.7%	2 5.4%	17 45.9%	7 18.9%	15 —	37 100.0%
年間単純平均	11.5 30.9%	1.0 2.7%	19.3 51.7%	5.5 14.8%	15.5 —	37.3 100.0%
R3年度平均	12.0 31.4%	1.3 3.3%	21.3 55.6%	3.8 9.8%	14.3 —	38.3 100.0%
R2年度平均	14.5 37.4%	2.3 5.8%	17.3 44.5%	4.8 12.3%	14.8 —	38.8 100.0%
R1年度平均	14.0 35.0%	2.8 6.9%	19.3 48.1%	4.0 10.0%	14.8 —	40.0 100.0%
H30年度平均	13.8 34.8%	1.5 3.8%	20.0 50.6%	4.3 10.8%	15.5 —	39.5 100.0%
H29年度平均	13.5 33.5%	1.3 3.1%	21.8 54.0%	3.8 9.3%	13.3 —	40.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

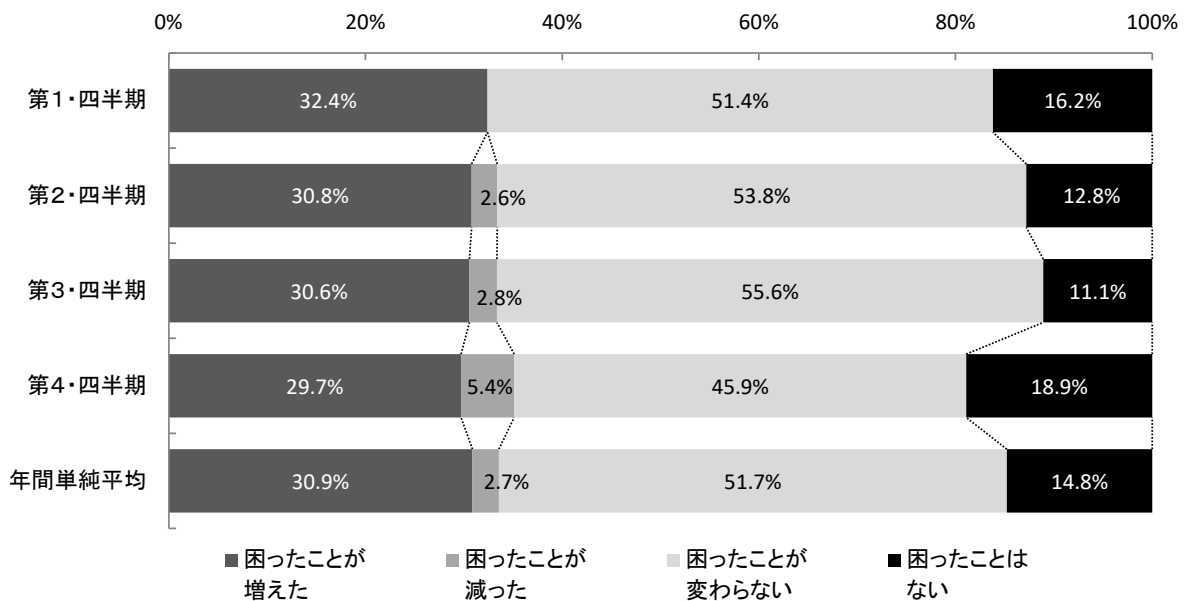


図 2-30 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

⑦ー1 介護をしていく中で困ったこと

○「介護をしていく中で困ったことがある」と回答した方の具体的な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 耳が聞こえない、目が全ったく見えないため大変
- ・ 仕事等で忙しい時に手が足りない
- ・ コンタクト交換に毎日行けない
- ・ 介護にすぐに行けない
- ・ 本人もやらなければいけない事ができずにイライラして、その対処がうまくできずに困る
- ・ 家族がコロナにかからないように常に気にかけていた
- ・ 年齢的にも歩行や一人での暮らしが心配
- ・ 目が離せず長時間1人にしておけない
- ・ 体調管理に気をつかっている
- ・ 年齢を重ねていくうちに両親の体力がなくなっている
- ・ 加齢による体力の衰え
- ・ 介護者の年齢を重ねるごとにストレス疲労を感じる
- ・ 音声チックが出はじめて、かなり声の大きいので外出で気をつかう
- ・ 介護者の体力もなく、つらい時がある
- ・ 契約している短期入所施設がコロナのため閉所している
- ・ 感染症にかかると全てのサービスをお休みして介護を全てしなくてはならない
- ・ 自分の体調が悪くても毎日介護しなくてはならない
- ・ 本人（妻）の介護が不十分になる
- ・ 腰痛等で介護が苦痛になることがある
- ・ 健康上の制約が増えてきた
- ・ 医療費が高額になる
- ・ 良く見えないので、楽しめる時間の使い方が少ない
- ・ 外出が少なくなって体力が落ちてきた感じがする
- ・ 他の病気で通院が増えた
- ・ 高齢者の重症化リスクもあるので、コロナ下で温泉などの本人が楽しめる所に連れて行ってあげれない
- ・ 自分中心で、周りの意見を聞いてくれないので、生活が少しきつい
- ・ 痛み、かゆみをガマンしてくれなくなり、大声で訴える
- ・ 介護する者がイライラする事が多い
- ・ 急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった
- ・ 今まで出来たと事が出来なくなってきた
- ・ 24時間気にかけている
- ・ 睡眠が浅い
- ・ 私が用事で留守にする時の、食事の手伝いを頼むのが大変なことがあった
- ・ 出来る事が減ってきた

- ・自身の障害が年々悪化し、出来る事が減って来ている。経済的にも不安であり、我慢することも増えた
- ・介護量の増加、メンタル面のサポート増加
- ・仕事と家庭と介護のバランスで困る日々多い
- ・起きてから寝るまで安全に過ごせるか毎日が戦いです
- ・介護者も目が不自由
- ・介護なしでは歩けない

⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか

ア 第1・四半期（回答者 18 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」が 44.4%、「子ども」が 27.8%、「兄弟姉妹」が 22.2%となっている
 - 「相談する人はいない」は 11.1%であった

イ 第2・四半期（回答者 20 人）

- 第2・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「子ども」が 30.0%、「配偶者」が 25.0%、「親」「公的機関の職員等」が 10.0%となっている
 - 「相談する人はいない」は 30.0%であった

ウ 第3・四半期（回答者 19 人）

- 第3・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「子ども」が 31.6%、「配偶者」が 26.3%、「親」「友人・知人」「医師」が 15.8%となっている
 - 「相談する人はいない」は 10.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者 23 人）

- 第4・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「子ども」が 26.1%、「配偶者」「友人・知人」が 21.7%、「親」が 8.7%となっている
 - 「相談する人はいない」は 13.0%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」「子ども」が 28.8%、「友人・知人」が 13.8%、「親」が 11.3%となっている
 - 「相談する人はいない」は 16.3%となっている

表 2-31 困ったときの相談の有無の推移

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師	看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
第1・四半期	2	8	5	4	1	2	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	2	13	18
	11.1%	44.4%	27.8%	22.2%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	11.1%	—	100.0%
第2・四半期	2	5	6	1	0	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	3	6	14	20
	10.0%	25.0%	30.0%	5.0%	0.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	15.0%	30.0%	—	100.0%
第3・四半期	3	5	6	2	0	3	1	0	3	1	1	0	1	0	1	1	2	13	19
	15.8%	26.3%	31.6%	10.5%	0.0%	15.8%	5.3%	0.0%	15.8%	5.3%	5.3%	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%	5.3%	10.5%	—	100.0%
第4・四半期	2	5	6	0	1	5	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	3	7	23
	8.7%	21.7%	26.1%	0.0%	4.3%	21.7%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	4.3%	13.0%	—	100.0%
年間単純平均	2.3	5.8	5.8	1.8	0.5	2.8	1.0	0.0	1.3	0.5	1.5	0.0	0.8	0.0	0.8	1.5	3.3	11.8	20.0
	11.3%	28.8%	28.8%	8.8%	2.5%	13.8%	5.0%	0.0%	6.3%	2.5%	7.5%	0.0%	3.8%	0.0%	3.8%	7.5%	16.3%	—	100.0%
R3年度平均	2.3	7.0	7.0	2.5	0.3	3.5	1.0	0.0	1.8	0.5	1.5	0.0	1.0	1.3	0.8	2.5	4.0	14.3	17.5
	12.9%	40.0%	40.0%	14.3%	1.4%	20.0%	5.7%	0.0%	10.0%	2.9%	8.6%	0.0%	5.7%	7.1%	4.3%	14.3%	22.9%	—	100.0%
R2年度平均	1.0	5.5	4.3	2.5	0.5	3.5	0.8	0.0	1.8	0.8	1.5	0.3	0.8	1.0	0.3	2.3	4.8	14.8	20.0
	5.0%	27.5%	21.3%	12.5%	2.5%	17.5%	3.8%	0.0%	8.8%	3.8%	7.5%	1.3%	3.8%	5.0%	1.3%	11.3%	23.8%	—	100.0%
R1年度平均	1.5	5.0	4.5	1.3	0.5	2.3	0.5	0.0	3.3	2.8	3.0	0.5	1.3	0.8	1.0	1.3	5.3	11.8	25.5
	5.9%	19.6%	17.6%	4.9%	2.0%	8.8%	2.0%	0.0%	12.7%	10.8%	11.8%	2.0%	4.9%	2.9%	3.9%	4.9%	20.6%	—	100.0%
H30年度平均	0.5	5.5	6.5	1.5	0.3	3.5	0.0	0.0	2.5	0.8	2.0	0.3	1.3	1.0	0.5	1.0	5.0	17.5	17.8
	2.8%	31.0%	36.6%	8.5%	1.4%	19.7%	0.0%	0.0%	14.1%	4.2%	11.3%	1.4%	7.0%	5.6%	2.8%	5.6%	28.2%	—	100.0%
H29年度平均	2.0	6.3	6.8	1.5	0.8	4.0	0.0	0.3	2.0	0.8	2.5	0.0	2.3	0.8	1.0	1.5	4.5	14.5	22.0
	9.1%	28.4%	30.7%	6.8%	3.4%	18.2%	0.0%	1.1%	9.1%	3.4%	11.4%	0.0%	10.2%	3.4%	4.5%	6.8%	20.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

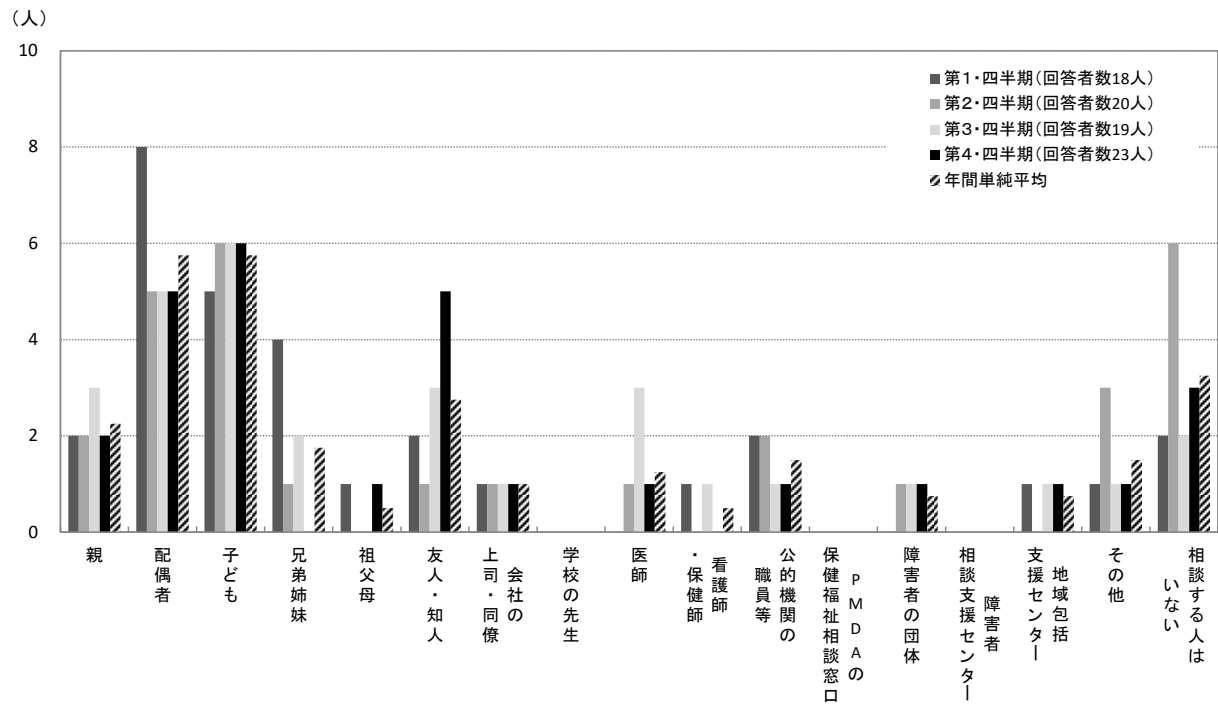


図 2-31 困ったときの相談の有無の推移

⑦-3 解決策の有無

ア 第1・四半期（回答者 20 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 25.0%、「解決していない」と回答した人は 75.0%であった

イ 第2・四半期（回答者 17 人）

- 第2・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 23.5%、「解決していない」と回答した人は 76.5%であった

ウ 第3・四半期（回答者 17 人）

- 第3・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 41.2%、「解決していない」と回答した人は 58.8%であった

エ 第4・四半期（回答者 18 人）

- 第4・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 33.3%、「解決していない」と回答した人は 66.7%であった

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 30.6%、「解決していない」と回答した人は 69.4%であった

表 2-32 解決策の有無の推移

	解決した	解決していない	回答なし	合 計
第1・四半期	5 25.0%	15 75.0%	11 —	20 100.0%
第2・四半期	4 23.5%	13 76.5%	17 —	17 100.0%
第3・四半期	7 41.2%	10 58.8%	15 —	17 100.0%
第4・四半期	6 33.3%	12 66.7%	12 —	18 100.0%
年間単純平均	5.5 30.6%	12.5 69.4%	13.8 —	18.0 100.0%
R3年度平均	6.5 33.8%	12.8 66.2%	15.3 —	19.3 100.0%
R2年度平均	5.5 29.7%	13.0 70.3%	15.5 —	18.5 100.0%
R1年度平均	6.5 32.5%	13.5 67.5%	16.0 —	20.0 100.0%
H30年度平均	5.8 29.1%	14.0 70.9%	15.5 —	19.8 100.0%
H29年度平均	6.5 33.3%	13.0 66.7%	17.0 —	19.5 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

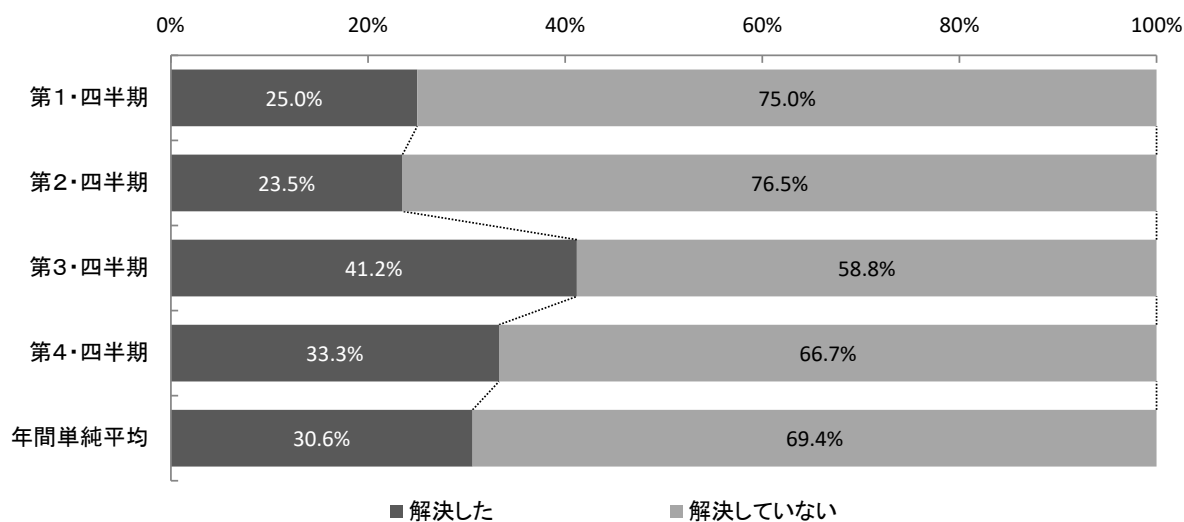


図 2-32 解決策の有無の推移

⑦-4 困ったことの解決策

○主たる介護者の中で、介護をしていく中で困ったことが解決した方の、主な具体的解決策については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
介護にすぐに行けない	日時を変更してもらった
目が離せず長時間 1 人にしておけない	公的な介護制度を利用
音声チックが出はじめて、かなり声大きいので外出で気をつかう	チックに関しては医師に相談し投薬してもらった。他の悩みなど障害者家族会で話してガス抜きできた
介護者の体力もなく、つらい時がある	聞いてもらおうと楽になる
自分の体調が悪くても毎日介護しなくてはならない	ショートステイを利用しながら介護を続ける
本人（妻）の介護が不十分になる	入院、手術の際、息子の妻たちがサポートしてくれた
腰痛等で介護が苦痛になることがある	夫が介護保険の要支援の申請を行い、家内の介護保険による家事支援を受け易くすることをすすめられた
急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した

⑦-5 困ったことの解決方法

○主たる介護者の中で、困ったことが解決していない方の、解決すると思う具体的解決方法については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 方 法
コンタクト交換に毎日行けない	同居、他に交換してくれる人を探す
年齢を重ねていくうちに両親の体力がなくなっている	年を重ねていくのは仕方がないことなので、先を見て動けるようにしている
介護者の年齢を重ねるごとにストレス疲労を感じる	気持ちの解決はあっても、目に見える解決はない。どこも人手不足で、福祉全体、運営もきびしい
感染症にかかるると全てのサービスをお休みして介護を全てしなくてはならない	介護者本人が感染していない場合、入所できる施設を確保できるようにする。
外出が少なくなって体力が落ちてきた感じがする	本人の自覚が必要（良く話して外出につれ出す）
今まで出来ていた事が出来なくなってきた	仕事をしていますので続けていけたらと思います
介護なしでは歩けない	今後の治療に期待する
自身の障害の悪化	健康被害者の回復、視力はもちろんですが少しでも体力が回復出来ればと考える。また経済的にも不安がなくなればと思う
介護量の増加、メンタル面のサポート増加	慣れるしかない、生き方を前向きにがんばるのみ
起きてから寝るまで安全に過ごせるか毎日が戦いです	全盲が弱視に誰かしてくれなければ解決しない
介護者も目が不自由	わからない
介護なしでは歩けない	今後の治療に期待する
年齢的にも歩行や一人での暮らしが心配	分らない
体力が落ちた	分らない
医療費が高額になる	分らない
良く見えないので、楽しい時間の使い方が少ない	わからない
通院が増加してきた	S J S との関係が不明の為、解決方法がわからない

自分中心で、周りの意見を聞いてくれないので、生活が少しきつい。痛み、かゆみを我慢してくれなくなり、大声で訴える	分からない
介護する者が、イライラする事が多い	わからない
睡眠が浅い	わかりません

⑧ 主たる介護者を支えるものの有無

ア 第1・四半期（回答者 28 人）

○ 第1・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□ 「あった」と回答した人は 71.4%、「なかった」と回答した人は 28.6%であった

イ 第2・四半期（回答者 27 人）

○ 第2・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□ 「あった」と回答した人は 51.9%、「なかった」と回答した人は 48.1%であった

ウ 第3・四半期（回答者 27 人）

○ 第3・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□ 「あった」と回答した人は 66.7%、「なかった」と回答した人は 33.3%であった

エ 第4・四半期（回答者 25 人）

○ 第4・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□ 「あった」と回答した人は 48.0%、「なかった」と回答した人は 52.0%であった

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□ 「あった」と回答した人は 59.8%、「なかった」と回答した人は 40.2%であった

表 2-33 主たる介護者を支えるものの有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	20	8	25	28
	71.4%	28.6%	—	100.0%
第2・四半期	14	13	27	27
	51.9%	48.1%	—	100.0%
第3・四半期	18	9	25	27
	66.7%	33.3%	—	100.0%
第4・四半期	12	13	27	25
	48.0%	52.0%	—	100.0%
年間単純平均	16.0	10.8	26.0	26.8
	59.8%	40.2%	—	100.0%
R3年度平均	14.8	11.5	26.3	26.3
	56.2%	43.8%	—	100.0%
R2年度平均	14.8	14.5	24.3	29.3
	50.4%	49.6%	—	100.0%
R1年度平均	17.5	11.3	26.0	28.8
	60.9%	39.1%	—	100.0%
H30年度平均	17.8	10.5	26.8	28.3
	62.8%	37.2%	—	100.0%
H29年度平均	16.0	11.8	25.8	27.8
	57.7%	42.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

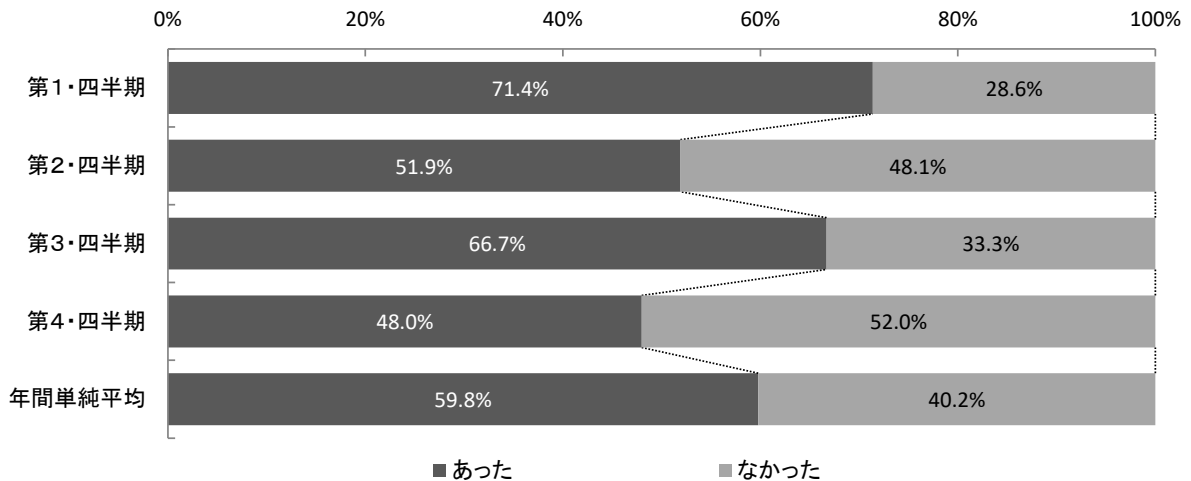


図 2-33 主たる介護者を支えるものの有無の推移

⑧ー1 介護者を支えるもの 具体的内容

○主たる介護者を支える主な具体的内容については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇家族

- ・ 本人も含め姉妹と一緒に旅行
- ・ 夫にスケジュールを調整してもらい、代理を頼んだ
- ・ 家族、親戚の手助け
- ・ 孫や友人と過ごすこと
- ・ 娘、孫が毎日通ってくれる
- ・ 家族の存在

◇知人・友人

- ・ 友達との食事・おしゃべり
- ・ 久しぶりに友人達と旅行に行けた
- ・ 友人との食事
- ・ 上司に相談
- ・ 友人、知人に恵まれている

◇ヘルパー・ボランティア

- ・ デイサービスやホームヘルパーさんなど
- ・ 介護サービス
- ・ ホームヘルパーの利用
- ・ 同行支援
- ・ 家族（息子、嫁）の他に、介護保険の生活支援型介助の利用が出来た

◇患者会

- ・ 障害者の親仲間。話を聞いてもらう
- ・ 患者の会で病院や介護施設の情報交換をした

◇公的な機関・制度

- ・ PMDA からの案内状
- ・ 公的制度
- ・ 福祉医療費の給付

◇趣味・外出など

- ・ 気分転換に散歩など

⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 37 人）

○ 第1・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 67.6%、行っていない人が 32.4%となっている

イ 第2・四半期（回答者 36 人）

○ 第2・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 75.0%、行っていない人が 25.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 37 人）

○ 第3・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.0%、行っていない人が 27.0%となっている

エ 第4・四半期（回答者 37 人）

○ 第4・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 73.0%、行っていない人が 27.0%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間平均では、行っている人が 72.1%、行っていない人が 27.9%となっている

表 2－34 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	25 67.6%	12 32.4%	16 —	37 100.0%
第2・四半期	27 75.0%	9 25.0%	18 —	36 100.0%
第3・四半期	27 73.0%	10 27.0%	15 —	37 100.0%
第4・四半期	27 73.0%	10 27.0%	15 —	37 100.0%
年間単純平均	26.5 72.1%	10.3 27.9%	16.0 —	36.8 100.0%
R3年度平均	19.5 54.2%	16.5 45.8%	16.5 —	36.0 100.0%
R2年度平均	19.0 51.0%	18.3 49.0%	16.3 —	37.3 100.0%
R1年度平均	27.0 70.1%	11.5 29.9%	16.3 —	38.5 100.0%
H30年度平均	28.5 71.7%	11.3 28.3%	15.3 —	39.8 100.0%
H29年度平均	28.0 69.6%	12.3 30.4%	13.3 —	40.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

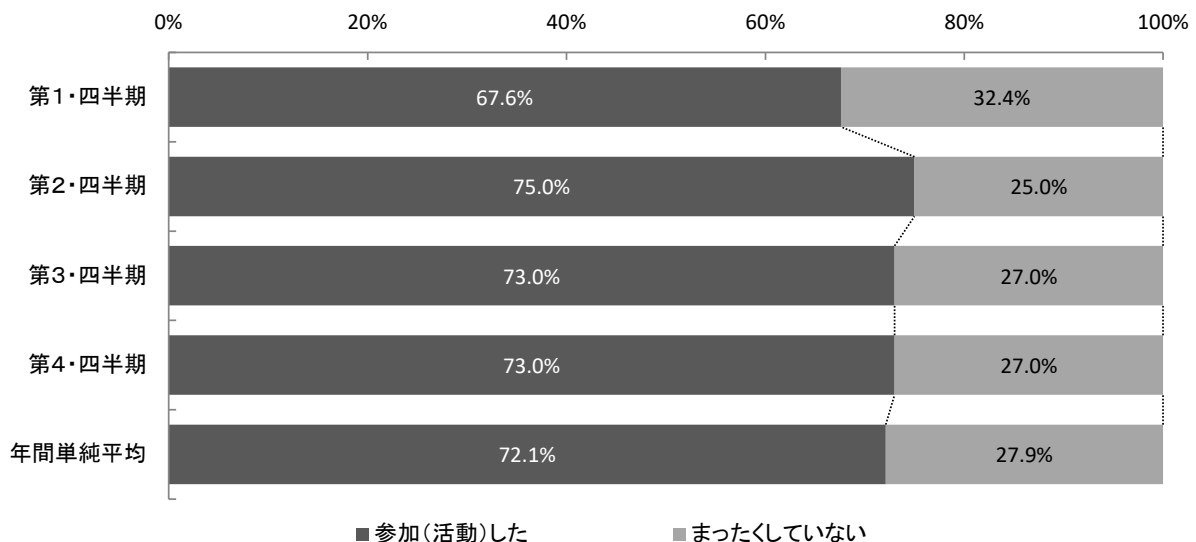


図 2－34 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者8人）

- 社会参加や社会活動などを行わなかったと答えた人にその理由を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-35及び図2-35のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」「時間的・経済的に余裕なし」が25.0%となっている
- その他としては、「コロナが心配」「メンタル的に難しい」「特に必要性を感じない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者6人）

- 第2・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-35及び図2-35のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」が33.3%、「時間的・経済的に余裕なし」が16.7%となっている
- その他としては、「趣味がない」「コロナで外出してない」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者7人）

- 第3・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-35及び図2-35のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」が28.6%、「時間的・経済的に余裕なし」が14.3%となっている
 - その他としては、「精神的疲労」「新型コロナ感染防止」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者6人）

- 第4・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表2-35及び図2-35のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」が33.3%、「時間的・経済的に余裕なし」が16.7%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-35及び図2-35のとおりである。
- 社会参加・社会活動などを行わなかった理由の年間平均では、「体力的に余裕なし」が29.6%、「時間的・経済的に余裕なし」が18.5%となっている

表 2－35 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	時間的・経済的に余裕なし	体力的に余裕なし	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	2 25.0%	2 25.0%	4 50.0%	2 —	8 100.0%
第2・四半期	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	2 —	6 100.0%
第3・四半期	1 14.3%	2 28.6%	4 57.1%	2 —	7 100.0%
第4・四半期	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	2 —	6 100.0%
年間単純平均	1.3 18.5%	2.0 29.6%	3.5 51.9%	2.0 —	6.8 100.0%
R3年度平均	5.5 31.4%	5.5 31.4%	6.5 37.1%	0.3 —	17.5 100.0%
R2年度平均	4.3 25.8%	5.0 30.3%	7.3 43.9%	0.5 —	16.5 100.0%
R1年度平均	2.8 26.8%	4.5 43.9%	3.0 29.3%	0.5 —	10.3 100.0%
H30年度平均	2.5 26.3%	5.0 52.6%	2.0 21.1%	3.0 —	9.5 100.0%
H29年度平均	4.0 45.7%	3.3 37.1%	1.5 17.1%	3.0 —	8.8 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

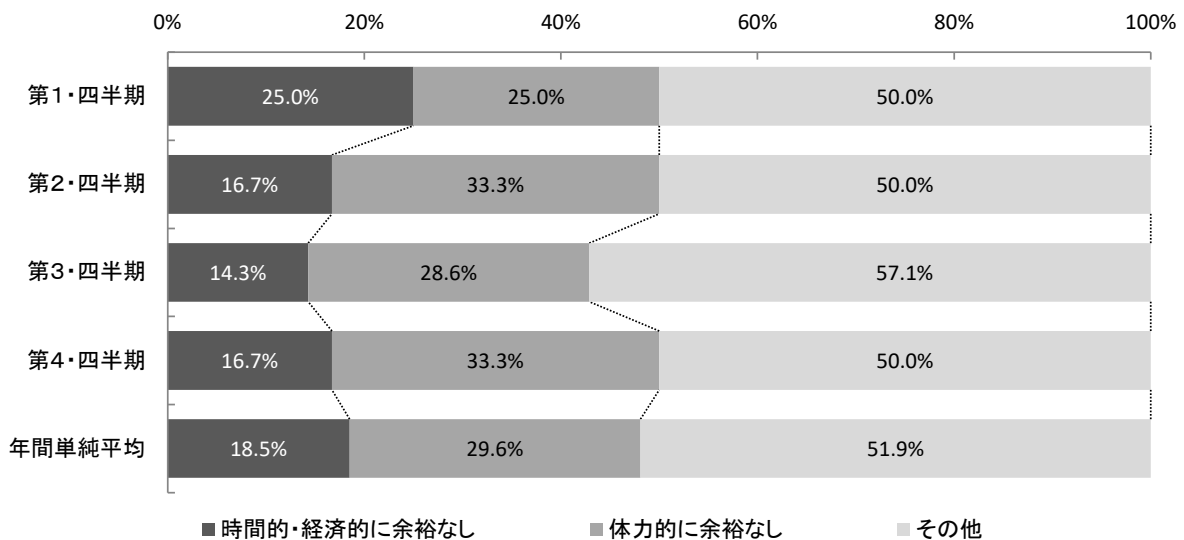


図 2－35 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

⑨ー2 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○主たる介護者の社会参加・社会活動の主なきっかけについては、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 家族旅行
- ・ 友人の誘い
- ・ 友人からの誘いがあるから
- ・ 気分転換、交流のため
- ・ 地域の学校で定期的に体育館が使用できるようになった
- ・ スポーツジム
- ・ スケジュールが合って、チケットがとれた
- ・ 気になる映画が公開された
- ・ 運動不足解消、気分転換、体力増強、ダイエットの為
- ・ 興味あるコンサート
- ・ 健康のため
- ・ 買い物、散歩
- ・ もともと好きな趣味のため
- ・ 学校から誘われた
- ・ 地域の方に誘われた
- ・ 地域包括からの依頼

⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 24 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「友達との遊び」が 41.7%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が 29.2%となっている
- その他としては、「習い事」「散歩・ハイキング」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 26 人）

- 第2・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 38.5%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ教室、大会などへの参加」が 34.6%となっている
- その他としては、「土いじりの趣味」「習い事の生け花」「認知症サポート養成講座のファシリテーター」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 26 人）

- 第3・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 50.0%、「友達との遊び」が 34.6%、「スポーツ教室、大会などへの参加」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 26.9%となっている
- その他としては、「食事会」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 25 人）

- 第4・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 40.0%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「友達との遊び」が 32.0%となっている
- その他としては、「山歩き」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-36及び図2-36のとおりである（複数回答）。

□「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が41.6%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が34.7%、「友達との遊び」が33.7%となっている

表2-36 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	10	7	10	6	1	0	4	4	10	3	1	24
	41.7%	29.2%	41.7%	25.0%	4.2%	0.0%	16.7%	16.7%	41.7%	12.5%	—	100.0%
第2・四半期	9	9	10	6	1	1	6	3	7	4	1	26
	34.6%	34.6%	38.5%	23.1%	3.8%	3.8%	23.1%	11.5%	26.9%	15.4%	—	100.0%
第3・四半期	13	7	7	4	1	1	4	5	9	4	1	26
	50.0%	26.9%	26.9%	15.4%	3.8%	3.8%	15.4%	19.2%	34.6%	15.4%	—	100.0%
第4・四半期	10	7	8	5	1	1	5	3	8	1	2	25
	40.0%	28.0%	32.0%	20.0%	4.0%	4.0%	20.0%	12.0%	32.0%	4.0%	—	100.0%
年間単純平均	10.5	7.5	8.8	5.3	1.0	0.8	4.8	3.8	8.5	3.0	1.3	25.3
	41.6%	29.7%	34.7%	20.8%	4.0%	3.0%	18.8%	14.9%	33.7%	11.9%	—	100.0%
R3年度平均	5.5	4.8	5.5	5.8	0.3	0.3	3.8	2.8	5.3	2.3	4.0	15.5
	35.5%	30.6%	35.5%	37.1%	1.6%	1.6%	24.2%	17.7%	33.9%	14.5%	—	100.0%
R2年度平均	3.8	4.3	5.5	5.0	1.0	1.3	3.8	2.8	4.8	3.0	0.5	18.5
	20.3%	23.0%	29.7%	27.0%	5.4%	6.8%	20.3%	14.9%	25.7%	16.2%	—	100.0%
R1年度平均	11.0	6.5	13.5	6.3	3.5	2.5	7.5	2.5	9.8	11.3	0.5	26.5
	41.5%	24.5%	50.9%	23.6%	13.2%	9.4%	28.3%	9.4%	36.8%	42.5%	—	100.0%
H30年度平均	13.5	5.3	13.8	7.5	3.0	3.0	8.0	3.5	10.3	2.5	3.3	25.3
	53.5%	20.8%	54.5%	29.7%	11.9%	11.9%	31.7%	13.9%	40.6%	9.9%	—	100.0%
H29年度平均	11.0	5.8	11.0	8.0	5.3	3.8	8.0	4.0	9.3	2.5	0.0	28.0
	39.3%	20.5%	39.3%	28.6%	18.8%	13.4%	28.6%	14.3%	33.0%	8.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

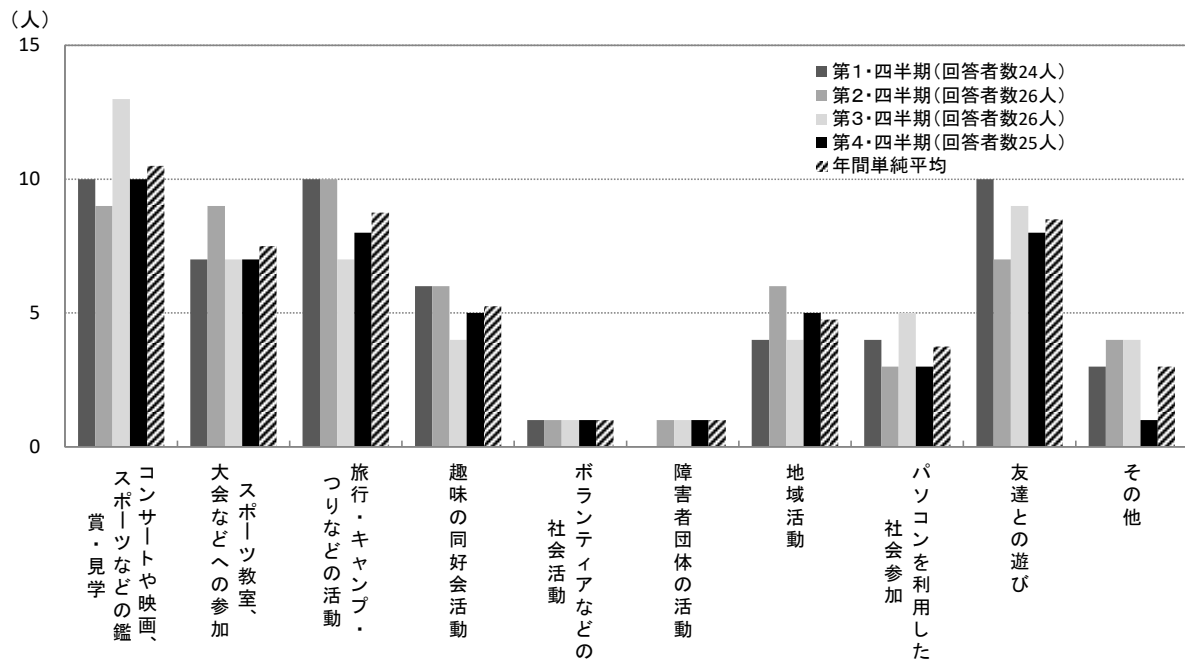


図2-36 社会参加・社会活動等の内容の推移

⑩ 新しい発見や気分転換などの有無

ア 第1・四半期（回答者 26 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 26.9%、「なかった」と回答した人は 73.1%であった

イ 第2・四半期（回答者 33 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 36.4%、「なかった」と回答した人は 63.6%であった

ウ 第3・四半期（回答者 30 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 40.0%、「なかった」と回答した人は 60.0%であった

エ 第4・四半期（回答者 30 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 43.3%、「なかった」と回答した人は 56.7%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□介護をしていく中で新しい発見や気分転換などの有無については、年間の平均では「あった」が 37.0%、「なかった」が 63.0%であった

表 2-37 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	7 26.9%	19 73.1%	27 —	26 100.0%
第2・四半期	12 36.4%	21 63.6%	21 —	33 100.0%
第3・四半期	12 40.0%	18 60.0%	22 —	30 100.0%
第4・四半期	13 43.3%	17 56.7%	22 —	30 100.0%
年間単純平均	11.0 37.0%	18.8 63.0%	23.0 —	29.8 100.0%
R3年度平均	7.8 26.3%	21.8 73.7%	23.0 —	29.5 100.0%
R2年度平均	9.0 28.6%	22.5 71.4%	22.0 —	31.5 100.0%
R1年度平均	12.3 37.7%	20.3 62.3%	22.3 —	32.5 100.0%
H30年度平均	12.5 37.0%	21.3 63.0%	21.3 —	33.8 100.0%
H29年度平均	13.3 40.8%	19.3 59.2%	21.0 —	32.5 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

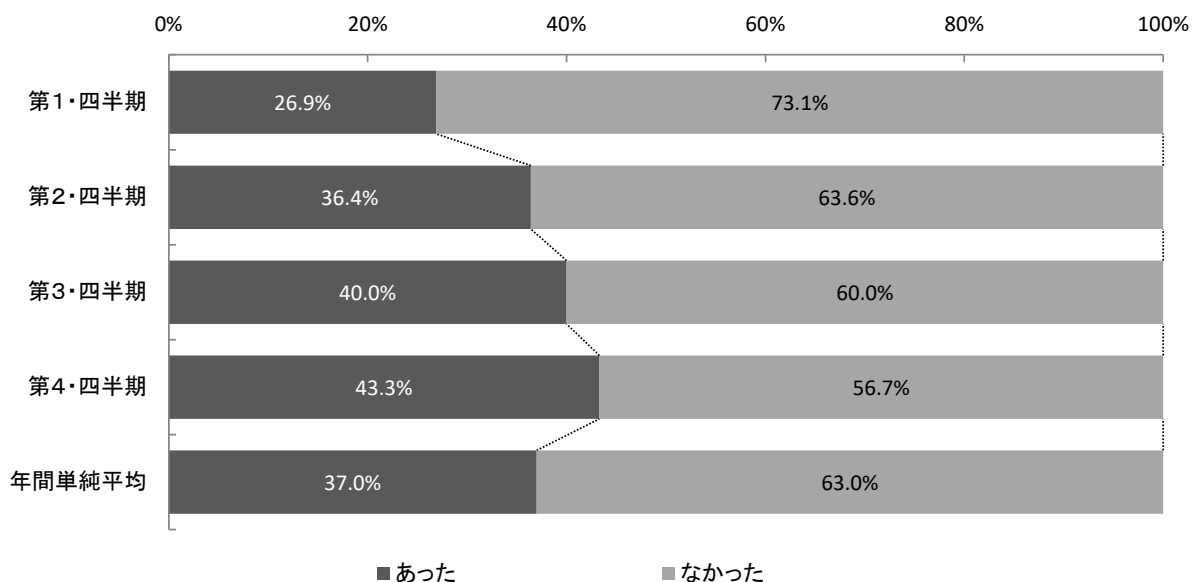


図 2-37 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

⑩ー1 新しい発見や気分転換について

○⑩で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・遠出をした（ドライブ）
- ・友人とおしゃべり
- ・友人との会話
- ・近くの温泉に行った
- ・友人との食事会
- ・話すと気持ちが落ちつく
- ・外出したり散歩することで気晴らしになっている
- ・軽いハイキングや友人との会食
- ・友達と行動しているとき
- ・健康被害者との散歩、買い物など、健康被害者の苦しいながら毎日生きている姿を見ていると少しは前向きに過ごせる。色々な意味で楽になればと思う
- ・母と一緒に出かけるのが楽しい
- ・庭に植えた花が咲いたり、トマトやきゅうり等が収穫できた事
- ・ヘルパーさんなどに預けられる時はわりきって自分の時間を持つようにした
- ・ゆっくりと時間を過ごし読書をする
- ・趣味に専念している時
- ・散歩で公園を通る時に季節ごとの草花を見て、季節を感じられることが気分転換になっている
- ・介護人と身の回りを整理することによってすっきりとした気分になった
- ・日常生活の中の小さな事で気分転換はできる
- ・全て自分次第で工夫して可能性が広がり充実した生活が送れるようになった

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況

① 健康被害を受けた方の治療状況

○健康被害を受けた方の治療状況については表3-1及び図3-1のとおりである。

□通院中（往診含む）が100.0%となっている

表3-1 治療状況

入院中	通院中 (往診含む)	回答なし	合 計
0	41	11	41
0.0%	100.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

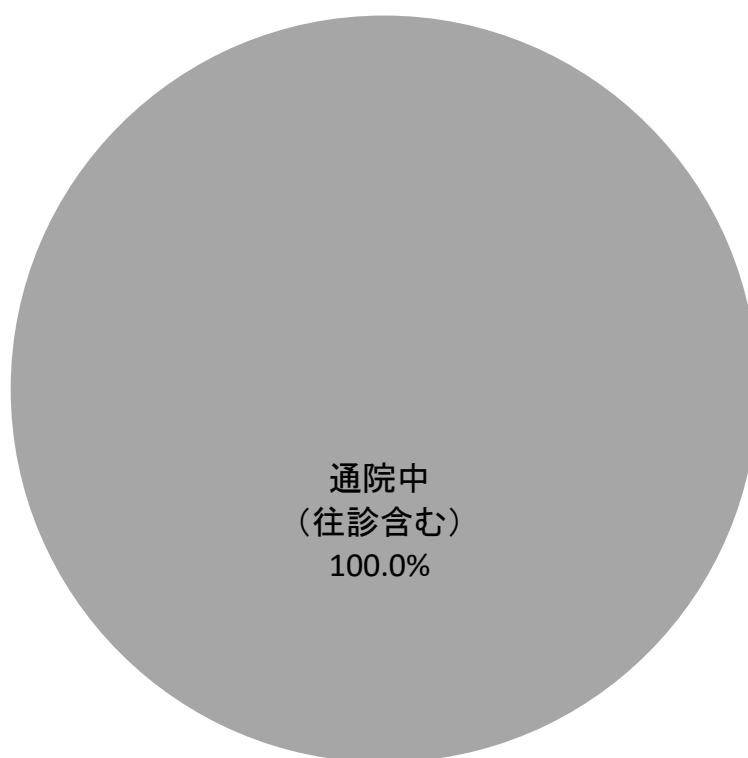


図3-1 治療状況

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること

②-1 通院時に注意している点

○ 通院時に注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-2 及び図 3-2 のとおりである（複数回答）。

□ 「家族などによる送迎」が 64.3%、「事前に交通機関やルートを確認」が 59.5%、「ヘルパー等に同行を依頼」が 23.8%となっている

表 3-2 通院時に注意している点

事前に交通機関やルートを確認	ヘルパー等に同行を依頼	家族などによる送迎	介護タクシーの利用	その他	回答なし	回答者数
25	10	27	3	5	10	42
59.5%	23.8%	64.3%	7.1%	11.9%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

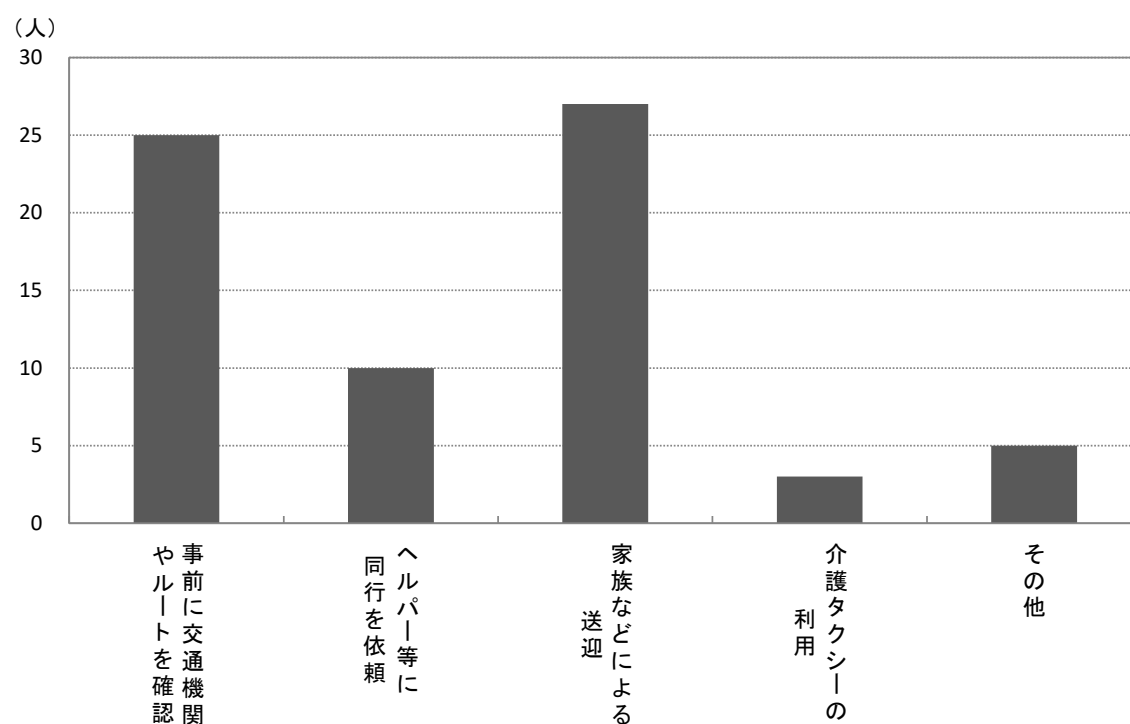


図 3-2 通院時に注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 1人では外出できず、必ず親が同伴する
- ・ 自家用車を利用
- ・ 事前にガイドヘルパーを予約し道順を確認しておく
- ・ SJSの後遺症としての眼の内反症は他人から見た見栄えが悪いことや、屋内外を問わず遮光レンズを着用していると変質者として誤解されることにより、突然暴言を吐かれる、大声で威嚇される、写真を撮られる等、こちらの人権を侵害さたり濡れ衣を着させられたりする非常に怖い経験をした。メディア関係者を招いての朗読会後においても、暴言や威嚇・脅迫される体験があった
- ・ 家族が仕事のときはタクシーで通院

②-2 治療を受けるときに注意している点

○治療を受けるときに注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-3 及び図 3-3 のとおりである（複数回答）。

□「既往歴を告げる」が 84.8%、「お薬手帳を持参」が 67.4%、「受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く」が 60.9%となっている

表 3-3 治療を受けるときに注意している点

既往歴を告げる	お薬手帳を持参	受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く	その他	回答なし	回答者数
39	31	28	3	6	46
84.8%	67.4%	60.9%	6.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

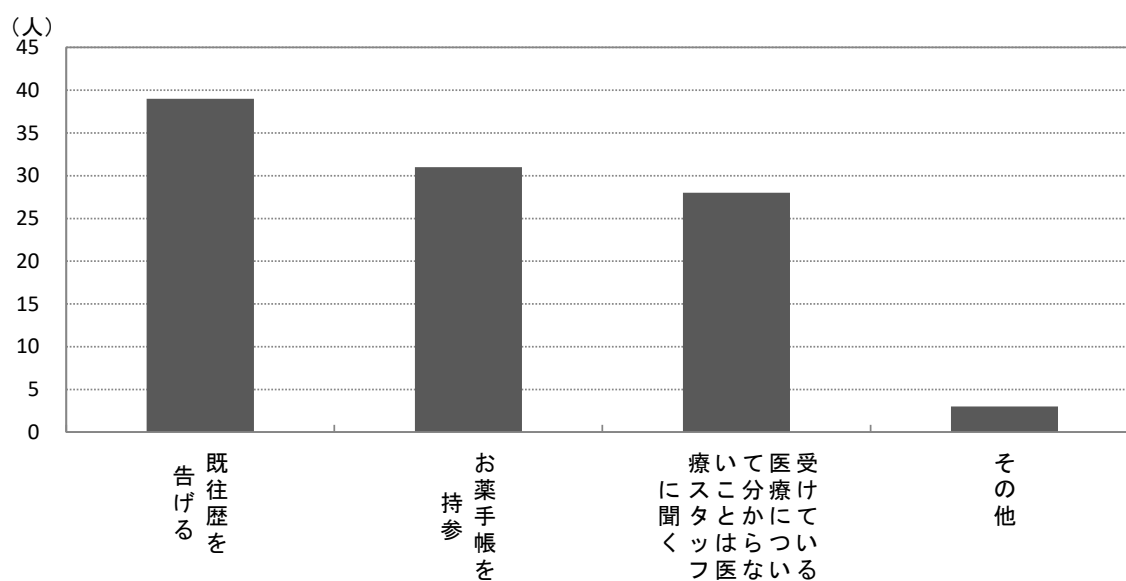


図 3-3 治療を受けるときに注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・以前医機構よりいただいた副作用があった薬などが書いてあるカードを見せる
- ・ロキソニンを使えない事を言う
- ・できるだけ薬は飲まない

②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○治療を受けるときに困ったことについてたずねた結果は、表 3-4 及び図 3-4 のとおりである（複数回答）。

□「SJS であることを告げたら診療を拒まれた」が 72.0%、「SJS について医師が理解していない」が 48.0%となっている

表 3-4 治療を受けるときに困ったこと

SJSについて 医師が理解 していない	SJSであること を告げたら診 療を拒まれた	その他	回答なし	回答者数
12	18	4	22	25
48.0%	72.0%	16.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

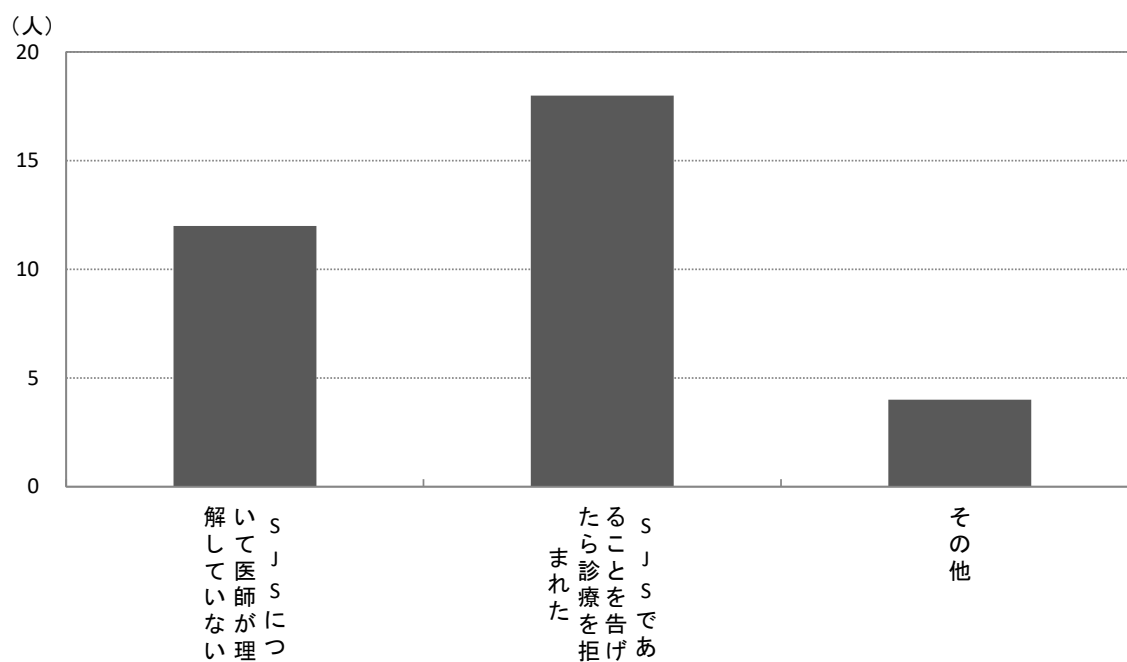


図 3-4 治療を受けるときに困ったこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方や治療がない

- ・非結核性抗酸菌症の治療やピロリ菌の治療等抗生物質の薬を長期使用にあたり、医師も自分も怖くて治療できない

◇医療機関の知識不足

- ・SJS を知らない医師は少なくなってきたように感じるが、どの程度の理解なのか不安になることが多い。受付の時点で断られたこともある。一方で、医薬品の使用について医師が過度な心配をされ、治療の選択に迷うことがあった
- ・手根管症候群の手術をしたが、医師が薬の処分に極端に慎重だった

◇その他

- ・体力的に受診が大変になってきた

②-4 その他注意している点

○その他注意している点の主な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・通院時は予約等により、なるべく混雑を避ける
- ・コロナワクチンの接種は止めた
- ・寒冷時に手先、足先が冷たくなるのでマッサージや湯タンポを使う様にしている
- ・てんかん発作の時の対応
- ・入院の時SJSであることを理解してもらい目薬の投薬をお願いする
- ・お薬手帳に禁忌薬(バクター・ボスミン)について記載

■ 過去1年間の日常生活について

③ 困ったことの有無

○過去1年間における困ったことの有無については、表3-5及び図3-5のとおりである。

□困ったことが「増えた」が45.8%、「減った」が4.2%、「変わらない」が50.0%であった。一方、困ったことは「ない」とする人はいなかった。

表3-5 困ったことの有無

困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことは 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
22	2	24	0	4	48
45.8%	4.2%	50.0%	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

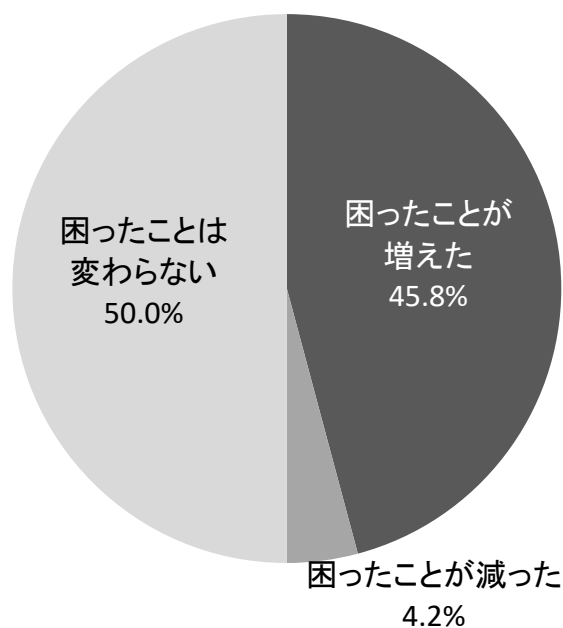


図3-5 困ったことの有無

③-1 困ったことについて

○過去に困ったことがあったと回答した本人または介護者にたずねた「困ったこと」の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇外出に関すること

- ・外出の際に介助が必要
- ・主人不在時に外出が出来ないことがある
- ・買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと
- ・世の中へ出る移動や歩行が大変。読書が不可能でとても大変
- ・現在、角膜の状態が悪いので段差が見えにくい。スマホも見えにくい

◇日常生活に関すること

- ・見えにくくなった為に色々出来なくなっている
- ・主人が亡くなり1人暮らしなので大変。近所の方、友人、福祉の方に助けてもらっている
- ・自分の日常生活。高齢の両親との生活
- ・加齢による体力の衰えて看護時に体交等の作業が困難になって来た
- ・家族がコロナに感染した
- ・体調がすぐれない事が多くなった
- ・昨年春に母を亡くし、それまで母が家族内の一切を切り盛りしていた公的手続き、相続手続きなどを全て自分が担う事となってから、母親の公正証書遺言や様々な具体的な指示があったものの、体調を崩すぐらいに多忙な日々を送っており、人間関係作りにおいてもうまく行かず、精神的に引きこもってしまう事が多くなった
- ・常に介護が必要な事
- ・スマホやPCでの情報アクセシビリティに制限がある等
- ・日常生活が不便

◇その他

- ・視力がかなり悪くなってきている
- ・視力低下
- ・音声チックなどが出だした
- ・電話が故障し伝達手段が困難だった（今は復旧）
- ・徐々にではあるが、角膜の炎症の頻度が増えている
- ・医療費が高い（保護用のコンタクトレンズ等）
- ・以前より見え難い
- ・投薬の種類が増えた
- ・呼吸が苦しい黄砂、PM2.5の影響が大きい。
- ・目薬が同じ容器なのに中味は違うものがあり区別が難しい
- ・親の老後の心配
- ・盲導犬をつれていて理解されないことがある

③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか

○過去に困ったことがあったと答えた人に回答を求めた。誰かに相談したかについてたずねた結果は、表3-6及び図3-6のとおりである（複数回答）。

□「子ども」、「医師」が26.5%、「配偶者」が20.6%となっている

□「相談する人はいない」は8.8%であった

表3-6 困ったときの相談の有無

親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師		
2	7	9	3	0	5	1	0	9		
5.9%	20.6%	26.5%	8.8%	0.0%	14.7%	2.9%	0.0%	26.5%		
看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数	
4	5	2	4	3	2	5	3	14	34	
11.8%	14.7%	5.9%	11.8%	8.8%	5.9%	14.7%	8.8%	—	100.0%	

注：上段は人数、下段は割合

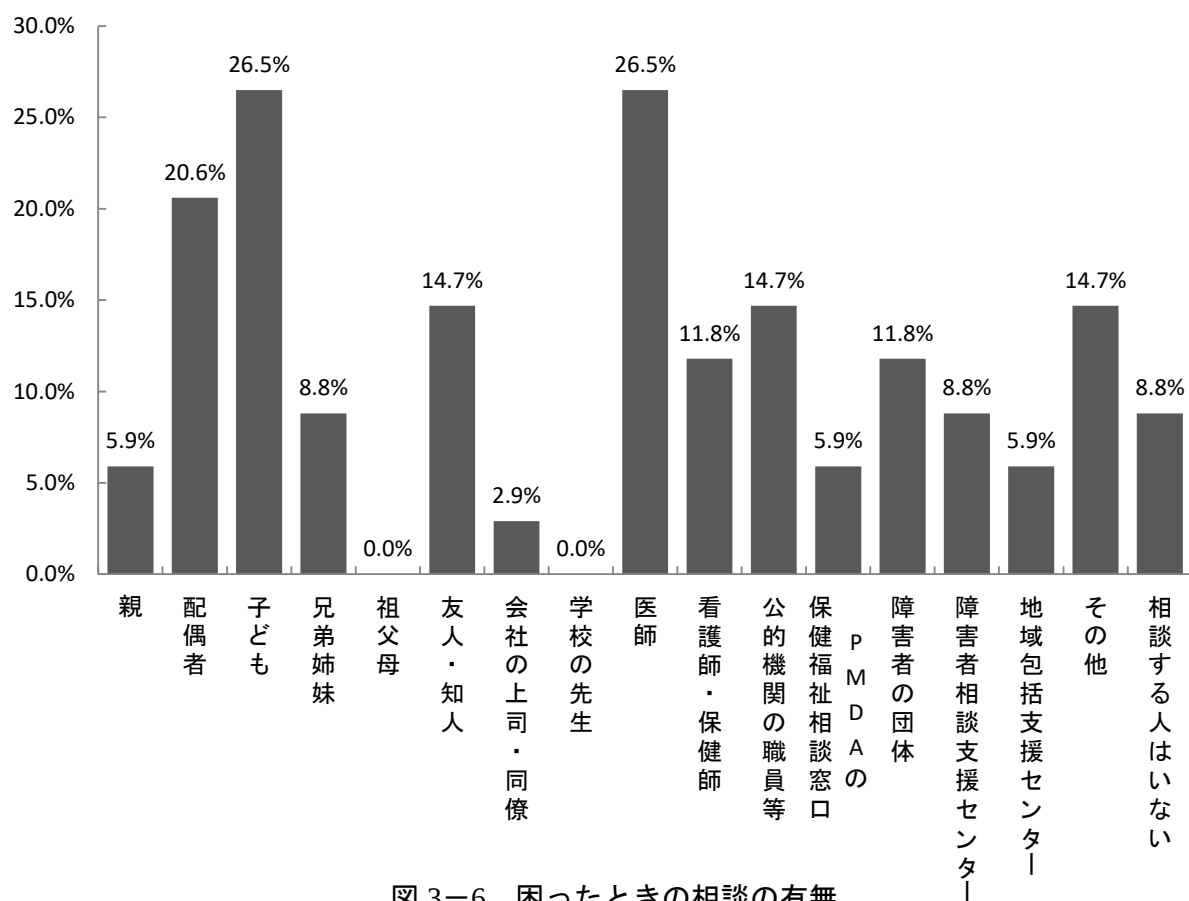


図3-6 困ったときの相談の有無

③ー3 解決策の有無

○困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおりである。

□困ったことに対して解決したと回答した人は 25.9%、一方、解決していないと回答した人は 74.1%であった

表 3-7 解決策の有無

解決した	解決 していない	回答なし	合 計
7	20	21	27
25.9%	74.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

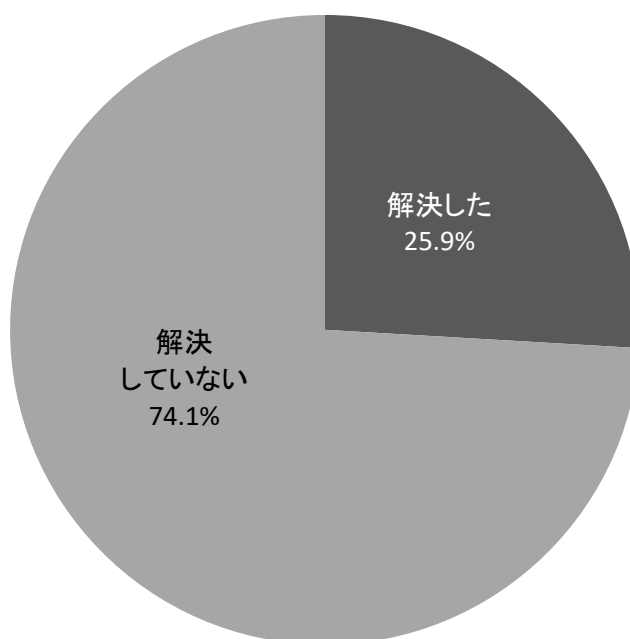


図 3-7 解決策の有無

③-4 解決策について

○③-3で「解決した」と回答した本人または介護者の困ったことと解決策の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
外出の際に介助が必要	移動に混雑時などでは車イスを利用
音声チックなど出だした	薬の調整をした
電話が故障し伝達手段が困難だった	修理してもらい解決できた
買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた

③-5 解決方法について

○③-3で「解決していない」と回答した本人または介護者に、どのような方法で解決できると思うか解決方法をたずねた。主な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 方 法
視力がかなり悪くなってきている	手術
家族がコロナに感染した	健康被害を受けた本人が感染しなかったら、避難できる施設があると良い
徐々に角膜の炎症の頻度が増えている	新たな治療法や薬剤の利用
主人不在時に外出が出来ないことがある	外出介助のボランティアやガイドヘルパーを行政が積極的に増して欲しい
昨年春に母を亡くし、それまで母が家族内の一切を切り盛りしていた公的手続き、相続手続きなどを全て自分が担う事となってから、母親の公正証書遺言や様々な具体的な指示があったものの、体調を崩すぐらいに多忙な日々を送っており、人間関係作りにおいてもうまく行かず、精神的に引きこもってしまう事が多くなった	地元自治体の既存支援制度内のみでは公費による支援給付時間や制約内容に限度があるがために自分一人での引っ越し準備や早急の外出支援時ニーズに追いついて行かない事に直面したりしているので、もっと公的支援方法に柔軟性を持って(在宅・外出時を問わずに)利用できる給付時間を増やしてもらえれば大分解決できるように思う
呼吸が苦しい黄砂、PM2.5の影響が大きい	環境の良い所への転居
スマホやPCでの情報アクセシビリティに制限がある	社会全体の取組み
自分の衣食住(日常生活)高齢の両親との生活	今のところ、解決策が見当たらない
看護時に加齢による体力の衰えで体向などの作業が困難になってきた	解らない
医療費が高い。(保護用のコンタクトレンズ等)	わからない
以前より見え難い	相談しても視力改善はない
投薬の種類が増えた	私には方法がない
世の中へ出る(移動や歩行)が大変、読書が不可能でとても大変	できない
日常生活が不便	わからない

④ 日常生活の満足度

○過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表3-8及び図3-8のとおりである。

□「満足」が7.0%、「やや満足」が27.9%となっている

□「不満」が30.2%、「やや不満」が34.9%となっている

表3-8 日常生活の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	回答なし	合 計
3	12	15	13	9	43
7.0%	27.9%	34.9%	30.2%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

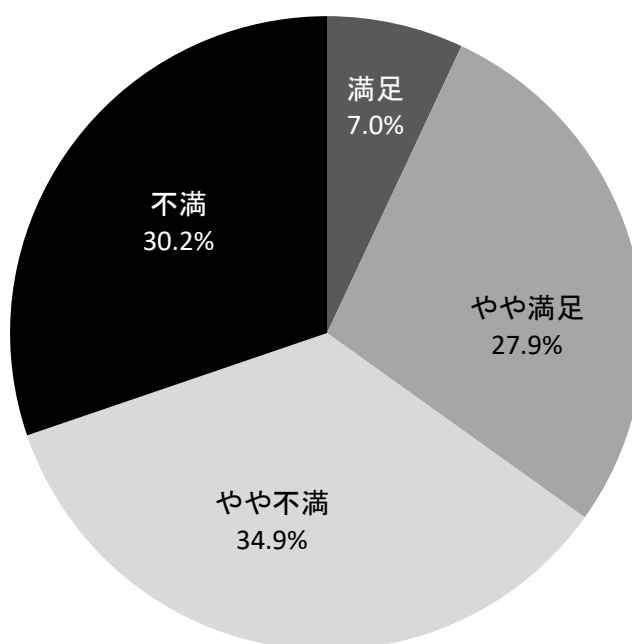


図3-8 日常生活の満足度

④ー1 満足度の理由について

○④の回答に至った具体的な理由の満足度別の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 満足

- ・各事業所が連携して支援を行っていて、安心が来ている
- ・知人が誘ってくれるから

2. やや満足

- ・経済的には誰にも迷惑をかけずに過せる。多小味覚視害はあるが食事はおいしく食べられる。ひとりでは出来る事が限られているのがやや不満です
- ・周りの皆が手助けしてくれる
- ・身体的にも経済的にも、大きなトラブル、障害がなかった
- ・目の痛みと心臓の苦しさが、少しずつ良くなってきた

3. やや不満

- ・1人で行動する事ができず、付き添ってくれる人の都合で諦めなければいけない事もあるため
- ・身体機能改善の遅れ、視力低下
- ・全国民と同じでコロナで自由に外出できなかった
- ・趣味の活動もでき満足できる点もあるが、眼の状態があまり良くないためやや不満とした。
- ・視力低下により活動が狭くなる
- ・介護に時間をとられる
- ・移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う

4. 不満

- ・その日一日を生活することで精一杯。やりたいことはたくさんあるが、時間的・体力的余裕がなく、諦めざるを得ない
- ・毎日、目が痛くて、生活が困難
- ・相続時や自分自身のサポートニーズ依頼の際に、周囲から様々な思いがけないクレームやプレッシャーをかけられ日常生活、健康管理全般にコントロールが効かなくなったりしているため
- ・体調が悪い、空気が汚い
- ・生きていくのが辛いから
- ・視力障害による生活上の課題

○ B票（社会活動を中心とした調査）及びC票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要は以下のとおりである。

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係(人数)

	ほぼ毎日	週に4 から5回	週に2 から3回	月に2 から3回	全く外出 していない	回答なし	合計
満足	2	1	0	0	0	0	3
やや満足	3	3	1	4	1	0	12
やや不満	3	4	2	3	2	1	14
不満	2	2	4	4	1	0	13
回答なし	1	0	4	4	0	0	9
合計	11	10	11	15	4	1	51

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係(人数)

	コンサート や映画、 スポーツ などの鑑 賞・見学	スポーツ 教室、大 会などへ の参加	旅行・ キャンプ・ つりなど の活動	趣味の 同好会活 動	ボランティ アなどの 社会活動	障害者団 体の活動	地域活動	パソコンを 利用した 社会参加	友達との 遊び	その他	回答なし	合計
満足	2	1	1	2	0	1	1	2	1	0	0	3
やや満足	3	2	2	2	1	2	3	4	1	0	6	6
やや不満	3	5	2	2	0	2	1	4	2	0	8	7
不満	5	3	2	5	0	2	1	1	3	0	5	8
回答なし	2	3	0	1	0	2	0	3	0	0	5	4
合計	15	14	7	12	1	9	6	14	7	0	24	28

⑤ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて

○ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについてたずねた結果は、表 3-9 及び図 3-9 のとおりである。

□ 「旅行・外出」が 61.8%、「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」「趣味」が 8.8%となっている

表 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

コンサートや 映画鑑賞、 スポーツ観戦	旅行・外出	趣味	社会活動・ 団体活動	その他	回答なし	回答者数
3	21	3	0	7	18	34
8.8%	61.8%	8.8%	0.0%	20.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

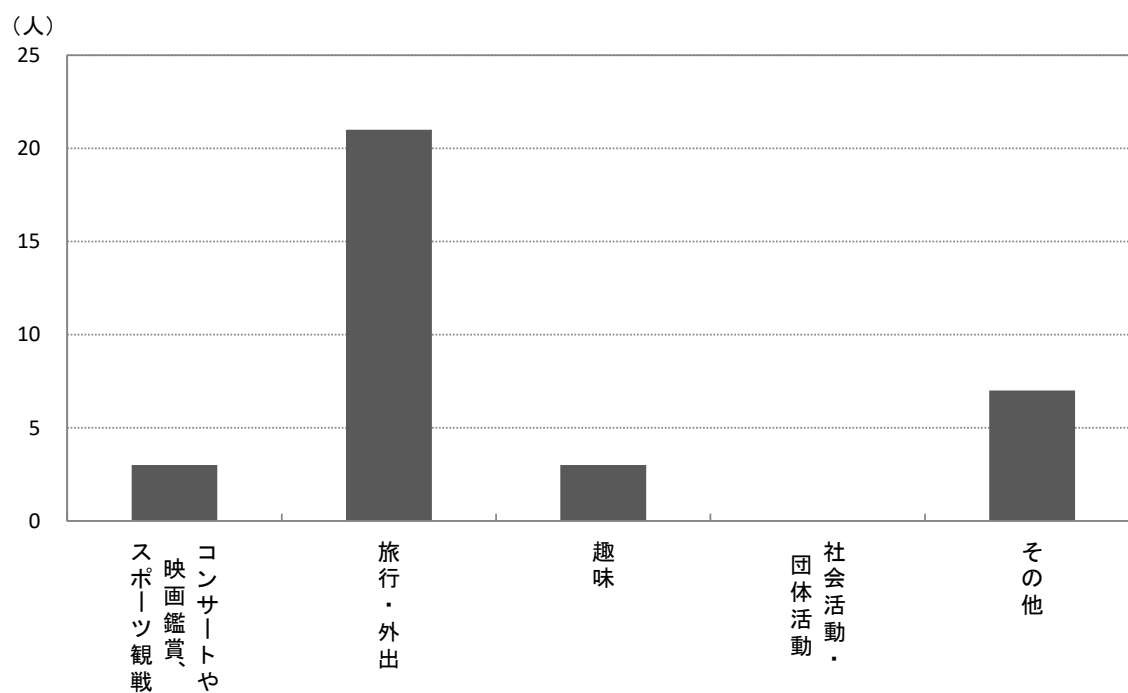


図 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇食事、休暇、趣味

- ・魚釣り
- ・たくさんの花を咲かせたい
- ・コロナもおさまってきたので旅行したい！
- ・家族で旅行したい
- ・体力があれば今以上に仕事をし、楽しみたい
- ・気軽に外出したい

◇その他

- ・身の周りの整理
- ・今までどおり自宅で生活がしたい
- ・収入を得る

⑤－1 実現可能性

○日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表 3－10 及び図 3－10 のとおりである。

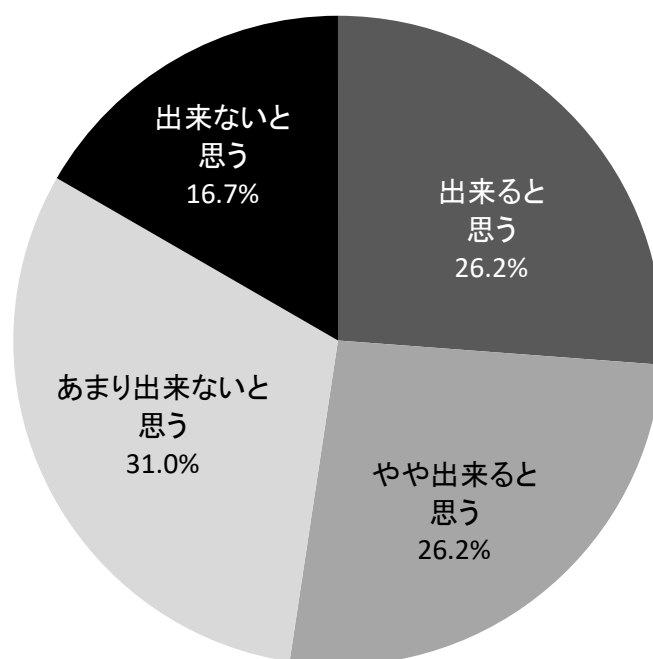
□「出来ると思う」「やや出来ると思う」が 26.2%となっている

□一方、「出来ないと思う」が 16.7%、「あまり出来ないと思う」が 31.0%となっている

表 3－10 実現可能性

出来ると思う	やや出来ると思う	あまり出来ないと思う	出来ないと思う	回答なし	合 計
11	11	13	7	10	42
26.2%	26.2%	31.0%	16.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合



図－10 実現可能性

⑤-2 実現可能性の理由について

○⑤-1 の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇実現が可能な理由

- ・ 何人かで出かけるので皆助けてくれる
- ・ コロナが落ちついて外出ができるようになった
- ・ 皆が協力してサポートしてくれている。困った時はすぐに対応してくれる
- ・ 日帰りなら出来そうと思う
- ・ 色々な協力のもと実現している
- ・ 家族の協力
- ・ 付添があれば、
- ・ ショートステイを利用するようになった
- ・ ガイドヘルパーさんを利用することにより、活動範囲もかなり広がったため
- ・ コロナも少しずつおさまりつつあるので、家族が予定をしてくれる
- ・ 旅行先の管轄地元社会福祉協議会や、視覚障害者外出支援グループからのガイドボランティア派遣について事前に相談依頼すれば、その日のみの依頼であればおよそ叶えられる事が多い。ただし、四国巡礼遍路旅のような何日間かの宿泊を要する場合のヘルパーの確保はかなり困難と言われているので
- ・ 聴力は衰えていないのでコンサートは楽しめる

◇実現が難しい理由

- ・ 1人では動けないので周りの人達の協力が必要となるため、その人達との予定が取りにくい
- ・ 暇がない
- ・ 社会状況次第なのでよくわからない
- ・ 半身に麻痺もあるので、移動が大変
- ・ 体調が良くない
- ・ 介護が必要だから
- ・ 体力的に自信ない
- ・ 移動する際に慣れない土地の道路、歩道の段差がまったくわからない。ここから段があると教えてくれる介護がいつも必要
- ・ 出来る仕事がない
- ・ お金とヘルパーの問題
- ・ 視覚障害者を考慮したP C等の不十分なシステム開発
- ・ 各方面に相談をしているが、実現する方法が見い出せない
- ・ 娘を看護する人が居ないので夫婦で出掛ける事が出来ない
- ・ 目が悪いから
- ・ 副作用になったから
- ・ 全盲で生きていくのが辛いから

⑥ 日常生活における工夫点

○ 日常の生活で工夫していることの主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 必要な物は、すぐ手の届く所に置いている
- ・ 家で段差のあるところに目印をつけておく、危ないので軽い食器を使うようにしている
- ・ スクリーンワダー等の活用
- ・ リモートで運動回数を増やした
- ・ 出来るだけ交替で出掛けられる様に心掛けている
- ・ 食事を事前に用意する
- ・ 室内でもマスクをする

⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表3-11及び図3-11のとおりである（複数回答）。

□「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が58.7%、「友達との遊び」が39.1%、「趣味の同好会活動」が28.3%、「障害者団体の活動」が26.1%、「パソコンを利用した社会参加」が21.7%となっている

表3-11 今後やってみたい活動等について

コンサート や映画、ス ポーツなど の鑑賞・見 学	スポーツ教 室、大会な どへの参加	旅行・キャン プ・つりな どの活動	趣味の同 好会活動	ボランティ アなどの 社会活動	障害者団体 の活動	地域活動	パソコンを 利用した社 会参加	友達との 遊び	その他	特にない	回答なし	回答者数
27	8	27	13	5	12	4	10	18	4	8	6	46
58.7%	17.4%	58.7%	28.3%	10.9%	26.1%	8.7%	21.7%	39.1%	8.7%	17.4%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

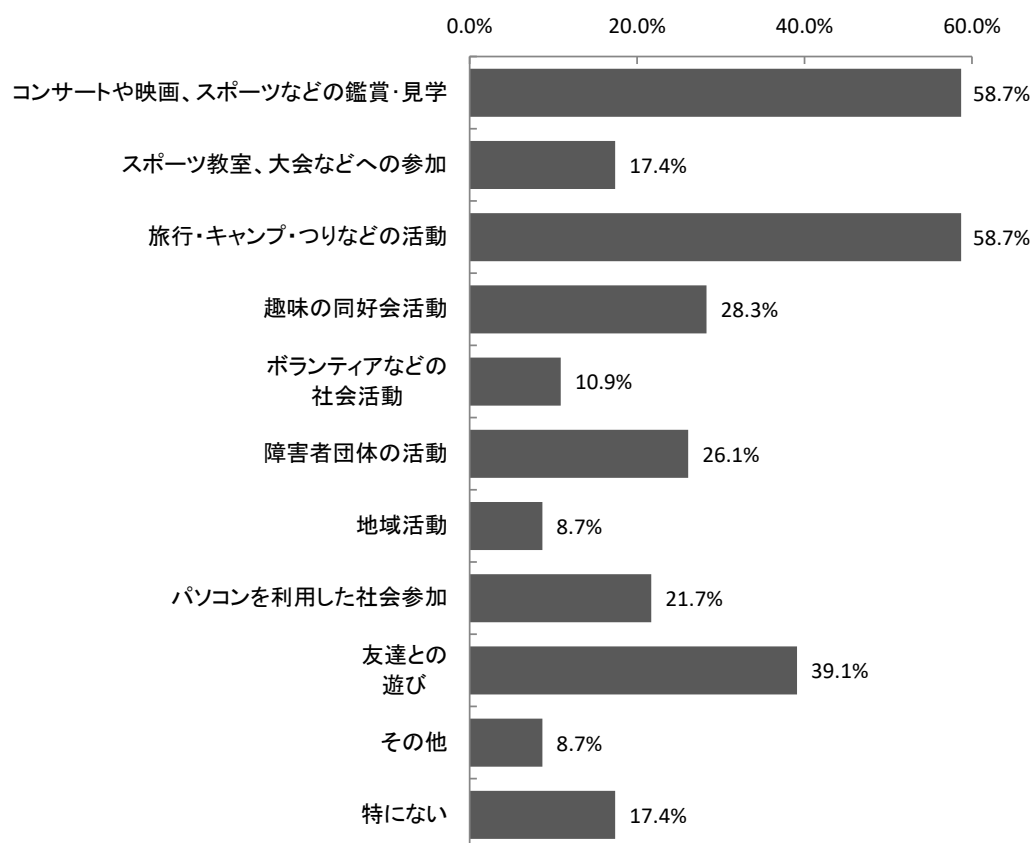


図3-11 今後やってみたい活動等について

⑦ー1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい活動の情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3-12 及び図 3-12 のとおりである（複数回答）。

□「家族・友人」が 73.7%、「インターネット・情報サイト」が 44.7%、「テレビ」が 42.1%、「ラジオ」が 36.8%となっている

表 3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

新聞	テレビ	ラジオ	一般図書	雑誌	録音・ 点字図書	自治体 広報	インター ネット・情報 サイト	家族・友人	その他	回答なし	回答者数
3	16	14	4	2	8	8	17	28	4	0	38
7.9%	42.1%	36.8%	10.5%	5.3%	21.1%	21.1%	44.7%	73.7%	10.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

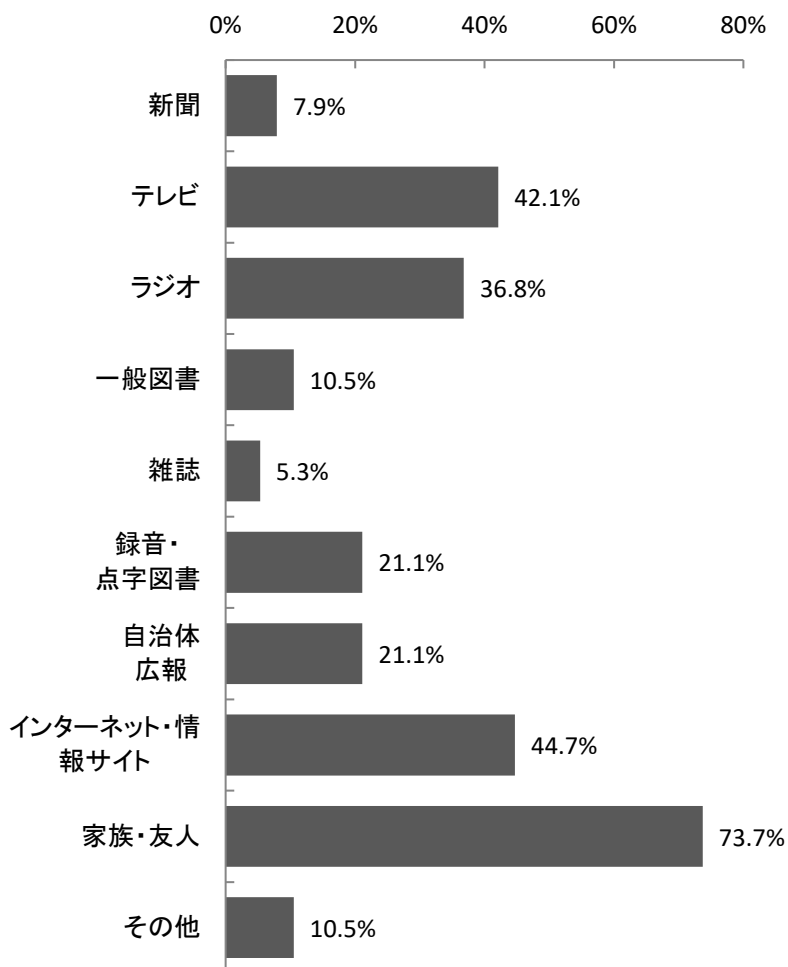


図 3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

■ 福祉サービスについて

⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○ 必要な福祉サービスについての主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇介護サービス（介助者関連）

- ・ 地元の社協でもガイドヘルプサービス事業を縮小している動きがあり、注視している。知人の地元の社協に於いては、同行援護事業を廃止した所もあり、社協のあり方にも一考の余地があると思う

◇制度の充実

- ・ いくら既存のワークアシスタント制度に対する公的助成金があるといっても、未だ現場のニーズに要する公的予算額に至っていない実情で、非常に利用しづらいものがある。ぜひとも障がい当事者が起業する上での在宅・外出時・ワークアシスタントの際のニーズに即せられる支援制度整備に、行政側が予算面、人的養成面で惜しむこと無く投入して欲しい
- ・ 交通機関の利用時、切符を購入するのは困難なため、交通系 IC カードなどのタッチ決裁を障害者割引も実現してほしい
- ・ 生活補助用具への給付金の拡充

◇施設面

- ・ 介護者が感染症になった時の対処施設
- ・ 親なきあとの暮らす場所

◇その他

- ・ 金融機関の職員における代筆及び、ATM・タブレット操作の代行を可能にして欲しい。視覚障がい者も介護タクシーを利用できるようにして欲しい(私の自治体では、車椅使用者のみ介護タクシー利用可)。介護区分の認定(調査項目)が、視覚障がい者に適当なのか疑問。ヘルパーの不足により希望する支援が受けづらい
- ・ 福祉サービスを受けるために必要な書類が多い
- ・ 必要な書類にサインをしたり、窓口に行くことが困難
- ・ 何があるのかわからない
- ・ 福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎ

■ 必要な情報について

⑨ 必要な情報について（複数回答）

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表 3-13 及び図 3-13 のとおりである（複数回答）。

□ 「福祉サービス」「医療」が 53.3%、「年金」「住まい」が 24.4%、「健康づくり」が 22.2%となっている

表 3-13 必要な情報について

福祉サービス	医療	年金	住まい	就職	NPO活動など	健康づくり	趣味・娯楽	相談・資産・運用	学校教育・幼稚園・保育園	その他	特になし	回答なし	回答者数
24	24	11	11	1	3	10	8	7	0	3	9	7	45
53.3%	53.3%	24.4%	24.4%	2.2%	6.7%	22.2%	17.8%	15.6%	0.0%	6.7%	20.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

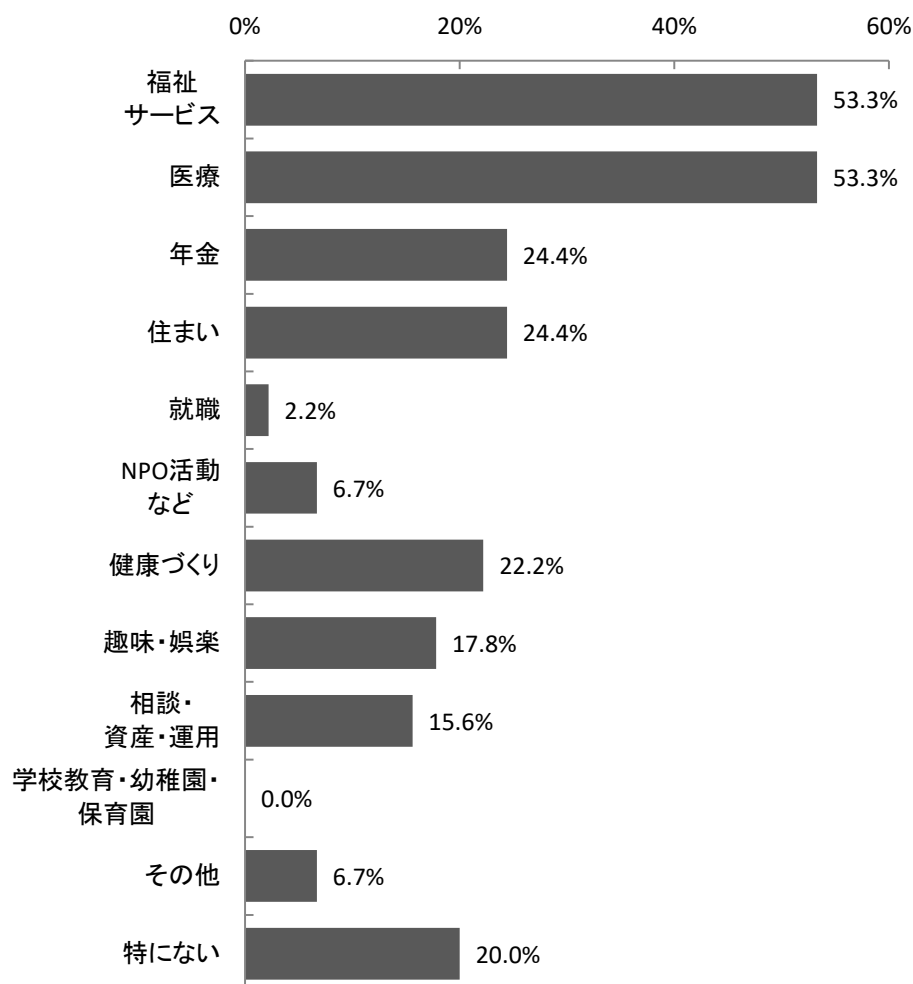


図 3-13 必要な情報について

○具体的に知りたいことの主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・成年後見人について知りたい
- ・福祉サービスの変更情報があると、どのような点がわかるのか分かりにくい時がある
- ・治療等に関する情報を知りたい
- ・親なきあと当事者を見てくれるところ
- ・最新の医療情報
- ・専門医が自分の都道府県にいるのか、呼吸器に対応できる先生がいるのか知りたい
- ・福祉用品、便利なもの
- ・視覚障害第一種２級の本人が受けられる福祉サービス内容を知りたい
- ・目が見えなくても暮しやすい家作り、リノベーション、ＤＩＹ
- ・日常生活用品（ラジカセ）を役場福祉サービスで注文したが、職員にあまり知識がない。もっと勉強してほしい
- ・福祉サービスの手続するために役所に出向く回数が多く面倒であるので、インターネットでお願いしたい

⑨ー1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）

○今必要としている情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3-14 及び図 3-14 のとおりである（複数回答）。

□「家族・友人」が 54.5%、「インターネット・情報サイト」が 51.5%、「ラジオ」が 42.4%、「テレビ」が 39.4%、「自治体広報」が 21.2%となっている

□その他としては「患者会」などをあげている

表 3-14 必要な情報についての情報取得元

新聞	テレビ	ラジオ	一般図書	雑誌	録音・点字図書	自治体広報	インターネット・情報サイト	家族・友人	その他	回答なし	回答者数
6	13	14	1	3	6	7	17	18	9	3	33
18.2%	39.4%	42.4%	3.0%	9.1%	18.2%	21.2%	51.5%	54.5%	27.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

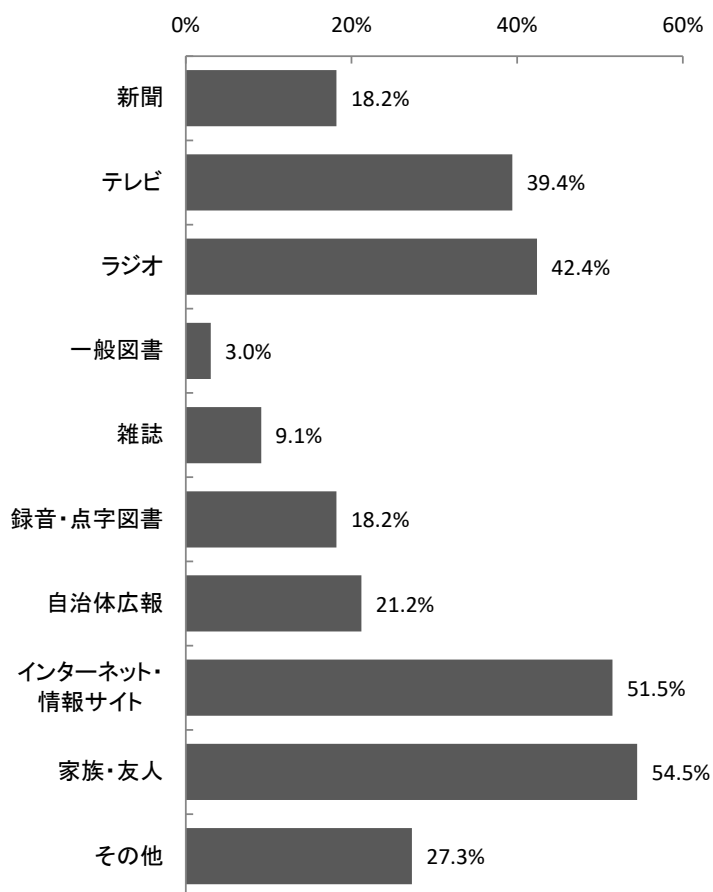


図 3-14 必要な情報についての情報取得元

Ⅲ む す び

むすび

本報告書は、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供のあり方等を検討するための資料を得るため、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

今回を含め、17回に亘り調査を実施してきたところですが、本報告書では、医薬品の副作用による健康被害を受けられた調査研究対象者の方々における、日常生活の様々な工夫の実態が明らかとなっております。

その一方で、スティーヴンス・ジョンソン症候群（SJS）の方にあっては、視機能障害に対するケアが、ライ症候群の方にあっては、四肢機能改善、拘縮予防目的のリハビリのほか、全介助を必要とする場合は、介助を行うご家族の高齢化も懸念されており、患者家族の肉体的、精神的負担に対する医療的な介入が必要となっている状況が視えます。

これらの健康被害を受けられた調査研究対象者及び介助を行うご家族のQOL向上の実現のためには、日常生活における工夫だけではなく、更なる医療的な介入、肉体面・精神面でのケアも必要です。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、継続して調査を実施することとしております。

IV 参 考 資 料

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「2 現在、受けている①②以外の福祉サービス」

内 容	性別	年代
高速道路の割引サービス	女	70 代
障害福祉サービス受給者証の支給	女	80 代
月一度の見守り	女	70 代
自治体の緊急介護人制度	女	70 代
音訳サービス	男	50 代
国民健康保険制度による訪問看護サービス	男	50 代
訪問ボランティアによる片付けサポート	男	50 代
自治体の障害者福祉会館での視覚障害者文字サービス(代読・代筆サポート)	男	50 代
在宅訪問による PC サポート	男	50 代
地域ボランティアによる読み上げサポート	男	50 代
地元公共図書館における蔵書書籍朗読サービス	男	50 代
週一回の訪問薬剤管理サポート	男	50 代
サピエ	女	60 代
自治体の福祉特別乗車券の支給	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「3 障害者総合支援法に基づく福祉サービスで①～④以外のサービス名」

内 容	性別	年代
買い物	女	80 代
家事援助、生活支援、代読・代筆	女	50 代
家事援助 部屋のそうじ	男	50 代
通院のため付添い送迎	男	70 代
ホームヘルパー	女	50 代
家事援助、買い物、朗読CD貸し出、入浴見守り	女	80 代
居宅介助	女	60 代
デイジー図書	女	80 代
家事援助、印刷物やスマホ操作サポート	男	50 代
家事援助 買物 粗大ゴミ出し	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「4 介護保険制度に基づく福祉サービスで①～⑩以外のサービス名」

内 容	性別	年代
居宅介助	女	60 代
デイジー図書	女	80 代
ヘルパー支援	男	20 代
東京小児療育病院入所	男	40 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－2 外出するうえで工夫したこと」

内 容	性別	年代
デイサービスの送迎車を使う	女	70 代
徒歩にする	女	50 代
夏は暑くなるので、車イスに背中からファン（空調）を取りつけた	男	20 代
オムツ、パッドを場所・タイミングによって分けている	男	20 代
車内で食事出来る様に流動食にした	女	40 代
人出の少ない時間に外出する	男	20 代
一人での外出は、家の囲りを散歩するだけにする	女	70 代
消毒薬を持ち歩く	女	60 代
盲導犬を連れる	女	60 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－2 社会参加・社会活動等のきっかけ」

（1．家族、親類 2．友人、知人等 3．患者団体、同好会等 4．情報誌や広告等 5．テレビ、ラジオ
6．インターネット 7．自発的な活動 8．その他（相手不明の誘い含む））

区分	内 容	性別	年代
1	家族旅行	女	50 代
1	子供に連れられて旅行に行った	女	60 代
2	友達の誘いで点字学習・アコーディオン	女	40 代
2	友人に誘って頂けたから	女	60 代
2	知人からの誘い	男	50 代
2	知人からの誘いをうけて	女	60 代
2	友人に誘われて	女	50 代
2	友人に勧められた	女	60 代
2・3	友人や障害者団体からのすすめ	女	70 代
3	視覚障害者福祉協会や視覚障害者情報文化センターからの情報提供	女	50 代
7	以前から行っている	女	70 代
7	少し体力がついてきたため	男	50 代
7	気分転換	男	50 代
7	精神的にも肉体的にも必要	女	40 代
7	コロナ禍で中止になっていたスポーツ教室が再開されたため	男	50 代
7	仕事につながる勉強会等で知識を広めるため	男	50 代
7	知識・見聞を広めるため	男	50 代
7	視覚障害者でも参加出来る講習が増えてきているから	男	50 代
7	社会活動への参加	男	60 代
7	買い物、散歩	男	50 代
8	地域からのお誘いがあった	女	70 代
8	食事ぐらい誘ってもらわないと、どこへも外出しなくなる	男	60 代
8	お誘い	女	80 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「④－2 屋内での生活における工夫」

内 容	性別	年代
テーブルやカウンターなどの上に物を置かない(出したらしまう)	女	70 代
手すりを付けてる	女	70 代
家の中は常に明かりをつけている	女	80 代
茶碗を黒いものに変えた	男	70 代
採光・照明の調節	女	50 代
ネットで音声検索していろいろ楽しんでいる	女	40 代
寝室を2階から1階へ移動した	女	70 代
シャンプーやボディソープ類のボトルの型をそれぞれ変える	女	70 代
もう何年前か前、リフォームをして部屋をバリアフリーにしたり、昇降機をつけて車イスのまま生活しやすいようにしている	男	20 代
出来るだけ車イスに座せる様に気を付けている（寝たきりなので）	女	40 代
ワクチン接種が出来ないので外からのウイルス持込がされない様に気を付けている	女	40 代
最近音声チックが激しいため、どこに居ても声が大きく回りに迷惑かけてます。どうしても窓など閉めがち	男	20 代
移動する事なく、身の回りに取りやすいように好きなアイテムを置いた	男	20 代
よくぶつかる所に、クッションテープを貼った	女	80 代
食器などの整理整頓をしやすい棚の配置、扉はすべて開けておく	女	70 代
スマートスピーカーの使用で、自分の要望が叶えられることもある	男	50 代
探し物タグや物の識別タグを紐付けさせ、屋内の物の置き場や識別をしやすくなっている	男	50 代
床に絨毯などで足の感覚でさぐる	男	80 代
フローアに点字ブロックをはった	男	80 代
エアコンの付け変えで音声の出るものにした。家電に苦労しています	女	60 代
ドアは開けっぱなしにしておくとおぶつかってあぶないので、必ず閉める	女	60 代
ガラス食器は使用后、すぐに片付ける	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤－7 視力以外の状況」

内 容	性別	年代
骨粗鬆症	女	70 代
爪がないため指先に力が入らない。食道が細くなっているため、食べ物をよくかんでも飲み込みづらい、またはつかえてしまうためつまる。食べたい物も食べれない時がある	男	60 代
呼吸器（のど）が不安	女	80 代
硝子体混濁のため5月に某大学病院にて入院手術したのですがその後飛蚊症になり現在もまだ治っていない	女	80 代
胃炎、首と肩が痛い	女	80 代
唾液が少ないので虫歯になりやすい。3ヶ月に一度、ケアしてもらっている	女	70 代
年齢と共に何が起るやら不安です。救済制度のお陰で感謝している	女	70 代
腔萎縮 排泄(肛門)痛 骨密度の減少：皮膚におけるビタミンD生成機能が低下したことも考えられるとのこと(医師の見解)	女	50 代
腰痛。両手の手根管症候群で手術、しびれは残るが痛みは治った	女	70 代
加齢の為の腰痛、高脂血症	女	70 代
少しの運動で心拍数が急増し苦しい	女	70 代
頭痛・化学物質過敏症	女	50 代
首や肩の重度の凝り、全身の関節が痛む	女	50 代
年齢的に将来の身体に不安	女	80 代
脳梗塞による嚥下障害、言語障害など	女	70 代
胃ガンの手術	女	70 代
骨折	女	80 代
便秘があり、夜間腹痛がある	女	80 代
不整脈、ペースメーカー使用	女	60 代
毎日生きるのが大変そう	女	80 代
夜になるとかゆくなり薬を飲み、眼剤を飲むが寝れない	女	80 代
肩こり、主に右の座骨神経痛（リハビリ治療中）	男	50 代
各月1回ずつの心療内科受診（カウンセリング）、整形外科受診時の腹痛部の温湿布・干渉波波リハビリ治療中	男	50 代
座骨神経痛(整形外科でリハビリ治療中)	男	50 代
両腰下肢の座骨神経痛(リハビリ治療中)	男	50 代
精神面で大変	男	80 代
てんかん、片頭痛	男	50 代
貧尿	女	60 代
身体の筋肉や関節が弱ってきている	女	60 代
泌尿器	女	60 代

頭痛や頸の痛み（まぶたが下がっているので頸のうしろが重痛い）	女	60代
リンデロン錠・ボノテオ錠による副作用	女	60代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥－1 主たる介助者の健康状態 詳細」

（1. たいへん良好 2. まあ良好 3. やや悪い 4. たいへん悪い）

区分	内 容	性別	年代
1	特に問題がないから	女	70 代
1	食生活や睡眠の確保が出来ている	男	80 代
1	沢山の方に協力してもらえようになった	男	50 代
1	体力があるため	女	50 代
1	半分やけです	女	60 代
1	病氣してない	女	60 代
2	スポーツ（ヨガ）をしてる	男	70 代
2	皆に助けてもらうから	女	70 代
2	本人が明るいので元気をもらえる	女	70 代
2	介護する必要があるため	男	70 代
2	地域活動が少しずつ開催される様になってきたので、気持ち的に明るくなった	男	30 代
2	コロナ感染に気をつけながら少しずつ生活できている	男	30 代
2	食・運動・休養に気をつけている	女	40 代
2	気をつけているが年齢とともに弱っている事を感じる様になった	女	40 代
2	体調管理に気をつけている	女	70 代
2	あまり負担に感じないから	男	60 代
2	ヘルパーさんが入ってくれたりして、比較的時間を過ごすことができる	男	20 代
2	加齢による体力の衰え	女	40 代
2	ところどころ体痛いですがコロナ感染する事なく過ごせてる	男	20 代
2	歳のせいでつかれもある	男	20 代
2	寝込むことはなかった	女	20 代
2	膝、肩こり（頸椎狭窄の為）、高脂血症 e t c	女	70 代
2	腰痛、膝痛がかなりあるが、日常生活に大きな支障なし	女	70 代
2	特に異状がないので	女	80 代
2	食事と運動に気をつけている	女	70 代
2	息抜きをする場所があるから	女	50 代
3	地域の行事の事で、かわりに自分がやらなければいけない事が増え忙しくなる	男	60 代
3	体力が落ちているのか疲れて仕方がない	男	60 代
3	腰痛	女	80 代
3	今年の夏は暑くて、コロナもあり外出が増々億劫だった。9 月には带状疱疹が発生（右顔面）、年齢と疲れが重なり気持ちが落ち込んだ。	男	30 代

3	仕事が忙しい中で介護をするのがきつい	男	40代
3	腰のあたりの痛み	女	40代
3	転んでしまい歩行がスムーズではない	女	40代
3	腰痛	女	40代
3	介護がしんどくなってきました。自分の事ですら、まともにできない事が増えた	男	20代
3	腰を痛めた	女	20代
3	ギックリ腰、50肩など、体が痛くて大変な時期があった	女	20代
3	血圧上昇。首の捻挫等あり、活動が制約された	女	70代
3	腰痛がひどい。物忘れがだんだん多くなった	女	70代
3	体力低下	男	70代
3	全て会話で情報を伝えないと生活できないので疲れる	男	70代
3	コロナ禍と介護が重なり、休息がとれない	女	50代
3	常に介護が必要なため	女	70代
3	介護量増加、仕事と子供と主人と実父の介護増加、全盲の主人と一緒に苦しい	男	50代
3	介助者も目が悪い	女	60代
3	介護者も高齢のため疲労もある	女	60代
3	自身も障害があり進行しているため	男	50代
4	体調が悪い	男	70代
4	入院色々体調悪し特に足腰が痛い	男	70代
4	コロナに感染した	女	20代
4	介助疲れ	女	50代
4	自分も体調が悪いので介助が辛い	女	50代
4	年齢的にも自分自身の持っている病気もあり、毎日実家に行って介護するのにつかれています	女	80代
4	常に介護が必要なため	女	70代
4	常に介護が必要なため	男	80代
4	視覚状態の悪化	男	50代
4	配偶者の視力障害による視力低下による不安	女	60代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－1 介護をしていく中で、困ったこと」

- （１．精神面に関するもの　２．肉体面に関するもの　３．生活面に関するもの　４．経済面に関するもの
５．その他）

区分	内 容	性別	年代
1	本人もやらなければいけない事ができずにイライラしてしまい、その対処がうまくできずに困る	男	60 代
1	介護者の年齢を重ねるごとにストレス疲労を感じる	男	20 代
1	コロナ下で温泉など本人が楽しめる所に連れて行ってあげられない	女	80 代
1	自分中心の話がばかりで、周りの意見を聞いてもらえず、介護者の生活が少しきつい。痛み、かゆみに対して、ガマンしてくれなくなり大声で訴えるので、介護者がイライラしてしまう	女	80 代
1	24 時間気にかけている	男	80 代
1,2	介護量の増加、メンタル面のサポート増加	男	50 代
2	耳が聞こえない、目が全ったく見えない為大変	男	70 代
2	年齢を重ねていくうちに両親の体力がなくなっている	男	20 代
2	加齢による体力の衰え	女	40 代
2	介護者の体力もなくつらい時がある	男	20 代
2	自分の体調が悪くても毎日介護しなくてはならない	女	20 代
2	腰痛等で介護が苦痛になることがある	女	70 代
2	外出が少なくなって体力が落ちてきた感じがする	女	70 代
2	今まで出来た事が出来なくなってきた	男	80 代
2	介護者も目が不自由	女	60 代
2	介護なしでは歩けない	女	60 代
2,4	自身の障害が年々悪化し、出来る事が減って来ている。経済的にも不安であり我慢することも増えた	男	50 代
3	仕事等で忙しい時に手が足りない。介護にすぐに行けない	女	70 代
3	コンタクト交換に毎日行けない	女	70 代
3	コロナに家族がかからないように常に気にかけていた	男	60 代
3	年齢的にも歩行や一人での暮らしが心配	女	80 代
3	目が離せず長時間 1 人にしておけない	女	70 代
3	音声チックが出始めて、かなり声の大きいので外出で気をつかう	男	20 代
3	契約している短期入所施設がコロナの為閉所している	女	20 代
3	感染症にかかると全てのサービスをお休みして介護を全てしなくてはならない	女	20 代
3	良く見えないので楽しみが少ない	女	70 代
3	他の病気で通院が増えた	女	70 代
3	急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった	女	70 代

3	睡眠が浅い	男	80 代
3	私が用事で留守にする時に、食事の手伝いを頼むのが大変だった	男	50 代
3	仕事と家庭と介護のバランスで困る日々が多い	男	50 代
3	起きてから寝るまで安全にすごせるか毎日が戦いです	男	50 代
4	医療費が高い	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－４ 介護をしていく中で困ったことの解決方法」

内 容	性別	年代
日時を変更してもらった(その時は解決したが、今後はどうかかわからない)	女	70 代
公的な介護制度を利用	女	70 代
チックに関しては医師に相談し投薬してもらった。他の悩みは、障害者家族会で話してガス抜きできた	男	20 代
聞いてもらうと楽になった	男	20 代
ショートステイを利用しながら介護を続ける	女	20 代
上司に相談し解決している	男	80 代
各事業所との連携	男	80 代
入院、手術の際に息子の妻たちがサポートしてくれた	女	70 代
介護保険の要支援の申請を行い、家内の介護保険による家事支援を受け易くなった	女	70 代
話を聞いてもらうだけでも解消される	女	80 代
身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	70 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－5 介護をしていく中で困ったことの解決すると考えられる方法」

内 容	性別	年代
同居、他に交換してくれる人を探す	女	70 代
視力改善、同居	女	80 代
年を重ねていくのは仕方がないことなので、先を見て動けるようにしている	男	20 代
体重の増減が気になっている。食事の調節を周りですていかなないと行けないと思う	男	20 代
気持ちの解決はあっても、目に見える解決はない。どこも人手不足で、福祉全体、運営もきびしい	男	20 代
介護者本人が感染してない場合、入所できる施設を確保できるようにする	女	20 代
本人の自覚が必要	女	70 代
健康被害者の回復、視力はもちろんですが少しでも体力が回復出来ればと考える。また経済的にも不安がなくなればと思う	男	50 代
今後の治療に期待。本人の視力回復	女	60 代
慣れるしかない、生き方を前向きにがんばるのみ	男	50 代
全盲が弱視になってくれないと解決しない	男	50 代
視力が戻らないことには解決しない	男	70 代
S J S との関係が不明の為、解決方法がわからなく難しい	女	70 代
分からない。眼について相談する場が見つからない	女	50 代
わかりません	女	80 代
よくわからない	男	40 代
不明	男	40 代
分らない	女	40 代
分からない	女	80 代
わかりません	男	80 代
解決する気がしない	女	60 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑧－1 主たる介護者を支えるようなもの」

（1. 家族 2. 知人・友人 3. ヘルパー・ボランティア 4. 患者会 5. 公的な機関・制度
6. 趣味・外出など 7. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	本人も含め姉妹と一緒に旅行	女	70代
1	夫にスケジュールを調整してもらい、代理を頼んだ	女	70代
1	兄や夫の支援	女	70代
1	娘達が手助けしてくれる	男	70代
1	孫や友人と過ごすこと	女	70代
1	親戚	女	80代
1	娘、孫が毎日通ってくれる	女	80代
1	家族の存在	男	50代
1・2	家族、知人達で助け合っています	女	80代
1・2・3	ヘルパー・知人・親戚	女	80代
2	友達との食事・おしゃべり	女	70代
2	友人とのおしゃべり	男	60代
2	久しぶりに友人達と旅行に行けた	女	40代
2	友人との食事	女	40代
2	友人	女	20代
2	事業所との情報交換や連携、上司に相談	男	80代
2	友人と遊ぶこと	女	70代
2	友人達が来てくれる	女	80代
2	友人、知人に恵まれている	男	50代
2・6	友人との食事、ライブ、旅行	女	50代
3	デイサービスやホームヘルパーさんなど	男	20代
3	介護サービス	女	80代
3	ホームヘルパーの利用	男	60代
3	同行支援	男	60代
4	障害者の親仲間。話を聞いてもらう	男	20代
4	患者会	男	70代
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	女	70代
5	PMDA からの案内状	男	40代
5	公的制度	女	70代
5	公的制度	男	50代
5	福祉医療費の給付	女	60代
6	気分転換に散歩など	男	50代
7	家族（息子、嫁）の他に、介護保険の生活支援型介助の利用が出来た	女	70代

7	通所リハビリ	女	80 代
---	--------	---	------

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑨ー2 介護者の社会参加・社会活動等のきっかけ」

- （1．家族 2．知人・友人等 3．患者団体、同好会等 4．情報誌や広告等 5．テレビ、ラジオ
6．インターネット 7．自発的な活動 8．その他（相手不明、未区分の誘い含む））

区分	内 容	性別	年代
1	家族旅行	女	50 代
2	友人の誘い	女	80 代
2	友人からの誘いがあるから	女	50 代
7	気分転換、交流のため	女	80 代
7	地域の学校で定期的に体育館が使用できるようになった	男	30 代
7	スポーツジム	女	40 代
7	スケジュールが合って、チケットがとれた	女	70 代
7	気になる映画が公開された	女	70 代
7	運動不足解消、気分転換、体力増強、ダイエットの為	男	60 代
7	興味あるコンサート	女	80 代
7	健康のため	女	70 代
7	買い物、散歩	男	50 代
7	もともと好きな趣味のため	女	50 代
8	学校から誘われた	女	70 代
8	地域の方に誘われた	男	30 代
8	地域包括からの依頼	男	80 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑩－1 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれたこと」

（１．コンサートや映画等の観賞やスポーツ観戦 ２．旅行、外出 ３．趣味 ４．患者団体等の活動
５．地域活動 ６．その他）

区分	内 容	性別	年代
2	遠出をした（ドライブ）	女	70代
2	友人とおしゃべり	男	60代
2	友人との会話	女	80代
2	近くの温泉に行った	女	40代
2	友人との食事会	女	40代
2	話すと気持ちが落ちつく	男	20代
2	外出したり散歩することで気晴らしになっている	男	80代
2	軽いハイキングや友人との会食	女	70代
2	友達と行動しているとき	女	70代
2	健康被害者との散歩、買い物など、健康被害者の苦しいながら毎日生きている姿を見ていると少しは前向きに過ごせる。色々な意味で楽になればと思う	男	50代
2	母と一緒に出かけるのが楽しい	女	50代
3	庭に植えた花が咲いたり、トマトやきゅうり等が収穫できた事	男	60代
3	ヘルパーさんなどに預けられる時はわりきって自分の時間を持つようにした	男	20代
3	ゆっくりと時間を過ごし読書をする	男	80代
3	趣味に専念している時	女	70代
3	散歩で公園を通る時に季節ごとの草花を見て、季節を感じられることが気分転換になっている	女	70代
6	介護人と身の回りを整理することによってすっきりとした気分になった	女	80代
6	日常の生活の中の小さな事で気分転換はできる	男	60代
6	全て自分次第で工夫して可能性が広がり充実した生活が送れるようになった	男	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－1 通院時に注意している点」

内 容	性別	年代
1人では外出できず、必ず親が同伴する	女	40代
自家用車を利用	女	70代
事前にガイドヘルパーを予約し道順を確認しておく	男	80代
SJSの後遺症としての眼の内反症は他人から見た見栄えが悪いことや、屋内外を問わず遮光レンズを着用していると変質者として誤解されることにより、突然暴言を吐かれる、大声で威嚇される、写真を撮られる等、こちらの人権を侵害したり濡れ衣を着させられたりする非常に怖い経験をした。メディア関係者を招いての朗読会後においても、暴言や威嚇・脅迫される体験があった	男	50代
家族が仕事のときはタクシーで通院	女	60代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－2 治療を受けるときに注意している点」

内 容	性別	年代
以前医機構よりいただいた副作用があった。薬などが書いてあるカードを見せる	女	70代
ロキソニンを使えない事を言う	男	60代
できるだけ薬は飲まない	男	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－3 治療を受けるときに困ったこと」

内 容	性別	年代
SJS を知らない医師は少なくなってきたように感じるが、どの程度の理解なのか不安になることが多い。受付の時点で断られたこともある。一方で、医薬品の使用について医師が過度な心配をされ、治療の選択に迷うことがあった	女	50 代
体力的に受診が大変になってきた	男	80 代
手根管症候群の手術をしたが、医師が薬の処分に極端に慎重だった	女	70 代
非結核性抗酸菌症の治療やピロリ菌の治療等抗生物質の薬を長期使用にあたり、医師も自分も怖くて治療できない	女	60 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－4 その他注意している点」

内 容	性別	年代
通院時は予約等により、なるべく混雑を避ける	女	50代
コロナワクチンの接種は止めた	女	40代
寒冷時に手先、足先が冷たくなるのでマッサージや湯タンポを使う様にしている	女	40代
てんかん発作の時の対応	男	20代
入院の時S J Sであることを理解してもらい目薬の投薬をお願いする	女	70代
お薬手帳に禁忌薬(バクター・ボスミン)について記載	男	50代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－1 過去にあった困ったこと」

（1. 外出に関すること 2. 仕事に関すること 3. 日常生活に関すること 4. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	外出の際に介助が必要	女	70 代
1	主人不在時に外出が出来ないことがある	女	70 代
1	買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと	女	70 代
1・3	世の中へ出る移動や歩行が大変。読書が不可能でとても大変	男	50 代
1・3	現在、角膜の状態が悪いので段差が見えにくい。スマホも見えにくい	男	50 代
3	見えにくくなった為に色々出来なくなっている	女	60 代
3	主人が亡くなり全て1人暮らしなので大変。近所の方、友人、福祉の方に助けてもらっている	女	70 代
3	自分の日常生活。高齢の両親との生活	女	50 代
3	加齢による体力の衰えで看護時に体交等の作業が困難になって来た	女	40 代
3	家族がコロナに感染した	女	20 代
3	体調がすぐれない事が多くなった	女	80 代
3	昨年春に母を亡くし、それまで母が家族内の一切を切り盛りしていた公的手続き、相続手続きなどを全て自分が担う事となってから、母親の公正証書遺言や様々な具体的な指示があったものの、体調を崩すぐらいに多忙な日々を送っており、人間関係作りにおいてもうまく行かず、精神的に引きこもってしまう事が多くなった。	男	50 代
3	常に介護が必要な事	男	80 代
3	スマホやP Cでの情報アクセシビリティに制限がある等	女	50 代
3	日常生活が不便	女	60 代
4	視力がかなり悪くなっている	女	80 代
4	視力低下	男	50 代
4	音声チックなどが出だした	男	20 代
4	電話が故障し伝達手段が困難だった（今は復旧）	男	80 代
4	徐々にではあるが、角膜の炎症の頻度が増えている	男	50 代
4	医療費が高い（保護用のコンタクトレンズ等）	女	50 代
4	以前より見え難い	女	80 代
4	投薬の種類が増えた	女	70 代
4	呼吸が苦しい黄砂、PM2.5の影響が大きい。目薬が同じ容器なのに中味は違うものがあり区別が難しい	男	50 代
4	親の老後の心配	女	60 代
4	盲導犬をつれていることで理解されないことがある	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－4 解決策（解決した方）」

（1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他）

区分	内 容	性別	年代
2	薬の調整をした	男	20 代
3	混雑時などでは移動に車イスを利用	女	70 代
3	病院のスタッフに相談して解決した	男	60 代
5	外出の時必ず横に付き添ってもらう。物を購入する時見つけてもらったり、アドバイスがもらえる	女	70 代
5	ヘルパーさんに対応して頂いた	女	80 代
5	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた	女	70 代
6	故障した電話を修理してもらい解決出来た	男	80 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－5 解決策（解決していない方）」

（1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他）

区分	内 容	性別	年代
2	手術	女	80 代
2	新たな治療法や薬剤の利用が出来るようになること	男	50 代
5	家族がコロナに感染した際に、健康被害を受けた本人が感染してなかったら、避難できる施設があると良い	女	20 代
5	外出介助のボランティアやガイドヘルパーを行政が積極的に増して欲しい	女	70 代
5	地元自治体の既存支援制度内のみでは公費による支援給付時間や制約内容に限度があるがため、自分一人での引っ越し準備や、早急の外出支援時にニーズに追いついて行かない事に直面したりしている。もっと公的支援方法に柔軟性を持って、在宅・外出時を問わず利用できる給付時間を増やしてもらえれば大分解決できるように思う	男	50 代
5	環境の良い所への転居	男	50 代
5	コンビニ、スーパー、病院全ての日常がデジタル化されているので、少々のマンパワーで助けてくれればよいと思う	女	60 代
5	社会全体の取組み	女	50 代
6	今のところ、解決策が見当たらない	女	50 代
6	変わらないので解決もしていない	男	40 代
6	解らない	女	40 代
6	よくわからない	女	50 代
6	相談しても視力改善はない	女	80 代
6	私には方法がない	女	70 代
6	できない	男	50 代
6	わからない	女	60 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「④－1 満足度の理由」

（1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満）

区分	内 容	性別	年代
1	各事業所が連携して支援を行っていて、安心が出来ている	男	80代
1	知人が誘ってくれるから	女	50代
2	経済的には誰にも迷惑をかけずに過せる。多小味覚視害はあるが食事はおいしく食べられる。ひとりでは出来る事が限られているのがやや不満です	女	70代
2	周りの皆が手助けしてくれる	男	70代
2	助けて下さる方がいるため	女	70代
2	どうにか健康でいれるため	男	20代
2	身体的にも経済的にも、大きなトラブル、障害がなかった	女	70代
2	目の痛みと心臓の苦しさが、少しずつ良くなってきた	女	60代
3	1人で行動する事ができず、付き添ってくれる人の都合で諦めなければいけない事もあるため	男	60代
3	視力の低下	女	80代
3	身体機能改善の遅れ、視力低下	男	50代
3	コロナで講習会にも行くことがなかった	男	40代
3	全国民と同じでコロナで自由に外出できなかった	女	40代
3	趣味の活動もでき満足できる点もあるが、眼の状態があまり良くないためやや不満とした。	男	50代
3	視力低下により活動が狭くなる	女	80代
3	介護に時間をとられる	女	70代
3	移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う	女	70代
4	その日一日を生活することで精一杯だから。やりたいことがたくさんあるけど、時間的・体力的余裕がなくて、諦めざるを得ないから	女	50代
4	全盲になってしまったので満足いく生活ができていない	男	70代
4	毎日、目が痛くて、生活が困難	女	50代
4	見えないためかなり日常生活に支障きたしている	女	80代
4	生きている事につかれました	女	80代
4	相続時や自分自身のサポートニーズ依頼の際に、周囲から様々な思いがけないクレームやプレッシャーをかけられ、日常生活、健康管理全般にコントロールが効かなくなったりしているため	男	50代
4	体調が悪い、空気が汚い	男	50代
4	見えないこと	女	60代

4	生きていくのが辛いから	男	50 代
4	視力障害による生活上の課題	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤ 日常生活を満足するために一番やりたいこと」

内 容	性別	年代
魚釣り	男	60代
たくさんの花を咲かせたい	女	70代
身の周りの整理	女	50代
今までどおり自宅で生活がしたい	男	80代
コロナもおさまってきたので旅行したい！	女	70代
家族で旅行したい	女	50代
収入を得る	男	50代
体力があれば今以上に仕事をし、楽しみたい	女	60代
気軽に外出したい	女	60代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤－2 一番やりたいことを実現できるかどうか」

（1. 出来ると思う 2. やや出来ると思う 3. あまり出来ないと思う 4. 出来ないと思う）

区分	内 容	性別	年代
1	何人かで出かけるので皆助けてくれる	女	70 代
1	コロナが落ちついて外出ができるようになった	女	40 代
1	皆が協力してサポートしてくれている。困った時はすぐに対応してくれる	男	80 代
1	日帰りなら出来そうと思う	女	60 代
1	色々な協力のもと実現している	男	60 代
1	一緒に行く人がいるから	女	50 代
1	家族の協力	女	60 代
2	昨年連れて行ってくれた事があったので期待を込めて	男	60 代
2	助けてくれる方がいるため	女	70 代
2	コロナが落ち着いてきたため	男	60 代
2	付添があれば、	男	20 代
2	ショートステイを利用するようになった	女	20 代
2	ガイドヘルパーさんを利用することにより、活動範囲もかなり広がったため	男	50 代
2	コロナも少しずつおさまりつつあるので、家族が予定をしてくれる	男	70 代
2	旅行先の管轄地元社会福祉協議会や、視覚障害者外出支援グループからのガイドボランティア派遣について事前に相談依頼すれば、その日のみの依頼であればおよそ叶えられる事が多い。ただし、四国巡礼遍路旅のような何日間かの宿泊を要する場合のヘルパーの確保はかなり困難と言われているので	男	50 代
2	聴力は衰えていないのでコンサートは楽しめる	女	60 代
3	1人では動けないので周りの人達の協力が必要となるため、その人達との予定が取りにくい	男	70 代
3	暇がない	男	30 代
3	社会状況次第なのでよくわからない	男	40 代
3	半身に麻痺もあるので、移動が大変	女	70 代
3	体調が良くない	女	50 代
3	介護が必要だから	女	70 代
3	体力的に自信ない	女	80 代
3	移動する際に慣れない土地の道路、歩道の段差がまったくわからない。ここから段があると教えてくれる介護がいつも必要	女	70 代
3	出来る仕事がない	男	50 代

3	お金とヘルパーの問題	女	60 代
3	視覚障害者を考慮した P C 等の不十分なシステム開発	女	50 代
3	見えないから	女	60 代
4	視力障害	女	80 代
4	各方面に相談をしているが、実現する方法が見い出せない	女	50 代
4	娘を看護する人が居ないので夫婦で出掛ける事が出来ない	女	40 代
4	視力低下による歩行難	女	80 代
4	目が悪いから	男	60 代
4	副作用になったから	女	60 代
4	全盲で生きていくのが辛いから	男	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥ 日常生活で工夫したこと」

（1．生活環境、家屋等の構造の工夫 2．サービスの活用 3．補助器具等の活用 4．生活習慣の工夫
5．精神面の工夫 6．その他）

区分	内 容	性別	年代
1	必要な物は、すぐ手の届く所に置いている	男	80 代
1	家で段差のあるところに目印をつけておく、危ないので軽い食器を使うようにしている	女	70 代
1	スクリーンワーカー等の活用	女	50 代
4	リモートで運動回数を増やした	女	40 代
4	出来るだけ交替で出掛けられる様に心掛けている	女	40 代
4	食事を事前に用意する	女	70 代
4	室内でもマスクをする	男	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望」

（1. 介護サービス（介助者関係） 2. 制度の充実 3. 施設面 4. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	地元の社協でもガイドヘルプサービス事業を縮小している動きがあり、注視している。知人の地元の社協に於いては、同行援護事業を廃止した所もあり、社協のあり方にも一考の余地があると思う	男	50代
2	いくら既存のワークアシスタント制度に対する公的助成金があるといっても、未だ現場のニーズに要する公的予算額に至っていない実情で、非常に利用しづらいものがある。ぜひとも傷害当事者が起業する上での在宅・外出時・ワークアシスタントの際のニーズに即せられる支援制度整備に、行政側が予算面、人的養成面で惜しむこと無く投入して欲しい	男	50代
2	交通機関の利用時、切符を購入するのは困難なため、交通系 IC カードなどのタッチ決裁を障害者割引も実現してほしい	男	50代
2	生活補助用具への給付金の拡充	女	50代
3	介護者が感染症になった時の対処施設	女	20代
3	親なきあとの暮らす場所	男	20代
4	金融機関の職員における代筆及び、ATM・タブレット操作の代行を可能にして欲しい。視覚障がい者も介護タクシーを利用できるようにして欲しい(私の自治体では、車椅子使用者のみ介護タクシー利用可)。介護区分の認定(調査項目)が、視覚障がい者に適当なのか疑問。ヘルパーの不足により希望する支援が受けづらい。	女	50代
4	福祉サービスを受けるために必要な書類が多い	女	70代
4	必要な書類にサインをしたり、窓口に行くことが困難	男	80代
4	何があるのかわからない	女	70代
4	福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎ	女	70代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑨ 今必要な情報について具体的に知りたいこと」

（1. 医療・福祉サービス 2. 年金 3. 趣味・娯楽 4. 住環境 5. 社会活動・就職 6. 経済面
7. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	成年後見人について知りたい	女	50 代
1	福祉サービスの変更情報があると、どのような点が変わるのか分かりにくい時がある	男	40 代
1	治療等に関する情報を知りたい	男	60 代
1	親なきあと当事者を見てくれるところ	男	20 代
1	最新の医療情報	女	50 代
1	専門医が自分の都道府県にいるのか、呼吸器に対応できる先生がいるのか知りたい	女	60 代
1	福祉用品、便利なもの	女	60 代
1	視覚障害第一種 2 級の本人が受けられる福祉サービス内容を知りたい	女	60 代
4	目が見えなくても暮しやすい家作り、リノベーション、D I Y	女	70 代
7	日常生活用品（ラジカセ）を役場福祉サービスで注文したが、職員があまり知識がない。もっと勉強してほしい	男	70 代
7	福祉サービスの手続するために役所に出向く回数が多く面倒であるので、インターネットでお願いしたい	女	70 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

V 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成 13 年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構および財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成 16 年 4 月 1 日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器等の品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成 16 年 4 月 1 日

法人の種別：中期目標管理法人

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和 55 年 5 月 1 日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和 54 年 10 月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成 14 年 12 月 20 日 法律第 192 号）

第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそう等のウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリン等のサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれん等の急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 SJS（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 QOL（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感等の諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境等の広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善等がある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護（ホームヘルプ）

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排泄、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言等日常生活上の世話をを行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士等が訪問して、必要な診療の補助を行うことを指す。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを指す。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護（デイサービス）

在宅の高齢者等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェック等のさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション（デイケア）

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

1 6 短期入所（ショートステイ）

居宅で暮らす要介護者について、介護を行う者の疾病その他の理由により、老人短期入所施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等の福祉施設に短期間入所させ入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話および機能訓練を行うことである。

1 7 移送サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助等を行う送迎サービス。

1 8 同行援護

障害者自立支援法の地域生活支援事業において、視覚障害者が外出する際、その障害者に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行うこと。

1 9 就労移行支援

就労を希望する 65 歳未満の障害者に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上の為に必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着の為に必要な相談、その他の必要な支援を行うこと。

2 0 就労継続支援 A 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

2 1 就労継続支援 B 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(SJS 等用)
第4・四半期分（令和5年1月～令和5年3月）

調査票記入者氏名	本人との関係
----------	--------

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、
切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記
入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて4月1日から4月10
日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

記入例

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな) きこう たろう
氏 名 機構 太郎 性別 ☒ 男 ☐ 女

生年月日 大正
昭和
平成 30年00月00日

自 宅 住 所
(〒100-0013)
東京都千代田区霞が関0-00-0

[電話番号(00) 0000-0000]

[FAX番号(00) 0000-0000]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

視 力 障 害

1 級

級

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏 名 _____ 性別 男 女

生年月日 大正 _____ 年 月 日
昭和 _____
平成 _____

自 宅 住 所
(〒 _____)

[電 話 番 号 (_____) _____]

[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

_____ 級
_____ 級

記入例

A票

(S J S 等用)

生活状況調査票

毎月記入

月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

- | | | | | | |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------|----|----|
| ① ソフトサンティア | ☒ 右眼 | ☒ 左眼 | ② クラビット | 右眼 | 左眼 |
| ③ ヒアレイン | 右眼 | 左眼 | ④ フルメトロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑤ 0.1%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑥ リンデロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑦ 0.3%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑧ 血清点眼 | 右眼 | 左眼 |
| ⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む) | | | | | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| ⑩ 涙点プラグ | ☒ 右眼 | 左眼 | | | |

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

- ① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ
- ② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ
- ③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい:

・遠距離の眼科に通う時の宿泊施設の利用 (ボランティア運営)

A 票

(S J S 等用)

生活状況調査票

毎月記入

1 月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

- | | | | | | |
|---------------------|----|----|----------|----|----|
| ① ソフトサンティア | 右眼 | 左眼 | ② クラビット | 右眼 | 左眼 |
| ③ ヒアレイン | 右眼 | 左眼 | ④ フルメトロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑤ 0.1%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑥ リンデロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑦ 0.3%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑧ 血清点眼 | 右眼 | 左眼 |
| ⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む) | | | | | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| ⑩ 涙点プラグ | 右眼 | 左眼 | | | |

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

- ① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ
- ② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ
- ③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい：

記入例

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複数回答可)

① 同行援護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
② 就労移行支援 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
③ 就労継続支援A型 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
④ 就労継続支援B型 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
⑤ 上記以外のサービス 月に 0 回 (サービス名：)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名：)	上記の理由 必要がない

次頁へ続く ↓

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
① 同行援護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
② 就労移行支援 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
③ 就労継続支援A型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
④ 就労継続支援B型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
⑤ 上記以外のサービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名:)	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複數回答可)

① 訪問介護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・②・・・③・・・④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()		上記の理由 必要がない
② 訪問入浴介護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・②・・・③・・・④ ⑤
		上記の理由 必要がない
③ 訪問看護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・②・・・③・・・④ ⑤
看護内容		上記の理由 必要がない
④ 訪問リハビリ	月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・②・・・③・・・④ ⑤
リハビリ内容		上記の理由 施設のリハビリに通っている
⑤ 居宅療養管理指導	月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・②・・・③・・・④ ⑤
指導内容		上記の理由 必要がない

次頁へ続く↓

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
① 訪問介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
② 訪問入浴介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
	上記の理由
③ 訪問看護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
看護内容	上記の理由
④ 訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤ 居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
指導内容	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

⑥ 通所介護 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容 入浴 食事介助	上記の理由 職員が親切である
⑦ 通所リハビリ 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容 運動機能を訓練	上記の理由 効果が現れない
⑧ 短期入所 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由 必要がない
⑨ 送迎サービス 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容 施設への送迎	上記の理由 月に利用できる回数を増やしてほしい
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容：	上記の理由 どのようなサービスがあるかわからない

⑥ 通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦ 通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑧ 短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨ 送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容：	上記の理由

記入例

答えられる範囲でお答えください。

(5. SJS 専門医への診察回数の状況)

現在、月に何回 S J S 専門医の診察のために通院していますか。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 月に2回以上
- ② 月に1回程度
- ③ 2ヶ月に1回程度
- ④ 3ヶ月に1回程度
- ⑤ 半年に1回程度
- ⑥ 1年に1回程度
- ⑦ その他 (回程度)
- ⑧ 行けていない。

(6. SJS 専門医への通院に係る交通費の状況)

S J S 専門医の診察で通院される際の1回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 1,000 円未満
- ② 1,000 円～10,000 円
- ③ 10,000 円～30,000 円
- ④ 30,000 円～50,000 円
- ⑤ 50,000 円以上
- ⑥ その他 (円)

(7. 入院有無の状況)

今月、S J Sに係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

答えられる範囲でお答えください。

(5. SJS 専門医への診察回数の状況)

現在、月に何回 S J S 専門医の診察のために通院していますか。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 月に 2 回以上
- ② 月に 1 回程度
- ③ 2 ヶ月に 1 回程度
- ④ 3 ヶ月に 1 回程度
- ⑤ 半年に 1 回程度
- ⑥ 1 年に 1 回程度
- ⑦ その他 (回程度)
- ⑧ 行けていない。

(6. SJS 専門医への通院に係る交通費の状況)

S J S 専門医の診察で通院される際の 1 回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 1,000 円未満
- ② 1,000 円～10,000 円
- ③ 10,000 円～30,000 円
- ④ 30,000 円～50,000 円
- ⑤ 50,000 円以上
- ⑥ その他 (円)

(7. 入院有無の状況)

今月、S J S に係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

記入例

(S J S 等用)

B票

生活状況調査票

4 半期毎記入

期	月～	月分	令和	年	月末日現在
---	----	----	----	---	-------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。
(いずれか1つに○を付けてください。)

- ① 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
- ④ 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。
主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
- ④ 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
- ② ある

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きします。
困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。
(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
- ② 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
- ④ 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
- ⑥ 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
- ⑨ 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

次頁へ続く↓

B票

生活状況調査票

4 半期毎記入

IV期	1月～3月分	令和5年3月末日現在
-----	--------	------------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きます。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
2. ある

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きます。

困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

次頁へ続く↓

記入例

次頁に続く↓

記入例

次頁に続く↓

記入例

⑤以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○をつけてください。)

1. 健康被害を受けた人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
③ 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑤ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	まったく 不自由 はない あまり 不自由 はない とても 不自由 見えにくい のでやめた ①..... ②..... ③..... ④.....
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	まったく ない かすかに ある 中くらい ある かなり ある ①..... ②..... ③..... ④.....
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ない ある ①..... ②.....
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ない ある ①..... ②.....

⑤-5 呼吸器領域に関して、診断を受けていますか。
(該当するもの全てに○をつけてください。)

1. 閉塞性細気管支炎
2. 気管支喘息
3. 肺気腫
④ 気管支炎
5. その他 ()

⑤-6 呼吸器に関する症状はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

① 咳、たん
2. 息切れ
3. 酸素の使用
4. その他 ()

次頁に続く↓

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。 (いずれか1つに○をつけてください。) 1. 健康被害を受けた人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答									
⑤ 日常生活についてお聞きます。 (各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)									
⑤-1 ものがみえにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	<table border="0"> <tr> <td>まったく 不自由 はない</td> <td>あまり 不自由 はない</td> <td>とても 不自由</td> <td>見えにくい のでやめた</td> </tr> <tr> <td>①.....</td> <td>②.....</td> <td>③.....</td> <td>④</td> </tr> </table>	まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた	①.....	②.....	③.....	④
まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた						
①.....	②.....	③.....	④						
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快の程度はどのくらいですか。	<table border="0"> <tr> <td>まったく ない</td> <td>かすかに ある</td> <td>中くらい ある</td> <td>かなり ある</td> </tr> <tr> <td>①.....</td> <td>②.....</td> <td>③.....</td> <td>④</td> </tr> </table>	まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある	①.....	②.....	③.....	④
まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある						
①.....	②.....	③.....	④						
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	<table border="0"> <tr> <td>ない</td> <td>ある</td> </tr> <tr> <td>①.....</td> <td>②</td> </tr> </table>	ない	ある	①.....	②				
ない	ある								
①.....	②								
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	<table border="0"> <tr> <td>ない</td> <td>ある</td> </tr> <tr> <td>①.....</td> <td>②</td> </tr> </table>	ない	ある	①.....	②				
ない	ある								
①.....	②								
⑤-5 呼吸器領域に関して、診断を受けていますか。 (該当するもの全てに○をつけてください。) 1. 閉塞性細気管支炎 2. 気管支喘息 3. 肺気腫 4. 気管支炎 5. その他 ()									
⑤-6 呼吸器に関する症状はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。) 1. 咳、たん 2. 息切れ 3. 酸素の使用 4. その他 ()									

次頁に続く↓

記入例

⑤ ー 7 視力・呼吸器以外の状況はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

【皮膚や爪に関する症状】

1. 皮膚のかゆみ、乾燥
2. 瘡痕が残る
- ③ 3. 爪の変異、剥離
4. その他 ()

【内臓機能に関する症状】

1. 高血圧
- ② 2. 粘膜不全(粘膜部分からの出血等)
3. 心肺機能の低下・異常
4. 肝機能の低下・異常
5. 腎機能の低下・異常
6. その他 ()

【聴覚に関する症状】

- ① 1. 音声が聞き取りにくい(難聴)
2. その他 ()

【眼科領域(視力障害以外)に関する症状】

- ① 1. さかさまつげ
2. ドライアイ(涙が出ないなど)
3. 角膜炎の炎症
4. その他 ()

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
- ③ 3. 口の中が乾く(乾きやすい)
4. その他 ()

【精神的な症状】

1. 不安障害
- ② 2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他 ()

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにごございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

⑤-7 視力・呼吸器以外の状況はございますか。（該当するもの全てに○をつけてください。）

【皮膚や爪に関する症状】

1. 皮膚のかゆみ、乾燥
2. 瘢痕が残る
3. 爪の変更、剥離
4. その他（ ）

【内臓機能に関する症状】

1. 高血圧
2. 粘膜不全（粘膜部分からの出血等）
3. 心肺機能の低下・異常
4. 肝機能の低下・異常
5. 腎機能の低下・異常
6. その他（ ）

【聴覚に関する症状】

1. 音声が聞き取りにくい（難聴）
2. その他（ ）

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

1. さかさまつげ
2. ドライアイ（涙が出ないなど）
3. 角膜の炎症
4. その他（ ）

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
3. 口の中が乾く（乾きやすい）
4. その他（ ）

【精神的な症状】

1. 不安障害
2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他（ ）

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにございましたら、お書きください。】

次頁へ続く↓

記入例

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

- ① 主として介護をしている配偶者
 2. 主として介護をしている親
 3. 主として介護をしている兄弟姉妹
 4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
 (3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん 良好	まあ 良好	やや 悪い	たいへん 悪い
①.....	②.....	③.....	④.....

⑥-1 その理由は何ですか。

常に介護が必要なため

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
 困ったことが、

①. 増えた	2. 減った
3. 変わらない	4. 困ったことはない

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|---|------------------|
| 1. 親 (a 父親 ☒ b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 ☒ c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む) | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 | 15. 地域包括支援センター※2 |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん 良好	まあ 良好	やや 悪い	たいへん 悪い
①.....	②.....	③.....	④.....

⑥-1 その理由は何ですか。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|--|------------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む) | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 | |
| 15. 地域包括支援センター※2 | |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

記入例

⑦-3 解決策はありましたか。	① 解決した 2. していない
⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。 身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	
⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。	
⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。 (公的制度、友人・知人、ボランティア等)	① あった 2. なかった
⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。 患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	
⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。 ①. まったくしていない 2. 参加(活動)した	
⑨-1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの1つに○を付けて下さい) 1. 時間的・経済的余裕がなかった ②. 体力的に余裕がなかった 3. その他 ()	
⑨-2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。	
⑨-3 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。) 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会参加 9. 友達との遊び 10. その他 ()	
⑩ 介護をしてく中で、新しい発見や気分転換などはありましたか。	①. あった 2. なかった
⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。 散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている	

記入例

(SJS等用)

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- ☒ 1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況
(SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)

- | |
|--|
| ① 入院中
(いつから入院していますか： から) |
| ② 通院中 (往診含む) (月に 2回) |

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく
- ☒ 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)
3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける)
4. 介護タクシーの利用
5. その他

具体的に書きください：

②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

- ☒ 1. 既往歴(SJSであることなど)を告げる
2. お薬手帳を持参
3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている
- ☒ 4. その他

具体的に書きください：

PMDAが発行しているカードを見せる

②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

- ☒ 1. SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)
2. 薬剤の処方難しい、または万が一副作用が生じた際に処置ができないと言われた。
3. その他

具体的に書きください：

次頁へ続く↓

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況
(SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)

- ① 入院中
(いつから入院していますか： から)
- ② 通院中(往診含む) (月に 回)

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく
2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)
3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける)
4. 介護タクシーの利用
5. その他

具体的にお書きください：

②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

1. 既往歴(SJSであることなど)を告げる
2. お薬手帳を持参
3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている
4. その他

具体的にお書きください：

②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

1. SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)
2. 薬剤の処方難しい、または万が一副作用が生じた際に処置ができないと言われた。
3. その他

具体的にお書きください：

次頁へ続く↓

記入例

②-4 その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- ①. 健康被害を受けた本人
 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
 4. 介護者が回答

- ③ この1年間で困ったことが、
 ①. 増えた 2. 減った
 3. 変わらない 4. 困ったことはない

③-1 困ったことがあった方にお聞きます。それはどんなことですか。

買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
 ※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の7つすべてに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 ①b 母親) 2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
 4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚
 8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師
 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)
 ①2. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
 13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます)
 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1
 15. 地域包括支援センター※2
 16. その他 ()
 17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

②-4 その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

③-1 困ったことがあった方にお聞きます。それはどんなことですか。

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の7/7アベットに○を付けてください。

- | | |
|--|------------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体 (親、家族の会を含みます) | |
| 14. 障害者相談支援センター (相談支援事業者を含む) ※1 | |
| 15. 地域包括支援センター ※2 | |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

記入例

③-3 解決策はありましたか。	①. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
身内の者やヘルパーの方に同伴してもらったことで、解決できた	
③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思っていますか。	
④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。	
1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 ③. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他	
（具体的に書きください）	
⑤-1 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤-2 その理由は何ですか。	
移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば、実現できると思う	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたら書きください。	
・家で段差のあるところに目印をつけておく ・危ないので、軽い食器を使うようにしている	

次頁へ続く↓

③-3 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きます。それはどのような方法で解決しましたか。	
③-5 していないと答えた方にお聞きます。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	
④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①・……②・……③・……④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。 1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他 具体的にお書きください：	
⑤-1 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①・……②・……③・……④
⑤-2 その理由は何ですか。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。	

次頁へ続く↓

記入例

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

- ☒ 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
- 2. スポーツ教室、大会などへの参加
- 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
- 4. 趣味の同好会活動
- 5. ボランティアなどの社会活動
- 6. 障害者団体の活動
- 7. 地域活動
- 8. パソコンを利用した社会活動
- 9. 友達との遊び
- ☒ 10. その他（ スキューバダイビングなどのマリンスポーツ ）
- 11. 特になし

⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可）

- | | |
|--|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| ☒ 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 | |

（福祉サービス）

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

- ☒ 1. 健康被害を受けた本人
- 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる

次頁へ続く↓

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会活動
9. 友達との遊び
10. その他（
11. 特にない

1. 新聞
2. テレビ
3. ラジオ
4. 一般図書
5. 雑誌
6. 録音・点字図書
7. 自治体広報
8. インターネット・情報サイト
9. 家族・友人
10. その他

(

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

次頁へ続く↓

記入例

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- ☒ 1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

- ☒ 1. 福祉サービス
- ☒ 2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
- ☒ 8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特になし

◎具体的に知りたいこと。

治療に関する情報が知りたい

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|---|---|
| 1. 新聞 | ☒ 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | ☒ 8. インターネット・情報サイト |
| ☒ 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

1. 福祉サービス
2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

[]

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書 (ライ症候群等用)

第4・四半期分(令和5年1月～令和5年3月)

調査票記入者氏名	本人との関係
----------	--------

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票(毎月記入用)とB票(四半期ごと記入用)とC票(年1回3月末記入用)と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報
(ふりがな)

氏名大正昭和平成年 月 日性別男 女

生年月日大正昭和平成年 月 日

自宅住所(〒 -)

基本情報

2. 家族構成
同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

年 齢	主介護をしている方に○を付けてください。	3月末日現在
(記入例) 母	(記入例) 60	主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

記入例

1. 健康被害者情報
(ふりがな)

氏名大正昭和平成年 月 日性別男 女

生年月日大正昭和平成年 月 日

自宅住所(〒 -)

基本情報

2. 家族構成
同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

年 齢	主介護をしている方に○を付けてください。	3月末日現在
(記入例) 母	(記入例) 60	主介護をしている
(記入例) 父	(記入例) 65	主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている
		主介護をしている

3. 障害の種類・程度

級

級

生活状況調査票

A票

毎月記入

1 月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。
(福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

①訪問介護	月に 日 (回)	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 []						
②訪問入浴介護	月に 日 (回)	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
③訪問看護	月に 日 (回)	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
看護内容	上記の理由					

④訪問リハビリ	月に 回	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
リハビリ内容	上記の理由					
⑤居宅療養管理指導	月に 回	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
指導内容	上記の理由					
⑥通所介護	月に 回	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
⑦通所リハビリ	月に 回	満足 ①・・・・②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや満足 ②・・・・③・・・・④・・・・⑤	やや不満足 ③・・・・④・・・・⑤	不満足 ④・・・・⑤	利用していない ⑤
リハビリ内容	上記の理由					

生活状況調査票

日票

4半期毎記入

IV期	1月～3月分	令和5年3月末日現在
-----	--------	------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただけた方についてお答え下さい。

- (いずれか1つに○を付けてください。)
- 1. 健康被害を受けた本人
 - 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
 - 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
 - 4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか、(いずれか1つに○を付けて下さい。)

(外出には通園・通学を含みます。以下の質問も同じ。)

- 1. はい毎日
- 2. 週に4から5回
- 3. 週に2から3回
- 4. 月に2から3回
- 5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きします。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1. 介助なし
- 2. 配偶者
- 3. 親
- 4. 子供
- 5. その他の家族
- 6. 親戚
- 7. ホームヘルパー
- 8. 隣人・知人
- 9. 雇人
- 10. ボランティア
- 11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

- 1. ない
- 2. ある

②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。

困ること又は不満に思うことは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1. 介助者がいない
- 2. 経費がかかる
- 3. 人の目がかかる
- 4. 人と話することが困難
- 5. 外出に必要な情報が得られない
- 6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
- 7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
- 8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
- 9. 人の視線や車に身の危険を感じる
- 10. 駅などにおける人間関係のトラブル
- 11. その他 ()

②-2 外出するうえで工夫したことは何ですか。

③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしてしましたか。

- 1. まったくしていない
- 2. 参加(活動)した

③-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

- 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
- 2. スポーツ教室、大会などへの参加
- 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
- 4. 趣味の同好会活動
- 5. ボランティアなどの社会活動
- 6. 障害者団体の活動
- 7. 地域活動
- 8. パソコンを利用した社会参加
- 9. 友達との遊び
- 10. その他 ()

④ 屋内での生活で工夫したことがありますらお書きください。

次頁に続く

(主たる介護者の状況)

⑤以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん 良好 ①.....②.....③.....④.....
まあ 良好 悪い
よい 悪い 悪い

⑥-1 その理由は何か。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、 1. 増えた 2. 減った
3. 変わらない 4. 困ったことはない

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 b 母親) 2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市 (区) 役所 d 民生委員
e 身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体 (親、家族の会を含む)
14. 障害者相談支援センター (相談支援事業者を含む) ※1 15. 地域包括支援センター※2
16. その他 ()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市町村に設置されている。
※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市町村に設置されている。

⑦-3 解決策はありましたか。 1. 解決した 2. していない

⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。

⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等) 1. あった 2. なかった

⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。

⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加 (活動) などを行いましたか。

1. まったくしていない
2. 参加 (活動) した
(該当するもの全てに○を付けてください。)

⑨-1 参加 (活動) した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他 ()

⑩介護をしていく中で、新しい意見や気分転換などが
はかれましたか。 1. あった 2. なかった

⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。

記入要領

この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月10日までの間に提出してください。

記入例

生活状況調査票	
氏名	性別
氏名	性別
1. 現在住んでいる場所（市町村） 2. 現在住んでいる場所（市町村） 3. 現在住んでいる場所（市町村） 4. 現在住んでいる場所（市町村） 5. 現在住んでいる場所（市町村） 6. 現在住んでいる場所（市町村） 7. 現在住んでいる場所（市町村） 8. 現在住んでいる場所（市町村） 9. 現在住んでいる場所（市町村） 10. 現在住んでいる場所（市町村） 11. 現在住んでいる場所（市町村） 12. 現在住んでいる場所（市町村） 13. 現在住んでいる場所（市町村） 14. 現在住んでいる場所（市町村） 15. 現在住んでいる場所（市町村） 16. 現在住んでいる場所（市町村） 17. 現在住んでいる場所（市町村） 18. 現在住んでいる場所（市町村） 19. 現在住んでいる場所（市町村） 20. 現在住んでいる場所（市町村） 21. 現在住んでいる場所（市町村） 22. 現在住んでいる場所（市町村） 23. 現在住んでいる場所（市町村） 24. 現在住んでいる場所（市町村） 25. 現在住んでいる場所（市町村） 26. 現在住んでいる場所（市町村） 27. 現在住んでいる場所（市町村） 28. 現在住んでいる場所（市町村） 29. 現在住んでいる場所（市町村） 30. 現在住んでいる場所（市町村） 31. 現在住んでいる場所（市町村） 32. 現在住んでいる場所（市町村） 33. 現在住んでいる場所（市町村） 34. 現在住んでいる場所（市町村） 35. 現在住んでいる場所（市町村） 36. 現在住んでいる場所（市町村） 37. 現在住んでいる場所（市町村） 38. 現在住んでいる場所（市町村） 39. 現在住んでいる場所（市町村） 40. 現在住んでいる場所（市町村） 41. 現在住んでいる場所（市町村） 42. 現在住んでいる場所（市町村） 43. 現在住んでいる場所（市町村） 44. 現在住んでいる場所（市町村） 45. 現在住んでいる場所（市町村） 46. 現在住んでいる場所（市町村） 47. 現在住んでいる場所（市町村） 48. 現在住んでいる場所（市町村） 49. 現在住んでいる場所（市町村） 50. 現在住んでいる場所（市町村） 51. 現在住んでいる場所（市町村） 52. 現在住んでいる場所（市町村） 53. 現在住んでいる場所（市町村） 54. 現在住んでいる場所（市町村） 55. 現在住んでいる場所（市町村） 56. 現在住んでいる場所（市町村） 57. 現在住んでいる場所（市町村） 58. 現在住んでいる場所（市町村） 59. 現在住んでいる場所（市町村） 60. 現在住んでいる場所（市町村） 61. 現在住んでいる場所（市町村） 62. 現在住んでいる場所（市町村） 63. 現在住んでいる場所（市町村） 64. 現在住んでいる場所（市町村） 65. 現在住んでいる場所（市町村） 66. 現在住んでいる場所（市町村） 67. 現在住んでいる場所（市町村） 68. 現在住んでいる場所（市町村） 69. 現在住んでいる場所（市町村） 70. 現在住んでいる場所（市町村） 71. 現在住んでいる場所（市町村） 72. 現在住んでいる場所（市町村） 73. 現在住んでいる場所（市町村） 74. 現在住んでいる場所（市町村） 75. 現在住んでいる場所（市町村） 76. 現在住んでいる場所（市町村） 77. 現在住んでいる場所（市町村） 78. 現在住んでいる場所（市町村） 79. 現在住んでいる場所（市町村） 80. 現在住んでいる場所（市町村） 81. 現在住んでいる場所（市町村） 82. 現在住んでいる場所（市町村） 83. 現在住んでいる場所（市町村） 84. 現在住んでいる場所（市町村） 85. 現在住んでいる場所（市町村） 86. 現在住んでいる場所（市町村） 87. 現在住んでいる場所（市町村） 88. 現在住んでいる場所（市町村） 89. 現在住んでいる場所（市町村） 90. 現在住んでいる場所（市町村） 91. 現在住んでいる場所（市町村） 92. 現在住んでいる場所（市町村） 93. 現在住んでいる場所（市町村） 94. 現在住んでいる場所（市町村） 95. 現在住んでいる場所（市町村） 96. 現在住んでいる場所（市町村） 97. 現在住んでいる場所（市町村） 98. 現在住んでいる場所（市町村） 99. 現在住んでいる場所（市町村） 100. 現在住んでいる場所（市町村）	

生活状況調査票

C部

第1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況	① 入院中 (いつから入院していますか： から) 回)
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。	
②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。 1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく 2. 通院時にはヘルパー等同行を依頼する(一人では外出しない) 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける) 4. 介護タクシーの利用 5. その他 [具体的にお書きください]	
②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。 1. 既往歴を告げる 2. お薬手帳を持参 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている 4. その他 [具体的にお書きください]	
②-3 その他注意している点	

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、	1. 増えた 3. 変わらない 2. 減った 4. 困ったことはない
③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。	
③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可) ※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の7777に○を付けてください。 1. 親(a父親 b母親) 2. 配偶者(a夫 b妻) 3. 子供(a息子 b娘 c娘の夫 d息子の妻) 4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚 8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師 11. 公的機関の職員等(a身体障害者更生相談所 b福祉事務所 c市(区)役所 d民生委員 e身体障害者相談員) 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます) 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 15. 地域包括支援センター※2 16. その他() 17. 相談する人はいない ※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。 ※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。	
③-3 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	

次頁へ続く

④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。 1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動(患者会の活動も含む) 5. その他 具体的に教えてください:	
⑤-1 実現できそうですか。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤-2 その理由は何か。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありますか。	
⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するものを全てに○を付けてください。(複数回答可) 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ教室、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会活動 9. 友達との遊び 10. その他 () 11. 特にない	
⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するものを全てに○を付けて下さい。(複数回答可) 1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他 ()	

(福祉サービス)	
⑥ 以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いづれか1つに○を付けてください。)	
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。	
(必要な情報)	
⑥ 以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いづれか1つに○を付けてください。)	
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するものを全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)	
1. 福祉サービス 2. 医療 3. 年金 4. 住まい 5. 就職 6. NPO活動など 7. 健康づくり 8. 趣味・娯楽 9. 相談・支援・運用 10. 学校教育・幼稚園・保育園 11. その他 () 12. 特にない	
⑨ 具体的に知りたいこと。	
⑥-1 その情報はどこから得ますか。該当するものを全てに○を付けてください。(複数回答可)	
1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他 ()	

この報告書は、調査対象者が答へられた範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票(票 毎月記入用)、B票(四半期記入用)及びC票(年1回3月末記入用)と併せて、4月1日から4月10日までの間に提出してください。

[illegible]

VII 健康状態報告書（診断書様式）

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

D票

(S J S 医師記入用)

年1回記入

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

(測定日： 年 月 日)		
① 視 力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)		
	裸 眼	矯 正
右 眼		
左 眼		
② 所 見 (必要なときは適宜図示してください。)		
前 眼 部 所 見	中 間 透 光 体 所 見	眼 底 所 見
右	右	右
左	左	左

③ 視 野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)	
左	右

④ QOL（生活の質）の改善のために医学的にできることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQOL改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医 師 氏 名

所 在 地 〒

電 話 番 号

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

D票

(ライ症候群医師記入用)

年1回記入

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年	月	日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	---	---	---	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能：自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ロ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

ウ 運動機能障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか一つを○で囲んでください。）

- | | |
|------------------------------|--|
| ●食事 | ひとりでできる・介助があればできる・経管栄養等 |
| ●用便（月経）の始末 | ひとりでできる・介助があればできる・オムツ |
| ●入浴・洗面・衣服の着脱 | ひとりでできる・介助があればできる |
| ●簡単な買物 | ひとりでできる・介助があればできる・できない |
| ●家族との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●家族以外の者との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●刃物・火等の危険 | わかる ・少しはわかる ・わからない |
| ●戸外での危険（交通事故等）から身を守る | 守れる ・不十分ながら守れる・守れない |
| ●その他（ ） | |

⑤ QOL（生活の質）の改善のために医学的にできることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医 師 氏 名

所 在 地 〒

電 話 番 号

Ⅷ 自由欄に記載されたお悩み事項についての F A Q

自由欄に記載されたお悩み事項についてのFAQ

○介護関係

・ 仕事でとても忙しい上に、つかれて帰ってきても介助をしなくてははいけない。
⇒お仕事に加え、日々介助のご負担が重くかかっていることのご苦勞をお察しいたします。あまりに負担が大きい場合、お一人で抱えず周囲のサポートを受けることをご検討されてはいかがでしょうか。まずは何が一番たいへんだと感じておられるか、整理してみることから始めてみるのも一つの方法かと思います。

・ 仕事の都合で介助できないことがある
・ 急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからない。
・ 介護者の具合が悪い時（インフル等）でも頼ることができるサービスを教えてほしい。

⇒お仕事や急用、ご病気などで介助ができなくなるのは仕方のないことです。日頃からピンチヒッターを依頼する準備をなさっておくと、介助をなさる方のみならず、受ける方も安心のはずです。ご年齢や障害の程度に応じてサービスの枠が異なりますので、お住まいの自治体にお問い合わせください。

・ 私が利用出来る福祉サービスは主に同行援護であるが依頼等での利便性を良くしてほしい

⇒同行援護の依頼に際して利便性がよくないのですね。時間調整が難しい、あるいはヘルパーの手立てが容易でないといった内容でしょうか。事業所により利便性の差があるようです。具体的な内容について、自治体の障害担当窓口にご相談されてはいかがでしょうか。

・ ガイドヘルプサービスの充実や視力障害者に特に配慮した老令者住宅を充実してほしい。

⇒ご指摘の通り、ガイドヘルプサービスの充実はより一層進んでほしいところです。視力障害者に特に配慮した高齢者住宅についてですが、昨今、一般的な介護保険適用の高齢者施設に、視力障害者が入所されているケースは多いようです。近隣の施設に視力障害が入所されているか、情報収集されてみるのも良いかもしれません。

・ 介護について、どんなサービスを利用できるか情報がほしい

⇒介護については、介護保険の枠、あるいは障害者支援の枠において、外出支援（同行援護や移動支援など）・生活支援（身体介護や、洗濯掃除など家事援助）・施設介護（施設入所や短期入所、デイサービスやリハビリテーション）

など多彩なメニューが用意されています。何のサービスを希望されるかまず整理されてはいかがでしょうか。

- ・ 親が亡くなった後の調査協力本人に対しての支援について教えてほしい。
⇒社会福祉協議会で行なっている「日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）」や、各自治体で行なわれている障害者サービス「意思疎通支援」などを利用されてはいかがでしょうか。

【その他参考】

既に受給されている方もいらっしゃると思いますが、SJSが発症し後遺症が残った場合は、障害者認定を受けることをお勧めします。障害者認定には障害の程度によって段階があり、その段階によって障害基礎年金、障害厚生年金など、様々な保護を受けることができます。

代表的なものとして

- ・ 国民年金(障害基礎年金)
- ・ 厚生年金保険(障害厚生年金)
- ・ 医療費の軽減
- ・ 補装具の交付
- ・ 交通機関の割引

などがあります。また、他にも自治体によって受けられる保護もありますので、詳しくは各自治体までお問合せください。（SJS患者会HPから）

介護や介助を必要とされる場合、ご年齢やご状況により、障害福祉サービスや介護保険制度が利用できる場合があります。まずはお住まいの市区町村にご相談ください。代表的なサービスとしては、居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護（視覚障害の方の外出の際の情報提供や介護）、短期入所（ショートステイ）などがあります。

- ・ 障害福祉サービス

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/service/naiyou.html

- ・ 介護保険サービス

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000608309.pdf>

◆介護保険と障害福祉で同じサービスがある場合（例：ホームヘルプなど）、65歳以上の方は原則として介護保険サービスの利用が優先です。

○外出に対する対応

- ・ 旅行をサポートしてくれるようなサービスがほしい。
- ⇒移動支援サービスのほか、ボランティア団体でそのような企画をしていることもあるようです。一度ボランティアセンター等に相談されてはいかがでしょうか。

○日常生活に関すること

- ・ 手紙や公的機関からのお知らせ・通知の内容を確認することが難しい。
- ⇒公的機関からのお知らせについては、電子メールでも送信してもらうようご依頼されてはいかがでしょうか。電子メールであればコンピュータや電話機が読むことが可能になると考えます。

【その他参考】

少子高齢化対策として地域内で高齢者を支える地域包括ケアシステムがあります。高齢者が要介護になっても住み慣れた地域で過ごせるように、「住まい」「介護」「医療」「予防」「生活支援」といった必要なサービスを、地域一帯となって提供する体制を目指しています。2025年をメドに整備が進められていますが、この地域の中核機関として設置されているのが地域包括支援センターです。地域包括支援センターは、在宅介護支援センターの運営法人や社会福祉法人、社会福祉協議会、医療法人、民間企業、NPOなどが市町村から委託を受けて運営しています。各センターには、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3つの専門職、またはこれらに準じる者が必ず配置されています。「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント」「総合相談」「権利擁護」の4つを業務の柱として、地域に住む高齢者に加え、その支援や介護に携わっている方々を支える役割を果たしています。地域包括支援センターは、前述の通り、高齢者のためのよろず相談所のような性格を持っています。例えば、「近所の一人暮らしのおじいちゃんの姿を最近、見ないんだけど」「お隣の老夫婦の家にゴミがたまって困る」といったように、地域住民からの相談も受け付けています。もちろん、要介護認定の申請や、介護サービスの手続き、介護サービスの事業所の紹介など、介護サービスにかんする最初の窓口としても機能しています。責任主体は各自治体になりますので、お住まいの市町村で設置の有無等を確認の上、ご活用下さい。（厚生労働省等のHPから）

- ⇒iPadを利用して意思ツールとして使うと便利。（調査研究の自由記載から）
- ⇒ラジオから日常の情報を得る。（調査研究の自由記載から）
- ⇒家で段差のあるところに目印をつけておく。身の回りに必要なものを揃える。（調査研究の自由記載から）
- ⇒危ないので軽い食器を使うようにしている。（調査研究の自由記載から）

⇒最近は家庭内でのA I スピーカー利用の応用で音声指示により家電リモコンでエアコン操作やネット動画視聴、地方の放送局の視聴などがとても容易になり、情報も入手しやすくなっている。（調査研究の自由記載から）

⇒食材を切る時に見やすくなる為、黒いまな板を使っている。（調査研究の自由記載から）

○経済的な不安

・ 就業していな為、一定の収入がなく障害者基礎年金や機構からの謝金だけで生活していくしかない。

⇒就労移行支援で訓練中のビジネスP Cスキルを生かして、企業内ヘルスキーパーへの就職をした。（調査研究の自由記載から）

⇒就業を希望される場合、障害者雇用などの制度を利用して、障害や体調への配慮を受けながら働くことができる場合があります。ハローワークの専門援助窓口や障害者就業・生活支援センターなどへご相談ください。

障害者雇用のために必要な障害者手帳の取得については主治医や各市区町村の窓口へご相談ください。

○その他

・ 映画で視力障害者用の解説（音声）サービス、プールでの助泳者派遣を行ってほしい。

⇒市区町村で行なっている、障害者向けの、意思疎通支援、移動支援サービスが利用できないか、ご確認されてはいかがでしょうか。

・ 将来、グループホームに入りたいけど無いです。簡単にはつくれない。

⇒おっしゃる通り、簡単にはグループホームは作れないと考えます。お住まいの市区町村にグループホームがない場合、近隣の市区町村にないか、確認されてはいかがでしょうか。

・ 視力障害者が受けられるサービスを教えてほしい。

⇒まずはお住まいの自治体にご相談ください。代表的なサービスとしては、居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護（視覚障害の方の外出の際の情報提供や介護）、短期入所（ショートステイ）などがあります。

・ おなじ仲間がどうやって暮しているのか情報共有したい。

⇒患者会にご相談されてはいかがでしょうか。

（全体に対して：よろしければ「副作用被害救済制度保健福祉相談窓口」もご利用ください。患者様およびそのご家族からの精神的なケアや福祉面でのご相談を当機構の

精神保健福祉士または社会福祉士が承っています。
(0120-709-566) 平日 9 時～ 5 時